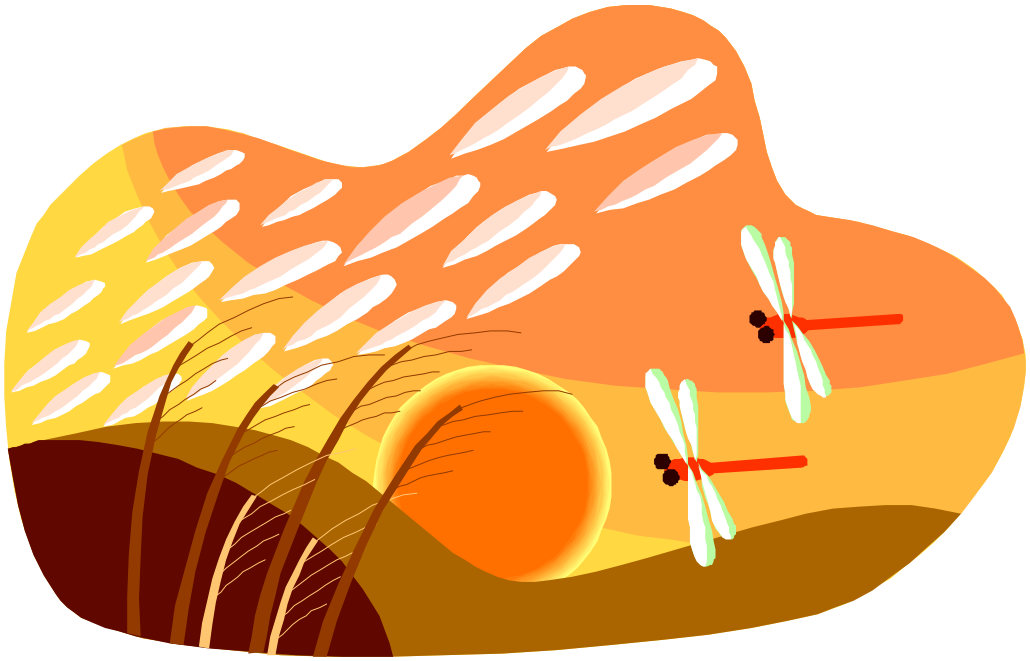
平成 23 年度

セカンドスクール・プレセカンドスクール

実施報告書



平成 24 年3月

武蔵野市教育委員会

もくじ

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯 …… 2

セカンドスクール実施要綱 …… 4

プレセカンドスクール実施要綱 …… 5

セカンドスクール実施地の変遷 …… 6

プレセカンドスクール実施地の変遷 …… 8

平成23年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表 …… 9

各小中学校の日程及び主な活動内容

＜小学校セカンドスクール＞

第一小学校 …… 12
第二小学校 …… 18
第三小学校 …… 24
第四小学校 …… 30
第五小学校 …… 36
大野田小学校 …… 42
境南小学校 …… 48
本宿小学校 …… 54
千川小学校 …… 60
井之頭小学校 …… 66
関前南小学校 …… 72
桜野小学校 …… 78

＜中学校セカンドスクール＞

第一中学校 …… 86
第二中学校 …… 90
第三中学校 …… 94
第四中学校 …… 98
第五中学校 …… 102
第六中学校 …… 106

＜プレセカンドスクール＞

第一小学校 …… 112
第二小学校 …… 116
第三小学校 …… 120
第四小学校 …… 124
第五小学校 …… 128
大野田小学校 …… 132
境南小学校 …… 136
本宿小学校 …… 140
千川小学校 …… 144
井之頭小学校 …… 148
関前南小学校 …… 152
桜野小学校 …… 156

セカンドスクール・プレセカンドスクール実施に関する経緯

○平成元年度 ・武蔵野市学校経営検討委員会「生き生きとした子どもの育成を目指し、地域と一体になって進める学校づくり」（報告書）でセカンドスクールを提言。
・武蔵野市セカンドスクール構想委員会発足。

○平成２年度 ・セカンドスクール構想委員会「武蔵野市セカンドスクール構想報告書」で基本的な構想と予想される問題等についてまとめる。

○平成３年度 ・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会発足。

○平成４年度 ・“夏季山村生活体験学習”（セカンドスクール試行期間中の名称）として、長野県八坂村にて夏休み期間中に６泊７日で試行。小学校６年生と中学校１年生を対象に募集し、30名が参加して行われる。
・武蔵野市セカンドスクール構想策定委員会「武蔵野市・セカンドスクールの実施に向けて」（報告書）で具体的な活動内容・方法等についてまとめる。

○平成５年度 ・対象学年・活動内容・宿泊日数等を検討するため、セカンドスクール構想による“山村生活体験教室”（セカンドスクール試行期間中の名称）として、岩手県遠野市にて夏休み期間中に12泊13日で試行。小学校４年生から中学校２年生を対象に募集し、100名が参加して行われる。
・対象学年を小学校５年生、中学校１年生が適当であるとの結論を出す。

○平成６年度 ・市内小中学校教員から構成される「セカンドスクール推進委員会」を設置し、教育課程に位置付ける要件等の検討を行うとともに、教材テキスト等を作成。
・小学校５年生と中学校１年生の教育課程に位置付けるために必要な要件を検討するため、岩手県遠野市にて、前年度と同様に試行。

○平成７年度 ・小学校全13校が学期期間中に岩手県遠野市、長野県高遠町、富山県利賀村、新潟県小国町、山梨県中富町・高根町の６か所で、３泊４日～７泊８日で実施。
・中学校は全６校の１年生から希望者（70名）を募り、合同で夏季休業中に長野県豊科町において、６泊７日で実施。

○平成８年度 ・小中学校全18校が学期期間中に実施。
・「セカンドスクール教材開発委員会」を設置し、提言されている総合学習に趣旨が生かされるように教材開発を行い、「セカンドスクール教材・事例集」を作成。

○平成９年度 ・「セカンドスクール教材・事例集」を参考に、各学校が年間指導計画の作成、学習内容の変更などの工夫を図り、実施場所の特性を生かした活動内容を模索した。

○平成10年度 ・各学校が、平成14年度から創設される『総合的な学習の時間』を見据えた活動内容を模索し、創意工夫した実践を試みた。

○平成14年度 ・「武蔵野市セカンドスクール充実検討委員会」を設置。さらなる充実・発展に向けて検討し、「報告書」にまとめる。

○平成15年度 ・小学校４年生を対象としたプレセカンドスクール＊を４校にて試行。

＊プレセカンドスクール・・・セカンドスクールでの学習効果を更に高めることを目的とした、小学校４年生を対象として行う短期宿泊体験学習。

・武蔵野市のセカンドスクールが、第１回オーライ！ニッポン大賞に選定される。

○平成16年度 ・プレセカンドスクールを10校にて試行。

・「セカンドスクール10周年記念フォーラム」を武蔵野公会堂にて開催。

○平成17年度 ・プレセカンドスクールを小学校全12校にて実施。

・「体験活動検討委員会」を設置。

○平成19年度 ・教育を取り巻く国の動きや社会の変化に適応するための課題を整理・検討し、「武蔵野市体験活動検討委員会報告書」にまとめる。

○平成20年度 ・文部科学省、農林水産省、総務省の３省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第三小学校、第四小学校、本宿小学校、千川小学校、桜野小学校、第一中学校が対象となった。

・学習指導要領改訂を踏まえ、教育課程検討委員会において、セカンドスクール等の教育課程への位置付けに関する見直しを行った。

○平成21年度 ・新型インフルエンザ流行により、小学校２校でセカンドスクール（桜野小）、プレセカンドスクール（境南小）の日程を変更し、実施日数、活動内容を変更して行った。

・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の３省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、第二小学校、第五小学校、大野田小学校、境南小学校、本宿小学校、井之頭小学校が対象となった。

○平成22年度 ・麻しんの影響で第三中学校が日程を変更した。

・昨年に引き続き、文部科学省、農林水産省、総務省の３省合同による「子ども農山漁村交流プロジェクト」が実施され、「豊かな体験活動推進事業」の委託校として、第一小学校、境南小学校、千川小学校が対象となった。

・東京都の「小学校における自然体験活動プログラム開発支援事業」が実施され、委託校として、関前南小学校が対象となった。

・セカンドスクールの効果検証のため、「セカンドスクールにおける体験活動の教育的な効果の調査」を実施した。

・小学校の新学習指導要領への対応として、「セカンドスクール実践報告会」を実施した。

○平成23年度 ・東日本大震災の影響により、セカンドスクールでは第五小学校、千川小学校、関前南小学校、桜野小学校、プレセカンドスクールでは第一小学校、第二小学校、大野田小学校、桜野小学校が実施地を変更した。第五小学校、関前南小学校、桜野小学校のセカンドスクールは、泊数も変更した。

・強い余震の発生に備え、衛生携帯電話の貸与、飲料水ペットボトル・防災食品の配布等の対応をした。また、プレセカンドスクールでは、全期間バスの借上げを行った。

武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱

（目的）

第１条　この要綱は、武蔵野市立小中学校に在籍する児童及び生徒が、授業の一部を自然に恵まれた農山漁村に長期間滞在して行い、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）では体験し難い総合的な体験学習活動を行うセカンドスクールを実施することにより、次に掲げる目標を達成することを目的とする。

(1)　豊かな自然並びに地域の特性を生かした学習材及び学習方法を工夫することを通し、子どもたち一人一人が課題解決的な学習を進めることにより、ファーストスクールにおける学習と相まって学習成果を高めること。

(2)　自然体験、農林漁業体験、共同生活体験等の多様な体験学習活動並びに多くの人々との出会い及び交流を通し、子どもたちの個性豊かな人間的成長を図ること並びに自立に必要な知識及び技能を身に付けさせるとともに、それらを生かし自ら創意工夫する態度を育てること。

(3)　恵まれた自然環境の中での長期間のゆとりある宿泊体験を通し、豊かな情操をはぐくむとともに、協調性及び連帯意識に基づく豊かな人間関係を育てること。

（実施学年）

第２条　実施学年は、小学校においては第５学年、中学校においては第１学年とする。

（活動内容）

第３条　セカンドスクールで実施する指導内容は、それぞれの実施学年の総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

２　武蔵野市立学校の運営に関する規則（昭和 50 年６月武蔵野市教育委員会規則第２号）第 17 条の規定により、校長は、セカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

（実施場所）

第４条　校長は、セカンドスクールの実施場所について、児童及び生徒にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

（指導者等）

第５条　セカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

２　教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。

３　学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。

４　生活指導員は、宿舎内外における児童及び生徒の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

５　セカンドスクールには、看護師を各学校１人同行させるものとし、児童及び生徒の健康管理にあたるものとする。

（費用）

第６条　セカンドスクールに要する経費については、市が負担するものとする。ただし、児童及び生徒は、教育長が別に定める食費相当額の上限の範囲内の費用を負担するものとする。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付　則

この要綱は、平成 14 年 11 月１日から施行する。

武蔵野市立小学校プレセカンドスクール実施要綱

（目的）

第１条　この要綱は、武蔵野市立の小学校に在籍する第４学年の児童（以下単に「児童」という。）がセカンドスクール（武蔵野市立小中学校セカンドスクール実施要綱（平成14年11月１日施行）第１条に規定するセカンドスクールのうち小学校第５学年で実施するものをいう。以下同じ。）を実施するにあたり、次の事項を事前に行うことにより、より充実したセカンドスクールとすることを目的とする。

⑴　豊かな自然並びに地域の特性を生かした学習材及び学習方法を工夫することを通し、児童一人一人が課題解決的な学習を進めることにより、普段の学校生活（以下「ファーストスクール」という。）における学習と相まって学習成果を高めること。

⑵　自然体験、農林漁業体験、共同生活体験等の多様な体験学習活動並びに多くの人々との出会い及び交流を通し、児童の個性豊かな人間的成長を図ること並びに自立に必要な知識及び技能を身に付けさせるとともに、それらを生かし自ら創意工夫する態度を育てること。

⑶　恵まれた自然環境の中でのゆとりある宿泊体験を通し、豊かな情操をはぐくむとともに、協調性及び連帯意識に基づく豊かな人間関係を育てること。

⑷　児童の発達段階及び実態を踏まえ、セカンドスクールの内容との関係性及び系統性を十分に踏まえ、学習効果及び学習意欲を高めること。

（実施学年）

第２条　実施学年は、小学校第４学年とする。

（活動内容）

第３条　プレセカンドスクールで実施する指導内容は、総合的な学習の時間、教科、特別活動及び道徳とし、各学校が創意をもって学習活動を計画し、実施するものとする。

２　武蔵野市立学校の管理運営に関する規則（昭和 50 年６月武蔵野市教育委員会規則第２号）第 17 条の規定により、校長は、プレセカンドスクールの教育課程への位置付けを武蔵野市教育委員会（以下「委員会」という。）に届け出なければならない。

（実施場所）

第４条　校長は、プレセカンドスクールの実施場所について、児童にとって多様で魅力的な活動が可能であり、かつ、地域社会から協力が得られる場所を選定するものとし、委員会がこれを承認するものとする。

（指導者等）

第５条　プレセカンドスクールの引率及び指導には、実施学年の学級担任があたるものとし、その他の教員もファーストスクールの教育活動に支障のない範囲で引率及び指導を行うものとする。

２　教員の指導補助として学習指導員又は生活指導員を配置するものとする。

３　学習指導員は、教員の指示を受け、教材の作成、指導の補助、指導記録の整理等にあたるものとする。

４　生活指導員は、宿舎内外における児童の健康、安全等生活にかかわる援助及び必要に応じた指導にあたるものとする。

５　プレセカンドスクールには、各校につき看護師１人を同行させるものとし、当該看護師は児童の健康管理にあたるものとする。

（費用）

第６条　プレセカンドスクールに要する経費については、市が負担するものとする。ただし、児童は、教育長が別に定める食費相当額の上限の範囲内の費用を負担するものとする。

（その他）

第７条　この要綱に定めるもののほか必要な事項については、教育長が別に定める。

付　則

この要綱は、平成 17 年４月１日から適用する。

セカンドスクール実施地（泊数）の変遷

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度
第一小学校	山梨県高根町（6泊7日）					長野県飯山市信濃平		（7泊8日）
第二小学校	長野県高遠町（6泊7日）			富山県利賀村				（7泊8日）
第三小学校	岩手県遠野市（6泊7日）		長野県飯山市信濃平		（7泊8日）			（8泊9日）
第四小学校	長野県高遠町（3泊4日）	（5泊6日）	（6泊7日）	長野県飯山市戸狩				（7泊8日）
第五小学校	岩手県遠野市（7泊8日）		山形県酒田市・羽黒町					
大野田小学校	新潟県小国町（3泊4日）	（5泊6日）	（6泊7日）			長野県飯山市戸狩		
境南小学校	長野県高遠町（6泊7日）		長野県飯山市戸狩					
本宿小学校	山梨県中富町（3泊4日）	（5泊6日）	長野県飯山市信濃平（6泊7日）					（7泊8日）
千川小学校	山梨県中富町（5泊6日）		（6泊7日）					千葉県銚子市（7泊8日）
井之頭小学校	山梨県中富町（3泊4日）	静岡県富士宮市（5泊6日）	（6泊7日）			長野県飯山市信濃平		（7泊8日）
関前南小学校	山梨県中富町（6泊7日）		山形県遊佐町	（7泊8日）	（8泊9日）			（9泊10日）
桜野小学校（※1）	富山県利賀村（5泊6日）		（6泊7日）					
第一中学校	長野県豊科町（6泊7日）	東京都大島町（3泊4日）	群馬県嬬恋村（4泊5日）		山梨県足和田村			
第二中学校		長野県志賀高原（3泊4日）	長野県飯山市斑尾高原	長野県飯山市北竜湖（4泊5日）	新潟県松之山町			
第三中学校		長野県高遠町（3泊4日）	静岡県富士宮市	（4泊5日）	長野県高遠町	長野県大町市		
第四中学校		長野県志賀高原（3泊4日）	静岡県富士市	静岡県御殿場市（4泊5日）			長野県飯田市	
第五中学校		長野県志賀高原（3泊4日）	福島県猪苗代町	群馬県高山村（4泊5日）				長野県豊科町
第六中学校		長野県志賀高原（3泊4日）	長野県豊科町		（4泊5日）			

※1　平成8年4月に境北小と桜堤小が統合し、桜野小となる。平成7年度は両校合同実施。

※2　平成4年　　・・・長野県八坂村にて試行実施（6泊7日）

※3　平成5～6年・・・岩手県遠野市にて試行実施（12泊13日）

15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
					新潟県魚沼市		（6泊7日）	
	平成16年11月1日 南砺市へ新設合併							
			群馬県片品村			（7泊8日）		
							（6泊7日）	
群馬県川場村								新潟県南魚沼市 （6泊7日）
（7泊8日）							（6泊7日）	
				山形県鶴岡市			（6泊7日）	新潟県南魚沼市
					長野県飯山市 戸狩			
						（8泊9日）	（7泊8日）	長野県飯山市 戸狩 （6泊7日）
山形県遊佐町 （7泊8日）						（5泊6日）	（7泊8日）	長野県飯山市 戸狩 （6泊7日）
長野県白馬村								
		平成17年4月1日 十日町市へ	新設合併					
		平成17年10月1日 安曇野市へ	新設合併					
		平成17年10月1日 安曇野市へ	新設合併					

プレセカンドスクール実施地（泊数）の変遷

	平成15年度	16年度	17年度	18年度	19･20年度	21年度	22年度	23年度
第一小学校		山梨県大和村（2泊3日）	（平成17年11月1日甲州市へ新設合併）				千葉県館山市	東京都檜原村
第二小学校		山梨県大和村（2泊3日）	千葉県館山市					山梨県富士河口湖町
第三小学校	静岡県富士宮市（2泊3日）		群馬県片品村	山梨県富士河口湖町			新潟県南魚沼市	
第四小学校	群馬県片品村（2泊3日）							
第五小学校		群馬県川場村（2泊3日）						山梨県山中湖村
大野田小学校		千葉県館山市（2泊3日）						山梨県北杜市
境南小学校		静岡県富士宮市（2泊3日）				山梨県富士河口湖町（1泊2日）	（2泊3日）	
本宿小学校	長野県飯山市信濃平（2泊3日）					新潟県南魚沼市（2泊3日）		
千川小学校			千葉県小見川町（2泊3日）	（平成18年3月27日香取市へ新設合併）	東京都檜原村（平成19年度～）			
井之頭小学校		静岡県富士宮市（2泊3日）	群馬県片品村					
関前南小学校	東京都檜原村（2泊3日）							
桜野小学校			千葉県館山市（2泊3日）					山梨県富士河口湖町

平成23年度セカンドスクール・プレセカンドスクール日程表

種別	学校名	実施日		実施場所	現地宿舎
小学校セカンドスクール	第一小学校	９／３０(金)～１０／６(木)	６泊７日	新潟県魚沼市	民宿
	第二小学校	９／２５(日)～１０／２(日)	７泊８日	富山県南砺市利賀村	民宿
	第三小学校	１０／１３(木)～１０／２０(木)	７泊８日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第四小学校	６／２(木)～６／８(水)	６泊７日	長野県飯山市	民宿（戸狩・北条地区）
	第五小学校	９／２１(水)～９／２７(火)	６泊７日	新潟県南魚沼市	民宿（上野原地区）
	大野田小学校	９／２１(水)～９／２７(火)	６泊７日	長野県飯山市	民宿（戸狩・五箇地区、瀬木地区）
	境南小学校	９／１６(金)～９／２２(木)	６泊７日	長野県飯山市	民宿（戸狩・堀之内地区）
	本宿小学校	９／２７(火)～１０／４(火)	７泊８日	長野県飯山市	民宿（信濃平）
	千川小学校	９／２９(木)～１０／５(水)	６泊７日	新潟県南魚沼市	民宿（八海山地区）
	井之頭小学校	９／２８(水)～１０／５(水)	７泊８日	長野県飯山市	民宿（戸狩・北条地区）
	関前南小学校	１０／１(土)～１０／７(金)	６泊７日	長野県飯山市	民宿（戸狩・(瀬木地区)
	桜野小学校	１０／２(日)～１０／８(土)	６泊７日	長野県飯山市	民宿（戸狩・わらびの地区)
中学校セカンドスクール	第一中学校	９／２７(火)～１０／１(土)	４泊５日	長野県北安曇郡白馬村	民宿３泊 ﾎﾃﾙ１泊
	第二中学校	５／２４(火)～５／２８(土)	４泊５日	新潟県十日町市松之山	農家２泊、旅館２泊
	第三中学校	５／２０(金)～５／２４(火)	４泊５日	長野県大町市	民宿
	第四中学校	９／２７(火)～１０／１(土)	４泊５日	長野県飯田市	キャンプ１泊 農家１泊、旅館２泊
	第五中学校	５／２６(木)～５／３０(月)	４泊５日	長野県安曇野市	農家１泊 ビレッジ安曇野３泊
	第六中学校	９／７(水)～９／１１(日)	４泊５日	長野県安曇野市	農家１泊 ビレッジ安曇野３泊
小学校プレセカンドスクール	第一小学校	９／２０(火)～９／２２(木)	２泊３日	東京都西多摩郡檜原村	旅館
	第二小学校	１０／１２(水)～１０／１４(金)	２泊３日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	第三小学校	６／１(水)～６／３(金)	２泊３日	新潟県南魚沼市	民宿（樺野沢地区）
	第四小学校	１０／１２(水)～１０／１４(金)	２泊３日	群馬県利根郡片品村	民宿
	第五小学校	１０／５(水)～１０／７(金)	２泊３日	山梨県南都留郡山中湖村	ホテル
	大野田小学校	１０／４(火)～10／６(木)	２泊３日	山梨県北杜市高根町清里	県立八ヶ岳少年自然の家
	境南小学校	１０／５(水)～１０／７(金)	２泊３日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル
	本宿小学校	６／８(水)～６／１０(金)	２泊３日	新潟県南魚沼市六日町	民宿（八海山地区）
	千川小学校	１０／12(水)～１０／14(金)	２泊３日	東京都西多摩郡檜原村	旅館
	井之頭小学校	１０／１９(水)～１０／21(金)	２泊３日	群馬県利根郡片品村	民宿
	関前南小学校	９／１４(水)～９／16(金)	２泊３日	東京都西多摩郡檜原村	民宿
	桜野小学校	９／２０(火)～９／２２(木)	２泊３日	山梨県南都留郡富士河口湖町	ホテル

※実施場所に下線が引かれている学校は、東日本大震災の影響により、当初の実施地を変更した。

小学校セカンドスクール

セカンドスクール

第一小学校　　9月30日~10月6日(6泊7日)

○日程表

９月３０日（金）		１０月１日（土）		１０月２日（日）	
7:30	学校集合	6:30	起床　清掃	6:30	起床、検温、洗顔
	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食、
8:00	出発	9:00	福山森林体験の森　着		
			林業体験①	9:30	鮭一括採捕場見学
12:00	守門着・昼食		炭焼き・薪割り		やな見学
13:00	開校式		雪室見学		鮭仕分け見学
14:00	名水めぐり	12:00	昼食	10:30	川の学習
15:30	目黒邸見学	13:00	林業体験②	11:30	郷土食体験
16:00	昔話を聞く会		伐採体験	12:00	昼食
17:00	健康観察・入浴	16:15	班長会議（スキー場）	13:30	課題別学習①
18:00	夕食	17:00	健康観察・入浴		
19:00	宿の方との交流会	18:00	夕食	16:30	健康観察・入浴
20:00	語らいの時間	19:00	手紙書き	17:30	夕食
	一日の振り返り	20:00	語らいの時間	19:00	天体観測（星の家着）
21:00	しおり、健康調査票提出		一日の振り返り	20:30	一日の振り返り
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

けやきの時間（総合的な学習の時間）を使って、セカンドスクールの目標や集団生活における注意点、係活動についての話合い、各体験活動における調べ学習を行った。

（１）セカンドスクールへ向けてのガイダンス

目標の設定とルールの確認、必要な係活動の話合いを行い、児童の自主的な活動を促すようにした。学習活動では武蔵野市と魚沼市の違いに注目できるような課題設定を行った。

（２）課題別学習

学習テーマから調べたい課題を選択し、自然環境、社会環境、文化環境の課題別グループに分かれ、書籍やインターネットなどで情報を収集した。また、現地での自己課題を設定するよう指導した。

（３）水質調査

多摩川の水や武蔵野市の水道水等の水質調査を行い、現地での水質調査結果とデータ比較をして、環境の違いを見られるようにした。

（４）イネの栽培

魚沼市の須原小学校からいただいた稲の苗を学校の一坪田んぼに植え、また他の品種でバケツ稲作りにも挑戦した。インターネットや本で育て方を調べ、生長の様子を観察記録しながら育てた。

新潟県魚沼市守門

参加人数　男子35名　女子28名
計63名

１０月３日（月）		１０月４日（火）		１０月５日（水）		１０月６日（木）	
6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:00	須原小学校訪問	10:00	カントリーウォーク	9:00	課題別学習②	8:00	荷物整理・大掃除
	交流会	12:00	小出スキー場 着	12:00	もちつき（各宿）	10:30	閉校式
9:30	農業体験①	12:30	昼食（弁当）	13:30	宿別体験	11:00	守門発
	稲刈り、はざ掛け		班長会議		セカンドスクール	12:00	昼食
12:00	昼食・教員交代の会	15:00	農業体験③		のまとめ（お別れ会		（赤城高原ＳＡ）
13:30	農業体験②		わら細工作り		の準備）	15:30	学校到着
	脱穀､もみすり､精米	17:00	健康観察・入浴・夕食				帰校式
17:00	健康観察・入浴	18:00	後片付け	17:00	健康観察・入浴	16:00	解散
18:00	夕食		（天体観測予備日）	18:00	夕食・宿の方と交流会		
	（天体観測予備日）（洗濯）		（洗濯）、手紙書き		ありがとうの会		
20:00	語らいの時間	20:00	語らいの時間				
	一日の振り返り		一日の振り返り	20:00	一日の振り返り		
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝		

②　事後の学習内容

・課題別学習で取り組んだ内容、体験学習を通して学んだことや考えたこと等を、写真や資料を活用しながら、一人一人まとめた。それを「セカンドスクール発表会」として、伝え方を工夫しながら、保護者らへ発表した。

・新潟からお世話になった民宿の方を招いて、自分たちで育てた稲の収穫までの過程を振り返ると共に、脱穀、精米のやり方を民宿の方に指導してもらいながら取り組んだ。また、お世話になった民宿の方への感謝の気持ちを表す会として、セカンドスクールの思い出、学んだことや成長したと感じることなどを発表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1､林業体験

炭だし、薪割り、木の伐採の３つの体験をした。炭だしでは、熱さとたたかいながらも一本一本丁寧に炭づくりをしていた。薪割りでは、機械を使った方法と、斧を使って自力で行う方法の両方を体験した。午後の木の伐採では、森の中に入り、指示された木を友達と協力しながら、切り倒して行った。ノコギリの使い方に苦労していたが、木が倒れた瞬間に感動している児童が多くいた。また、倒した木を運びやすい長さに切る作業も、児童は熱心に行っていた。

２、星空観察

期間中の天候が悪く延期はあったが、５日目に星空を観察できた。３人の講師の方が、屋外での星空観察、PC の動画映像での天体説明、大きな天体望遠鏡での月と木星の観察の３グループに分かれて、様々な星について丁寧な説明を受けながら観察することができた。それらの話を受け、児童からたくさんの質問が出る様子から、天体についての興味・関心が高まる姿を見取ることができた。

３、稲刈り体験

地元小学校との交流が実現でき、一緒に稲刈り体験をすることができた。鎌を使っての稲刈りや刈り取った稲を束ねる作業を行った。終わりが見えないほど大量にあった稲だったが、農業公社の方から稲穂を一本たりとも無駄にしないことを教わり、児童は協力して、稲穂を大切にしながら真剣に作業をしっかりと終えることができた。

【須原小の人たちとの稲刈り】

４、カントリーウォーク

ハイキングには、ガイドを３名依頼した。ハイキングの見所や野外活動の注意点（蜂や熊に出会ったときの対処法や準備運動）を事前に指導してもらい、とても役に立った。ハイキング中も植物の種類や根の様子、山に生きる小動物、自然散策や森林浴のよさ、自然の大切さなどについて詳細な解説を受けながら、およそ２時間の「自然観察」をじっくり行うことができた。詳細に自然観察することができたのは大変有効であった。

＜学習体験活動＞

１、名水めぐり

民宿近辺の地理を知るためのねらいも含め、地図を見ながら、班ごとにポイントを探して、名水巡りをした。各ポイントでおいしい湧水を味わい、水質調査の数値でも水質のよさを実感できた。

２、課題別学習

自然環境、社会環境、文化環境の３グループに分かれ、各自が立てた課題を達成できるよう取り組んだ。自然環境班では、川でつりをしたり水中生物の観察をしたりした。山では栗やザクロ等食べられる木の実について講師の先生に教えて頂いた。社会環境班では、東京との生活の違いを調べ、雪国ならではの生活の工夫を知ることができた。文化環境班では、地元の方に話を聞き、方言や昔話、郷土食等について調べることができた。児童一人一人が課題を設定したので、意欲的に活動できた。

3、川の学習

大きく２つの学習を行った。１つは水質検査、東京の多摩川の水質を事前に調べていたので、新潟の魚野川がどうなっているか比較しながら、興味深く調べることができた。

２つ目は、理科のいのちのたんじょうの学習、サケの採捕場を訪ね、魚野川にあがったサケを見せてもらったり、卵、受精の様子などを説明してもらったりできた。児童は間近でみるその姿に、「命」をしっかりと感じていた。

＜生活体験活動＞

1、郷土食体験

各民宿に分かれて、地元でとれる「くるみ」入りの五目ご飯作りを行った。「くるみ」を割る作業や「くり」の剥き方を教えてもらいながら、児童は熱心にご飯作りに取り組んだ。自分で調理する体験は、作業に真剣さを生むとともに、食べるまでの大変さや食べることの喜びなども実感することができた。また、地域の人や特色ある食事に触れる機会となった。

2、わら細工作り

各民宿に分かれて、民宿の方を講師として、鍋敷きを作った。最初はうまくいかずに苦労していたが徐々に作業の手順がわかり、その後は夢中でわらを編んでいる姿が見られた。

収穫した稲は、お米をとって食べるための物だけではなく、わら細工の材料として無駄になる所なく生活品になっていくことを児童は実感できた。昔から稲が新潟の人々の暮らしの中でとても役立っていたこと、ものを大切に使う工夫とそのよさを活動を通して感じることができた。

3、もちつき体験

各民宿に分かれて、民宿の方といっしょにもちつきをした。杵の持ち方やつき方を教わり、地域の方と交わってみんなで楽しく活動した。ついたもちは、各宿で、雑煮にしたりあべかわにしたりして、おいしくいただいた。

＜地域の人々とのふれあい活動＞

1、昔話を聞く会

目黒邸を訪ね、家の造りや道具を見学して新潟の昔の生活について想像をふくらませることができた。畳敷きの大きな居間に、地元の語り部の方をお招きし、新潟に伝わる昔話を聞かせてもらった。温かい語り口に児童は落ち着いた様子で聞きいってた。

【目黒邸での昔話を聞く会】

2、須原小学校との交流

事前に手紙での交流を行ったり名刺交換の準備をしたりして、実際に会うのを楽しみにしていた。当日は、須原小学校の５年生が出迎えてくれ、体育館でダンスを踊ったり歌を踊ったり

して楽しい時間を過ごした。また一緒に稲刈りをし、鎌の使い方や稲の束ね方等を教えてもらった。昼食も、須原小と一小の児童が混ざったグループでお弁当を食べることができ、児童同士の様々な交流ができた。

○児童の感想

・課題別体験やカントリーウォークで、いろいろな生き物を見つけられて楽しかったです。
・大きな木を切り倒したりたくさんの稲を刈り取って束ねたり、色々なことに友達と協力して取り組むことで、一人ではできないことを達成することができて、とてもうれしかった。
・このセカンドスクールで学んだことは、命の大切さ、協力することの気持ちよさなどです。学んだことを学校生活や普段の生活にも活かしていきたいです。
・自分たちが活動する大きな行事の陰で、たくさんの人に支えられていることが分かりました。そういう人たちに感謝の気持ちが伝わるように、何事にも一生懸命に取り組みたいです。
・ケンカをしてしまうこともあったけれど、そのあと自分たちで仲直りをして、もっと仲良くなることができて、とてもうれしかったです。楽しい７日間でした。

○保護者の感想

・セカンドスクールの発表では、各自発表の仕方に工夫をこらし、丁寧によくまとめられていた。一週間の経験が内容の濃いものであり、子どもたちの様々な面で興味をもたせるきっかけになったと思います。
・一人一人が自分の課題を詳しくまとめており、１週間どんな事を学んできたかがとてもよくわかりました。
・セカンドスクール後の学校公開での子どもたちの姿からも、全体的に自主的に動く様子が多く見られ、成長を感じることができました。
・セカンドスクール交流会では、学校でも宿の方と子どものかかわることができ、一人ひとりにお手紙までいただいて、子どもは、とてもうれしそうに学校での事を家で話してくれました。たくさんの貴重な機会を与えて下さってありがとうございました。

○総合的な学習の時間の視点から

課題別学習において、【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】の探究活動の過程にそって指導した。

【課題の設定】では、事前学習で、まず武蔵野市と魚沼市の違いについて調べ、ガイダンス等で現地での学習活動の内容に見通しをもった時点で、興味・関心をもったことの中から、個人の課題を設定した。

【情報の収集】では、校内の図書室やパソコン室、中央図書館からの貸し出し書籍を活用した。児童によっては、親戚等にインタビューをしたり、直接図書館に行ったりして、自主的に活動している様子がみられた。現地での課題別学習が、一人一人に有意義な活動になるように、

現地の講師やコーディネーターと何度も連絡を取り合って、１日につき６通りの活動内容を２日分決定した。児童は自分の課題にあった現地での内容を選んで、学習活動に参加することができたので、とても意欲的に体験しながら情報の収集をすることができた。

【整理・分析】では、帰校後、これまでに収集した情報を整理したり、新たに見出した課題について調べを進めたりした。自分や友達の情報を比較・分類したり、表やグラフ・図を活用して整理したりする児童も多くみられた。

【まとめ・表現】では、セカンドスクール発表会として、セカンドクールで学んだことや課題別学習の成果等を発表した。伝える相手は、公開授業に来校する保護者・地域の方々とした。発表の構成や発表方法を工夫しながら、まとめたことを自分なりに表現することできていた。

発表会後に、新たな疑問やもっと知りたいこと、深めたいことなどの課題をもつ児童もいた。【課題の設定】【情報の収集】【整理・分析】【まとめ・表現】の探究活動の過程にそって指導することで、学習の見通しがもちやすく、次の探究活動へのステップにもなると考えられる。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

前年度に宿泊行事を体験していることで、児童も保護者も事前学習や準備等のおおよその見通しをもつことができるので、セカンドスクールでの学習活動に焦点を絞って指導できた。

また、保護者の理解や協力が得やすくなり、持ち物や提出物等の事前に準備していただく事も滞りなく実施できた。保護者の意識にも、２回目の宿泊なので、比較的安心して児童を送り出すことができたようだった。

○次年度に向けての反省・課題

・児童自ら選択した課題について学習活動を進める「課題別学習」の事前学習に授業時間を多くとったため、学年一斉に学習する林業体験などについては、事前学習の時間を十分に確保できなかった。７日間で学ばせたいことや体験させたいことが多くあり、事前の準備や指導が、時間に追われてしまった。事前事後を含めて、ある程度のゆとりをもたせた指導を計画する必要がある。

・雨プログラムを準備してはいたが、数日間天候が荒れてしまうと、プログラムが不足してしまうことが考えられる。雨天時プログラムの充実を図りたい。

セカンドスクール

第二小学校　　9月25日～10月2日（7泊8日）

○日程表

９月２５日（日）		９月２６日（月）		９月２７日（火）		９月２８日（水）	
7:00	武蔵境駅集合 出発式	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備
7:10							
7:50	武蔵境駅発	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
9:28	東京駅発	8:30	地域探検	8:30	今までの学習をまとめよう	9:00	めんめん館着 朝会・講師紹介
10:40	越後湯沢駅着	9:30	そばを打って食べよう	10:00	森林着 朝会・講師紹介 森林を守る仕事を知ろう	9:20	ハイキング出発
10:48	越後湯沢駅発 車中昼食	11:30	昼食			11:30	峠の一本杉着 休憩
12:57	高岡駅着	12:50	水田着	12:45	国際キャンプ場着 昼食	12:00	峠の一本杉発 昼食・ブナ原生林
13:25	高岡駅発 休　憩	13:00	稲刈りをしよう	13:45	生命の大切さを知ろう （岩魚づかみから）		
14:50	行政センター着	15:00	お礼の会			15:00	そばの郷着
15:00	開校式	15:30	水田発	16:00	国際キャンプ場発	15:30	お礼の会
16:00	各民宿到着 自己紹介の会 自分の箸を作ろう	16:00	民宿着 検温・入浴	16:30	各民宿着	16:00	各民宿着
				17:00	検温・入浴	17:00	検温・入浴
17:00	検温・入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食	20:00	利賀の話を聞こう	20:00	利賀の話を聞こう 学習のまとめ	20:00	お家の人に手紙を書こう 学習のまとめ
20:00	学習のまとめ 健康観察	21:00	学習のまとめ 健康観察	21:00	健康観察	21:00	学習のまとめ
21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝	21:30	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

「利賀の森は地球を守る」（総合的な活動の時間）

セカンドスクールで出会うであろう様々な疑問や問題を想定し、セカンドスクールが自己解決の場になったり、新たな学習への興味・関心や意欲を高められたりする場になるように、４月当初から事前学習をスタートさせた。

・校庭の樹木観察（自然への興味関心意欲の高揚・自然観察の基礎学習）
・日本の森林（形相・環境）
・森林と日本人との歴史的なかかわり（暮らしと環境）
・森林のはたらき（産業・動物の住処・空気浄化・貯水・土砂災害防止・暴風防砂・憩い・海との関係）
・林業（５年社会科の林業の発展補充的内容）
・環境問題と環境保護活動（日本の絶滅種を含めた広範な環境問題）

富山県南砺市利賀村

参加人数　男子27名　女子33名
計60名

９月２９日（木）		９月３０日（金）		１０月１日（土）		１０月２日（日）	
6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:30	起床・検温・健康観察 清掃・出発準備	6:15	起床・検温・健康観察 清掃・荷物準備
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:00	朝食 出発準備
9:00	利賀小学校着	9:00	利賀小学校着 交流会をしよう	9:00	そばの郷着		閉室式
9:10	課題別に活動しよう①		自己紹介・校内見学 麦屋節を踊ろう	10:00	相倉合掌造り集落着 相倉集落を見学しよう	8:30	行政センター着
12:00	昼食		キンボール大会		民俗資料館見学	8:50	閉校式 お別れ会
13:00	利賀小学校発 そば資料館見学	12:00	給食	11:15	相倉合掌集落発	9:15	行政センター発 休　憩
13:30	宿着	13:00	キンボール大会 もちつき	12:15	民宿着	11:00	高岡駅着
14:45	課題別に活動しよう②	15:30	お別れの会	12:30	昼食(各民宿)	11:40	高岡駅発
15:00	検温・入浴			13:30	民宿ごとの活動をしよう 餅つき、わらじ作りなど	12:00	車中昼食
17:00	夕食	16:00	民宿着	17:00	検温・入浴	14:10	越後湯沢駅発
18:00	ありがとうの会準備	17:00	検温・入浴	18:00	お別れ夕食会 ありがとうの会	15:40	東京駅着
19:30	学習のまとめ	18:00	夕食				
21:00	健康観察	19:00	民宿の人に色紙を書こう	21:00	学習のまとめ 健康観察・出発準備	16:45	武蔵境駅着 解散式
21:30	就寝	21:00	学習のまとめ 健康観察		荷物整理	17:15	解散
		21:30	就寝	21:30	就寝		

②　事後の学習内容

セカンドスクールで学習した内容は、現在以下のような学習に生かしている。尚、３学期はセカンドスクールで収穫した米を使っての「おにぎりパーティー」を計画・実施し、指導員の方とともに収穫の喜びを味わいたいと考えている。

・セカンドスクール新聞作り（個人で作成）

・セカンドスクール発表会（保護者、指導員、４年生に向けての発表会）

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、峠の一本杉をめざして･原生林を歩こう

晴天のなか、まず、午前中は峠の一本杉まで班ごとに歩いた。東京では感じられない利賀の森林を体全体で感じ、一人一人が個人の課題に対して深く考え、行動するために、８つの民宿班に１人ずつの講師の先生についていただき実施した。道中は木や植物、利賀の自然についての話を聞きながら歩いた。利賀の自然について、児童はとても興味を示していた。途中坂上の大杉を見たり、湧き水を味わったりしながら峠の一本杉を目指した。湧き水の冷たさや、大杉の太さに驚くとともに、利賀の自然の雄大さを感じていた。峠の一本杉を目指すことと講師の方々の話を聞くことの両立は時間的に少し厳しかったが、子どもたちにとって、利賀の森林を実感できた活動であった。

＜学習体験活動＞

１、自分の箸を作ろう

民宿ごとに竹の箸作りを行った。民宿の方に箸作りの工程、小刀や紙ヤスリなどの道具の使い方を教えていただき作業を始めた。製作した箸はセカンドスクール期間中民宿での食事の際に使用するということもあって、意欲的に取り組んでいた。初めて民宿に行き、すぐに取り組んだ活動であったため、民宿の方々といろいろな話をしながら進めることができ、民宿の方との最初の交流ができた。また、班の中で教え合いながら取り組むことで、これから班で共に生活していくということが意識された活動であった。

２、稲刈りをしよう

講師の先生についていただき、稲を刈る班と脱穀をする班で交代しながら行った。講師の方々に、鎌での稲の刈り取り方、束ね方、脱穀の仕方などを教えていただいた。田んぼの状態はとても良好であり、児童はとても一生懸命に取り組んでいた。ほとんどの児童にとって稲刈りは、初めての体験であり、社会科で学習した「米作り」の学習を身近に感じることができた活動であった。

３、森を守る仕事を知ろう

利賀小学校の５年生が一緒に参加し、利賀村森林組合の方々から、森を守る仕事、森林の大切さなどの話を聞いた。事前に総合的な学習の時間で森林について学習したことと関連させながら聞くことができた。チェーンソーを使っての大きな木の伐採実演を見せていただいた。普段あまり目にしない昔の林業道具についての説明に、真剣に耳を傾けていたり、便利な機械を使っての実演の様子を見て、「わ～すごい！」という感嘆の声をあげたりしていた。その後、班ごとに伐採した樫の木の枝はらいを行った。一人一人のこぎりをもち、枝を切っていった。とても夢中になって取り組んでいた。なかなか切ることができず時間がかかる児童もいたが、山での仕事の大変さを感じながら活動することができた。

４、課題別に学習しよう

事前に利賀村のことを調べ、その中で疑問に思ったことや、実際に行って、見て、調べてみたいことを各自考え、選択課題として追究することとした。選択課題は昨年度の反省を生かして細かく設定し、以下の７つとした。（１）利賀地方のくらし、（２）利賀の歴史、（３）利賀の森林と環境、（４）利賀地方の伝統料理、（５）利賀地方の民話、（６）利賀地方の方言・今と昔の子どもの遊び、（７）利賀地方の動植物の７つの中から選び、さらにその課題の中で自分が追究したいことを決定して追究した。利賀村の方には、事前に児童の課題の内容を知らせ、課題ごとに講師を配置していただいた。子どもたちは自分の課題について伝えながら、話を聞いてメモをしていた。伝統料理を利賀の方と一緒に作ったり、昔遊びを体験したり、民俗資料館に行き、当時の暮らしの様子を見学するなどの活動を行った。課題別の学習を５日目に設定したことにより、セカンドスクールに来てから民宿の方やその他の利賀の方に教えていただいたことと関連させながら聞いたり体験したりすることができた。

５、そばの資料館を見学しよう

学級ごとにそばの資料館を見学をした。１階ではそばの歴史や種類などについて、解説を行っていただき、児童は興味をもちながらメモをとり、質問をしながら学習した。２階では、利賀の昔のくらしについての資料を見学した。２日目の午前に体験したそば打ちと関連させながら、そばについての理解を深めることができた。

＜生活体験活動＞

１、そばを打って食べよう

利賀村の郷土料理であるそば打ち体験をした。それぞれの民宿の
個性を生かした作り方や教え方に、どの児童も引き込まれ積極的に取り組んでいた。粉に水を入れ、こねて、丸めて、伸ばして、切るなどの作業を実際に実演しながら丁寧に教えていただいた。こねる難しさ、細く切る難しさを感じながらも、自分たちで打ったそばをおいしく食べることができ、満足な表情を見せていた。

【そば打ち体験】

２、生命の大切さを知ろう（岩魚づかみから）

国際キャンプ場に集合し、担当の方の話を聞き、川に入った。夢中でつかもうとする児童もいれば、触るのに抵抗を示す児童もいたが、友だちと協力しながら全員がつかまえることができた。その後グループごとにさばき、串を差して炭火で焼いて食べた。さばく時に、「できない」と言い出す児童を予想していたが、１人もそんな子はおらず、しっかりさばくことができた。この経験を通して、生きるために命をいただいているということを実感した活動であった。

＜地域の人々とのふれあい＞

１、民宿ごとの活動

最初は児童の中にも不安があったが､民宿の方々が本当の家族のように接してくださったおかげで、すぐに不安は消え、とけ込むことができた。７日目には、事前に民宿の方々が計画し、準備してくださった民宿での活動を行った。岩魚の選別、わら細工、さといも掘り、野菜の収穫、畑仕事など、すべてが普段体験できないことであり、児童はいきいきと活動していた。また他の日にも、薪割り、栗拾いなどをさせていただき、児童にとって毎日が利賀の人々とのふれあいであった。最後の夜には「お別れ夕食会」が行われ、「ありがとうの会」では歌を歌ったり、手紙を読んだりし、心を込めてグループ全員で書いた色紙を渡し、感謝の気持ちを伝えた。最終日の別れでは、民宿の方々との別れを惜しみ、涙する児童もいた。

２、利賀小学校と交流会をしよう

利賀小学校に着くと、利賀小の児童が玄関で出迎えてくれた。開会式の後各班で自己紹介を行い、利賀小の児童が校内を案内してくれた。その後、体育館に集まり利賀の伝統民謡である「麦屋節」を利賀小の児童に教えてもらいながら踊った。男女別れ

て男踊りと女踊りを教えてもらった。笠を使って踊る男踊りは難しく、悪戦苦闘している姿が見られたが、何度も踊ることにより徐々に上手くなっていき、最後は全員で踊ることができた。その後、キンボールの試合を行った。最初はどう動けばいいか分からない様子の児童もいたが、教えてもらいながら徐々に動きが分かり、今まで味わったことのない楽しさを感じていた。お昼は給食を校内で食べ、利賀小の児童とも仲よくなり、手紙を書く約束をしている児童もいた。午後は雨天であったため、キンボールの試合の続きと、杵と臼を使って餅つきを行い、利賀小の児童と交流を行った。

○児童の感想

・この８日間で変わったことがあります。それはありがとうと思う気持ちです。民宿の方がやさしく接してくれたり、いろいろな話を聞かせてくれたりしました。これからも感謝の気持ちを忘れないようにしていきたいです。
・この１週間はとてもいい経験となりました。このような経験を学校生活や普段の生活に生かせたらいいと思います。たくさんの自然に囲まれて過ごした１週間は武蔵野では味わえないことがたくさん体験できました。
・セカンドスクールで、いろいろな思い出ができて、利賀村が２つ目の故郷となりました。この思い出を大切に心に残しておきたいです。
・楽しい時間はすぐに過ぎると言いますが、私にとって、セカンドスクールは８日間だというのにとても短く思えました。このセカンドスクールで学んだいろいろなことを一生忘れずにいたいと思います。
・セカンドスクールで、人は何かをするためには、動物や植物の命をもらっている。だからその命に感謝しなければならないと思いました。動植物にもらった命を大切にして生きていきたいと思いました。
・私がセカンドスクールに行って変わったことは、みんなで協力して行動することができるようになったことです。セカンドスクールで培ったことを、学校などでも協力してできるといいなと思いました。
・民宿のお母さんやお父さんが毎日元気にあいさつしてくれたおかげで、私もみんなに進んであいさつすることができるようになりました。素直な気持ちであいさつすると、気持ちがいいなと思いました。これからも素直な気持ちで生活していきたいです。

○保護者の感想

・セカンドスクールから帰ってきた子どもの姿を見て、利賀村での体験の充実ぶりを感じました。東京では普段体験できないことをたくさん体験することができ、とてもよい勉強になったと思います。
・民宿の方々には大変優しくしていただいたようで、とてもありがたく感じました。民宿では積極的に手伝いをしたようで、帰ってきてからも家の手伝いをしてくれるようになりました。
・出発日前までは、７泊という長い日程に不安もあったようですが、帰ってきてみる

ととても楽しくあっという間に過ぎていったようで、「また利賀村に行きたいな。もっと長い間利賀にいたいな」と言っていました。大自然の中でとても貴重な体験ができたと思います。

・出発前の子どもの様子から、７泊もするのは無理だろうと考え心配していましたが、帰宅後の様子から８日間の充実ぶりが感じられました。まだまだ学ぶことは多いですが、自分への自信は、高まったのではないかと感じました。

○総合的な学習の時間の視点から

総合的な学習の時間に、「利賀の森は地球を守る」というテーマで学習を進めた。１学期には校庭の樹木の観察から始まり、森林のはたらきの学習を進めていくことで、私たちにとって森林がどれほど重要な役割をしているかということを学習していった。２学期には林業について学習した後に、現地での課題別学習につながるように、利賀村について調べ学習をしながら自分の課題がもてるように支援した。帰ってきてからの発表ではグループごとに追究した課題についてまとめさせ、自分たちの力で発表の方法を考えられるよう助言した。３学期は、「おにぎりパーティーをしよう」というテーマで、現地で刈り取ったお米を使ってご飯を炊いておにぎりにして食べてみようという活動を予定している。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

自分のことは自分でする、グループの人と協力しながら生活する、時間を守って行動することなど、プレセカンドスクールでの宿泊体験の成果と言える集団生活の基礎的なことが身に付いていた。学習面では、事前学習、現地での課題追究学習、事後発表をそれぞれ関連させながら取り組む学習過程をつかめていた。

○次年度に向けての反省・課題

・森林体験について、講師の先生のお話に時間を取りすぎてしまい、児童の体験活動の時間が短くなってしまった。事前に現地講師との打ち合わせを綿密に行っていく必要があった。

・民宿ごとの課題別活動は、民宿の方との共通理解が得られていないところがあった。こちらで予め活動や課題を民宿毎に明確にしておくことが必要であった。

・体験活動を行う際には、こちらのねらいを明確に伝え、講師の方のお話は最小限にとどめ、児童の活動時間を十分に確保することが必要であった。

【利賀小でのキンボール】

【課題別学習　五平餅作り】

セカンドスクール

第三小学校　　10月13日～10月20日（7泊8日）

○日程表

１０月１３日（木）		１０月１４日（金）		１０月１５日（土）		１０月１６日（日）	
8:15	出発式	9:00	朝会	9:00	朝会	8:00	朝会
		9:30	農業体験（稲刈り・束ね・つるし）	9:30	リンゴの収穫体験	9:30	尾瀬自然体験（ハイキング）
12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	開校式	13:30	片品北小訪問	13:00	食材作り体験（リンゴジャム作り）	12:30	尾瀬自然体験（ハイキング）
14:00	荷物整理・周辺散策 避難訓練・農業体験 （花豆の収穫・選別）			15:30	尾瀬高校訪問		
17:00	入浴・夕食	17:00	入浴・夕食	17:00	入浴・夕食	17:00	入浴・夕食
19:00	紹介の会	19:00	まなべえ	19:00	まなべえ	19:00	まなべえ
20:00	学習の記録	20:00	学習の記録	20:00	学習の記録	20:00	学習の記録

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・社会科の「わたしたちの生活と食料生産」で，自分たちが日頃食べているさまざまな食材は，国内の様々な地域で生産され，届けられていることを学習した。
・「日本の農業」「日本の水産業」についての学習の中で，食料生産にたずさわる人々の苦労や工夫，願いについて知ることができた。この学習によって、実際に農業にたずさわる人の話を聞いてみたい，自分も体験してみたいという思いにつながった。
・総合的な学習の時間において，バケツ稲の栽培に取り組み，米作りの過程について学習した。稲の成長の様子を観察・記録するとともに，農家の方々の工夫や苦労を理解できるようにした。そして、片品村の稲（水田）との比較ができるようにした。
・尾瀬について関心をもったこと（歴史・地形・気候・動植物・環境保護など）について，一人一人が課題をもち，図書資料・インターネット・観光パンフレット等を参考にして調べた。
・お世話になる民宿の方に向けて自己紹介カードを作成した。宿での生活を充実したものにするため，「紹介の会」にて民宿の方々に手渡した。
・片品北小学校の交流会に向けて，「尾瀬のガイドブック作り」（尾瀬の事前学習）と「私たちの町の紹介」（武蔵野市・吉祥寺の紹介）の準備を行った。

群馬県利根郡片品村花咲

参加人数　男子53名　女子43名
計96名

１０月１７日（月）		１０月１８日（火）		１０月１９日（水）		１０月２０日（木）	
9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会	9:00	朝会
9:30	かまど作り体験	9:30	農業体験	10:00	武尊牧場自然散策	9:30	荷物整理
10:30	火おこし体験		（脱穀）				勤労体験活動
11:30	昼食作り・昼食	11:30	昼食	11:30	昼食	11:00	昼食
14:00	片付け			15:00	食材作り体験	12:00	閉校式
	川での体験				（おやき作り）		
						15:30	帰校式
17:00	入浴・夕食	17:00	入浴・夕食	17:00	入浴・夕食		
19:00	まなべえ	19:00	感謝の会準備	19:00	感謝の会		
20:00	学習の記録	20:00	学習の記録	20:00	学習の記録		

②　事後の学習内容

・国語科「お礼の手紙」の学習実践として，お世話になった民宿の方など，片品村でお世話になった方々や，尾瀬高校の生徒、片品北小学校の児童にお礼を述べ，近況を報告する手紙を書いた。感謝の気持ちが伝わる文章を書くことを心がけ，真剣に取り組むことができた。
・総合的な学習の時間で、バケツで育てた稲を収穫した。学校のバケツ稲作りでは，セカンドスクールでの体験に比べ，わずかなもみしか得られないことを目の当たりし，米作りの苦労を改めて知った。一粒の米をも無駄にしてはいけないという思いをかみしめることができた。
・３学期には，４年生に向けてセカンドスクール報告会を計画している。体験したことや学習したことをまとめ，自分自身の振り返るとともに，４年生への意欲付けにする。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、尾瀬ヶ原ハイキング

尾瀬ハイキングへ行く前日、尾瀬高校を訪問し、ネイチャーガイドとして案内してくれる高校生との顔合わせを行った。グループごとに自己紹介をしたあと、尾瀬高校の施設を案内してもらった。実験施設などが整っており、子どもたちは目を輝かせて高校生の話を聞いていた。植物園（ミニ尾瀬）では、実際に尾瀬で使われていた木道が再利用され、その上を歩けるようになっていた。尾瀬でのマナーや、山の歩き方などを実際に体験しながら学ぶことができた。

尾瀬での自然体験の当日は、天気に恵まれ、尾瀬高校の生徒にガイドをしてもらい元気に出発した。

ガイド役の高校生は、尾瀬の歴史や植物の名前、周囲に見える山々の名前や水中の生物についてなど、途中で立ち止まりながら話をしてくれた。子どもたちも、質問をしながら、興味深く話を聞いていた。紅葉も見事な時期であり、子どもたちも自然の雄大さや美しさに感動しながら歩くことができた。

【尾瀬高校生によるネイチャーガイド】

また、鳥や鹿の声が聞こえたり、熊が登った形跡の残る木が見られたりするなど、動物たちが尾瀬の自然の中で生きている様子を感じることができた。子どもたちの体力を考えながら歩き、声をかけて励ましてくれたおかげで、楽しく安全にハイキング行うことができた。

2、かまど作り体験・火おこし体験・川での体験

民宿の近くに流れている塗川で、かまど作り体験と火おこし体験を行った。川原で石を拾ってグループごとにかまどを作った。安全を優先させる必要があるため，軍手をはめ、川岸に下りて一人一つ石を持ってくるという作業を繰り返した。子どもたちは，どんな石を集めたらいいかグループで話し合い、知恵を絞っていた。石を集め終わるとかまどにかける鍋の大きさや風向きを考えながら組んでいく。この間，教師や指導員は口や手を出すことを極力控え，子どもたちに試行錯誤させた。かまどが完成すると火おこしである。火おこしは，焚きつけ用の新聞紙１枚とマッチ５本だけで行った。ここでも，教師や指導員は，見守ることに徹した。

子どもたちは，火をおこすために，「ああでもない，こうでもない。」とグループごとに頭をひねっていた。見事に火がついたときは，一斉に「やったあ。」と歓声があがった。満面の笑顔であった。

その後，鍋を火にかけて、すいとんを作った。おいしいと満足顔であった。最後は、冷えた石から順に河原へ戻し、薪や炭の片付けまで行って体験活動を終えた。

【川原でのかまど作り体験】

3、武尊牧場自然散策

民宿からマイクロバスで約 20 分のところに、武尊牧場がある。白樺の木々が立ち並ぶ広々とした高原で、晴れていると武尊山の連峰、遠くには富士山も見ることができるそうだ。自然観察のための遊歩道があり、現地のガイドの方が班に付いて案内をしてくださり、約１時間のトレッキングを行った。

遊歩道は、ブナの原生林に囲まれており、子どもたちはふかふかな落ち葉の上を歩いた。途中で白樺やブナの木の話を聞いたり、ブナの実を拾ったりするなど、楽しみながら活動した。遊歩道の途中には、湧き水が出ている水場もあり、澄んだ水の冷たさに感激していた。

最後に、ブナの木に聴診器をあてて水を吸い上げる音を聞いた。秋なので、吸い上げる水の量は少ないとの説明を受けたが、かすかに聞こえる水の音を探し当てると、うれしそうな表情

を浮かべていた。

遊歩道の散策後は昼食を食べ、広場で遊ぶ時間を取った。草の上を班の友だちと走り回ったり、転がったりして、尾瀬ヶ原とはまた違う高原の自然を満喫することができた。水源林としての山や森の役割を体験から学ぶことができた。

【ブナの木に聴診器をあてる児童】

＜学習体験活動＞

1、農業体験（稲刈り・脱穀）

民宿の方々をゲストティーチャーとして招き、稲刈りと脱穀の体験を行った。３日目には稲刈り体験として、「刈り取り」「束ね」「つるし」「落ち穂拾い」までの一連の作業を行った。

民宿の方に鎌の使い方を教えていただき、クラスごとに稲を刈った。作業の中で一番難しかったのは「束ね」だった。わらを使って、刈り取った稲をしっかりと結ばなければならない。つるす前にほどけてしまうものもあったが、民宿の方に教えてもらいながら、何回も束ねる作業をするうちに、固く結べるまでになった。民宿の方にもほめてもらい、嬉しそうに作業していた。みんなで協力し、予定していた田の稲をすべて刈ることができた。最後は、全員で落ち穂拾いを行った。実際に、体験をしてみて農家の方々の苦労を感じることができたようである。作業の後、きれいに刈り取られた田んぼを眺めながら子どもたちは達成感を味わっていた。

５日目は、脱穀の仕方を教えていただいた。つるしてある稲を脱穀機に入れ、残ったわらを縛って束ねる作業をした。脱穀機を使うため、安全については事前指導をした。子どもたちは、稲をもって行列を作るなど、はりきって作業に取り組んだ。もみの入った 30ｋｇの袋を運ぶ作業では、あまりの重さに驚いていた。

【稲刈り体験の様子】

2、片品北小学校との交流会

片品北小学校は、全校児童 60 数名の小規模校である。今年度も全校を挙げて迎えてくれた。はじめに、互いの代表者があいさつをしたあと、片品北小の子どもたちがポスターセッションをしてくれた。４年生から６年生までが一人ずつテーマを設定し、尾瀬の植物や動物、環境の問題など、写真や絵を使って一生懸命に紹介してくれた。尾瀬についての知識を深めることができた。

続いて、三小の児童が「わたしたちの町や学校の紹介」を行った。パソコンで写真を紹介するスライド形式にて、プレゼンテーションを行った。

最後に尾瀬カルタ大会を行った。このカルタは、片品北小学校の卒業生が在学中に描いた尾瀬の花などをカルタにしたものである。笑顔で交流会を終えることができた。

【片品北小の児童による発表会】

＜生活体験活動＞

1. 民宿の方とのふれあい

96 名の児童が，12 軒の民宿に分かれて宿泊した。最初は、不安顔で遠慮がちだった子どもたちも、一緒に過ごすうちに宿の方ともうち解けていった。畑で収穫の手伝いをしたり、台所で一緒に食事を作ったり、こたつで語り合ったり、それぞれが家族のように民宿の方と関わらせてもらった。最後の夜は、感謝の会を開いた。

手紙を贈ったり、リコーダーや歌を披露したり、カルタをして遊んだりと、各宿とも心のこもった会になった。一緒に過ごしたこれまでの日々を思い出し、寂しさのあまり泣き出してしまう子も多く、感動的な「感謝の会」になった。

８日目の勤労体験活動では、民宿の方へ感謝の気持ちをこめて、清掃をしたり、農作業を手伝ったりした。なかには、初めてふとんをほした子や、初めて風呂掃除をしたという児童もいて苦戦していたが、民宿の方から「ありがとう」という言葉をもらい嬉しそうであった。

【感謝の会でのリコーダーの演奏】

○児童の感想

・班の仲間と協力して、ふとんを出したり片付けたりしました。行動が遅れて迷惑をかけたこともあったけれど、セカンドスクール前より成長できてよかったです。

・ある日、班のみんなとケンカをしました。理由は、「言葉の強さ」でした。夜の学習時間を削って、みんなで話をしました。お互いのことを話し合って、謝り、仲直りをしました。今後も、セカンドスクールでみんなと協力したことを忘れないで頑張っていきたいです。

・食べ物を育てるには、たくさんの時間と手間がかかっている。稲刈りや脱穀、花豆やリンゴの収穫を通して、お米一粒、リンゴ一つにも農家の方の苦労がつまっていると実感した。

・セカンドスクール２日目。カマを渡され、稲刈り。刈っても刈っても、まだまだある。宿のお母さんたちは、慣れた手つきで素早く結ぶ。ここまでが仕事だということを知った。
５日目。脱穀である。不要のわらをまとめて結ぶ。なぜ束ねる必要があるのか疑問に思い、宿のお父さんに聞くと、「わらを牧場にあげて牛のエサにする。その代わりに牧場から肥料をもらう。」と言う。資源を無駄にせず、牧場の人と共存していた。何気なく食べている米は、農家の方の苦労と努力のたまものであった。今後は、感謝して食べたいと思った。

○保護者の感想

・片品村や民宿での思い出を嬉しそうに話してくれました。「みんなで協力して，いろいろな体験を行い，一生懸命に活動してきた。」と満足そうです。

・家庭ではできない経験をたくさんさせてもらい，本当に感謝しています。

・食事の量が増えました。「宿のご飯がおいしかった。」と話す姿が，ひとまわり大きく見えました。これまでより好き嫌いなく食べようと努力するようになりました。
・セカンドスクールを終え、自分から早寝早起きをするなど生活リズムを整えようと気をつけるようになりました。また、家の手伝いも進んで行うようになりました。

○総合的な学習の時間の視点から

５年生の総合的な学習の中心的な学習として，セカンドスクールを位置付けた。セカンドスクールでは稲刈りや脱穀の体験をしたが、収穫体験だけでは子どもたちは米作りの工夫や苦労を実感することはできない。そこで、４月から総合的な学習の中で一人一つのバケツで稲を育てた。社会科の学習で学んだことも活かし、米作りを実際に体験させることができた。

３学期には，４年生に向けてセカンドスクールについて伝える発表会を行う。活動内容だけでなく、そこで学んだことや感じたことなども分かりやすく伝えられるように指導していく。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・集合時間を守る意識が高く、全員が 10 分前行動をできていたことは大きな成果であった。
・プレセカンドスクールと同じく本部宿から離れての分宿であったため、それぞれの宿において規則正しく生活することができた。充実した８日間を過ごすことができた。
・宿の中では子ども同士の衝突やケンカもあったが、原因を探り、今後の方向を話し合い、自分たちで解決することができた。大きな事故もなく，落ち着いて生活することができた。
・この大きな行事を支えてくださっている人々がいることを理解し，かかわる方々に感謝の気持ちをもって接することができた。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度の４年生（現５年生）より、プレセカンドスクールを分宿にした。以前までは、プレセカンドスクールにて指導していた宿での生活（食事や入浴の仕方とマナー、部屋の片付けや荷物の整理）について、徹底されていない場面が見られた。宿泊行事における生活の基本（食事・入浴・荷物整理・部屋の片付けなど）を事前に指導する必要性を感じた。
・熱を出し本部宿で様子を見た児童が数名いた。秋の山間地の朝晩は、東京の真冬並みに冷え込むため、手洗いとうがいの指導に加えて、就寝時の靴下の着用も徹底すべきであった。
・山間部の道路のためバス酔いする児童が多く出た。バスの運転手と相談し、速度を落としてもらうことにより、バス酔いを軽減することができた。計画段階から時間に余裕をもち、活動がスムーズに行えるよう、現地のコーディネーターと綿密に相談する必要があった。
・現地での活動（農作業など）について、原発事故を心配する家庭からの申し出により活動の制限や変更、個人的な不参加があった。今後、このような状態が続くのであれば、全員参加ができるよう、活動場所や活動内容を検討する必要がある。

セカンドスクール

第四小学校　　6月2日～6月8日（6泊7日）

○日程表

６月２日（木）		６月３日（金）		６月４日（土）	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
8:30	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
13:30	戸狩到着・開校式	9:00	田植え体験	9:00	ハイキング体験
15:00	はし作り体験	12:00	昼食	12:00	昼食
18:00	夕食	13:30	雪国のくらし	14:00	自由散策
19:00	入浴	14:30	宿ごと体験	16:00	手紙を書こう
20:00	健康観察	18:00	夕食	18:00	夕食
	語らいの時間	19:00	入浴	19:00	入浴
	今日のまとめ	20:00	健康観察	20:00	健康観察
21:00	就寝		語らいの時間		語らいの時間
			今日のまとめ		今日のまとめ
		21:00	就寝	21:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

＜４月下旬＞

・セカンドスクールのオリエンテーションを行い、飯山市についての基本情報（位置、気候など）について知り、セカンドスクールでどのような学習をしていくのか説明し、活動の見通しをもたせた。

＜５月中旬～下旬＞

・長野県飯山市について、自分で調べたいテーマ（観光・農業・地形・自然・歴史・伝統工芸など）を決めて調べ学習を行い、「飯山宣伝ポスター」を作成した。雑誌、パンフレット、インターネットなど様々な方法で情報を収集し、図や写真を用いて自分の伝えたいことを効果的にポスターに表現した。ポスターが完成した後に全体で中間発表会を行い、調べてきたことについての情報交換を行い、活動への意欲を高めていった。

長野県飯山市戸狩

参加人数　男子34名　女子30名
計　64名

６月５日（日）		６月６日（月）		６月７日（火）		６月８日（水）	
6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食	7:00	朝食
9:00	ブナの森ハイキング	9:00	林業体験	9:00	焼き板体験	8:00	荷物整理
12:00	昼食	13:30	飯山の歴史		笹すし作り		部屋掃除
14:00	お別れ､お迎えの会	15:00	手すき和紙体験	12:00	昼食	9:30	閉校式
14:30	わらぞうり作り体験	18:00	夕食	14:00	セカンドスクールをまとめよう	10:00	戸狩出発
17:30	夕食	19:00	入浴	16:00	宿の方々への手紙	12:00	昼食
19:00	ｷｬﾝﾌﾟﾌｧｲﾔｰ	20:00	健康観察	17:30	入浴	15:30	学校到着・到着式
20:00	入浴		語らいの時間	18:00	お別れ夕食会		解散
	健康観察		今日のまとめ	19:00	感謝の交流会		
	語らいの時間	21:00	就寝	20:00	健康観察		
21:00	就寝				今日のまとめ		
				21:00	就寝		

② 事後の学習内容

12 月初旬の学習成果発表会「セカンドスクールを伝えよう」「セカンドスクール交流会」へ向けての準備を進めている。４年生に来年度のセカンドスクールを楽しみにさせる発表を行うことを学習課題とし、現地で学習してきたことでどの内容を中心として伝えていくべきかを考え、発表準備に取り組んでいる。発表の仕方についても、どの方法が一番相手に伝えやすいのか児童自身が考え、紙芝居、ＩＣＴ活用、劇化、実物提示など様々な発表形態が見られている。

また、現地の宿の方々や指導員の先生方を本校に招待し、保護者も交えた「セカンドスクール交流会」も同日に実施する。セカンドスクールでの楽しい思い出を寸劇で表現したり、本校での学習の成果を様々な場面（みそ汁作り、演奏披露など）で発表したりしてセカンドスクールを通した自分自身の成長を実感させるとともに、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを込めた活動を行う予定である。児童、保護者、宿の方々の三者が顔を合わせた心温まる交流会であり、戸狩の方々との心の交流をさらに深めていく場でもある。

○特色ある活動内容

1、箸作り

飯山市戸狩で宿の方々から歓迎を受けた開校式の後、児童が現地で初めて行う体験活動が「箸作り」である。セカンドスクール滞在期間中毎日の食事で使用する箸であり、子供たちもより良い箸を作ろうと真剣に竹を削っている姿が印象的であった。小刀を使用して作るため、削ることの難しさや戸惑いも見られたが、分からないことや上手に作るコツを宿の方々に教えていただきながら、全員が箸を完成させた。宿の方々に遠慮がちであった児童も、個の活動を通して緊張が解れた様子であった。セカンドスクール後も、各家庭でこの箸を使用している児童が多くいる。

【はし作り体験の様子】

2、田植え体験

「飯山ではなぜおいしい米が作れるのか」という学習課題を設定し、「田植え体験」を実施した。体験前に宿の方々からおいしい米を作るために必要なことについてお話をいただいた。冷たい水やよい土作りが必要であること、また天候によって水の量を変化させるなど毎日の世話が重要であることなどを教えていただき、児童も理解を深めていた様子であった。

田植え体験では、児童の大半が水田に足を入れることが初めてであったため、「気持ち悪い」「バランスがとりづらい」などの声が多く聞こえたが、しばらくすると「楽しい」「土の感触が気持ちいい」と夢中で活動に取り組んでいる姿が目立つようになった。一つ一つの苗を１列ずつ揃えて植えることや、意外と時間がかかったため、活動の楽しさを感じながら「おいしい米を作るためにこのような努力があったんだ」と感じ取った児童も多く、帰京後給食を残さずに食べようとする態度が見られるようになった。食育の視点からも価値のある活動であった。

3、宿ごと体験

各宿の方々がそれぞれの宿の特色を生かした体験活動を用意してくださる時間である。都会ではなかなか経験することのできない体験活動に、子どもたちも楽しみながらいきいきと取り組むことができた。活動内容は以下のとおりである。

・うちわ作り　・竹馬作り　・そば打ち体験
・よもぎ餅作り　・餅つき体験　・バームクーヘン作り

【うちわ作り体験の様子】

【餅つき体験の様子】

【よもぎ餅作りの様子】

4、ハイキング体験（とん平）

とん平高原のハイキングを通して、都会では見られない植物や生き物に触れ、自然に親しむ活動プログラムである。各宿の方々から飯山で見られる植物や生き物の説明をしていただき、児童は都会との環境の違いに驚いた様子であった。また、食べられる植物がたくさん見られたことにも驚きを隠せない様子であった。

【とん平の頂上にて】

とん平の頂上では、東京では見られない盆地の様子を一望できた。山と川が長い年月をかけて創り出した地形の美しさに、児童も感動していた様子だった。社会科「日本の地形の特色」や理科「流れる水のはたらき」といった単元にも関連し、帰京後学習を行う際には児童から「とん平で見た景色と同じだね」という発言も聞くことができた。体験活動が日頃の学習にも結びついてきていることに、担任として嬉しさを感じた。

5、ハイキング体験（ブナの森）

標高の高い地域で見られる「ブナ林」について、理解を深めていくための体験活動である。東京では全く見られない理由、ブナの木が果たす役割、伐採の歴史など宿の方々に丁寧に教えていただきながら、ブナの森を歩き自然に親しむプログラムである。吸水力の高いブナの木の果たす役割について知った児童は「なぜ多くが伐採されてしまったのか」という疑問を抱き、進んで質問を繰り返す姿が見られた。また、過度の伐採が人間の住む環境までも壊してしまうことを知った児童は、自然環境保護の大切さを改めて感じ取った様子であった。

6、わらぞうり作り

雪国の暮らしの中では必需品であった「わらぞうり」を一つ一つ手作業で作り上げる体験活動である。５年生の国語科「わらぐつの中の神様」にも関連付けることに加え、わらぞうり１つを作り上げるのに多くの時間を費やすことを感じ取ってもらいたいと考え、この体験活動を取り入れた。宿の方々や事前講習を行った指導員の先生方からアドバイスをいただきながら、子供たちは２時間以上座ったままわらぞうり作りに取り組んだ。途中で断念してしまう児童が出てもおかしくない活動ではあるが、64 名の児童が全員１足のわらぞうりを作り上げることができ、自分で作ったわらぞうりを履いて地面を踏み締める姿に、児童の充実感が感じられた。

7、手すき和紙体験

飯山市は、和紙作りに適した気候と、飯山和紙の原料となる「こうぞ」栽培が盛んな地域であり、和紙作りが盛んに行われていた。飯山市内でも、和紙を作っている数少ない製紙工房の１つである阿部製紙工房で、和紙作りの体験学習を行った。飯山和紙の歴史や和紙をつくる原料について説明を聞くグループと、実際に手すきで和紙を作ってみるグループに分かれて学習を行った。工房の中の様子は機械の不具合により見学することはできなかったが、普段は見ることのできない職人さんによる手すき和紙作りの様子を見せていただいた。伝統工芸であることに加え、職人さんの和紙に対するこだわりがその場の雰囲気に出てきており、子どもたちも

緊張した面持ちで見学をしていた姿が非常に印象的であった。一つ一つのこだわりが、伝統工芸を作り上げていることに対して、子どもたちは理解を深めた様子であった。

8、お別れ夕食会

６日目の夜には、各宿で子どもたちが宿の方々への感謝の気持ちを込めて企画したお別れ夕食会が開催された。これまでお世話になったことの感謝の気持ちをどのように伝えればよいか、自由時間などを活用し子どもたちは意見を出し合いながら準備を進めてきた。劇や歌などの出し物、手作りのプレゼントなど感謝の気持ちを十分に伝えることができたようである。会の途中で涙を流す児童もおり、各宿の子どもたちの一体感が感じられた素晴らしい会となった。

○児童の感想

・お別れの日までにいろいろなことを学びました。例えば友達の大切さ、普段ふつうに食べている食事はどんなに大切かということです。最後に父ちゃん母ちゃんに伝えます。「ありがとう。」
・楽しみだった林業体験が始まると最初に木を切る意味を教わりました。「木を切るのは他の木に日光を当てるためだよ。」と教えてもらいました。その後細い木や太い木を何本も切り、合わせて 15 本ぐらいになりました。
・一番心に残ったのは宿ごと体験です。ロッジかのえでは竹馬を作りました。作るのはむずかしかったけどお父さんが手伝ってくれてうまくできました。竹馬は乗れなかったのに、１日練習したら乗れるようになりました。
・セカンドスクールは６泊７日と友達と過ごす時間が長いので、お互いのことをよく知ることができました。学んだことは今後も役立てていきたいと思いました。
・一番の思い出は『はし作り』です。時間ぎりぎりで終わりそうもない時に、「あわてないで、大丈夫だよ。絶対に終わるから」とやさしく声をかけてもらい完成させることができたからです。
・宿ごと体験では、宿のお父さんお母さんのおかげで、りっぱなうちわを作ることができました。これから暑くなるので節電し、うちわで毎日を過ごしていきたいと思っています。
・東京都では、一日中機械音が鳴りっぱなしですが、飯山市では機械音の代わりにカエルの鳴き声がします。初めて聞きました。セカンドスクールは、記おくに残る７日間でした。
・セカンドスクールでは「ありがとう」を何度言っても足りないくらいとてもたくさんお世話になりました。長くて短かった７日間は、まるで一つの大家族になったようでした。

○保護者の感想

・自分(親)達も体験したことがなく、子どもにもなかなか機会を与えてやれない貴重なたくさんの体験を、何より友達と共に、その中で自分のものとすることができたことは、子どもにとって本当に大きな成長の糧になったと思います。ありがとうございました。
・はし作りから田植え、わらぞうり作り、ハイキングなど、東京ではなかなか体験できないことなので、本人もとても楽しく過ごせたようです。宿のお父さん、お母さんがとても優しく、帰る日が辛かったと話していました。
・戸狩のお父さん、お母さんには、大変お世話になりました。家庭のみならず、愛情をたっぷり注いでくださるお家ができて、子どもの故郷が一つ増えたようです。
・「何が一番楽しかった？」と聞くと、「遊んだこと。」と返事が返ってきました。豊かな自然

の中で、身体、五感を使いたっぷり遊べるのはすばらしい体験だったのではないかと思います。
・都会暮らしでは味わうことのできない自然を満喫できるよい体験であり、武蔵野市教育のすばらしい特徴だと思うので、是非続けてほしい。

○総合的な学習の時間の視点から

本校では、セカンドスクールを５学年の総合的な学習の時間の中心的な単元としてセカンドスクールを位置付けている。１学期から２学期まで、今年度は 45 時間の指導計画である。

実施時期	指導内容と単元名　　（・は主な内容）
１学期	『出会い・ふれあい…セカンドスクール』４月～６月 「飯山ってどんなところ？」（４時間） ・オリエンテーションを行い、セカンドスクールについて知らせる。 ・調べ学習テーマの選択。資料や取材活動、インターネットを活用した調べ学習。 ・グループごとに情報交換を行い、課題を深める。
	「セカンドスクール」６月上旬（30時間） ・現地での体験や課題別学習による課題の追求。 ・自然や現地の方々との交流、新たな課題の発見。
	『セカンドスクールをまとめよう』６月中旬 「これまでの学習をまとめよう」（１時間） ・事前学習や現地で学んだことを作文で表現する。
２学期	『セカンドスクールを伝えよう』10月～12月（10時間） ＜セカンドスクール学習発表会＞ ・発表したい体験活動を考え、グループに分かれる。 ・グループごとに発表の内容や方法、発表の流れなどを話し合う。 ・役割分担をし、練習や準備をする。 ・グループの発表を互いに見合い、伝えるための工夫などについて話し合う。 ・４年生へ向けてセカンドスクールの発表を行う。 ＜セカンドスクール交流会＞ ・宿の方たちへの感謝の気持ちを込め、役割分担して準備を進める。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・児童が宿泊行事に対する見通しをもって準備や事前の学習に取り組み、５分前行動や荷物整理など昨年度学習したことが、今回の集団行動や各民宿での生活に活かされていた。
・健康面や生活面で配慮を要する児童を事前に把握できたので、対応しやすかった。

○次年度へ向けての反省・課題

・事前学習の課題解決学習が、現地での活動プログラムと更にリンクしたものである方が望ましい。以前まで取り組んできた「課題別学習」をプログラムに組み入れることで、事前学習と現地での活動がつなげていくことができるのではないか。
・児童の実態に合った計画を迅速に立案、実行できるよう、観光協会との連携、情報交換、協力体制を要望していくことが今後も継続して必要である。

セカンドスクール

第五小学校　　9月21日～9月27日（6泊7日）

○日程表

９月２１日（水）		９月２２日（木）		９月２３日（金）	
8：15	学校集合	6：45	起床	6：45	起床
	出発式	7：30	朝食	7：30	朝食
8：30	学校出発	9：30	日本文化体験	9：30	川の学習
11：45	レイホー八海到着		・つむぎ体験		・上流・中流・下流の見学
12：00	昼食		・鈴木牧之記念館見学		
13：20	八海山ロープウェイ	12：30	昼食	12：00	昼食
14：30	開校式	14：00	カントリーエレベーター見学	13：30	オリエンテーリング
15：00	各民宿へ	16：00	民宿帰着	16：00	民宿帰着
16：30	入浴	16：30	入浴	16：30	入浴・洗濯
18：00	夕食	18：00	夕食	18：00	夕食
19：00	学習のまとめ	19：00	学習のまとめ	19：00	学習のまとめ・はがき書き
21：30	健康観察・消灯	21：30	健康観察・消灯	21：30	健康観察・消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

【４年生２学期】

・プレセカンドスクールを実施し、川場村の散策やリンゴ狩り体験、酪農体験等を行った。

・５年生のセカンドスクール報告会に参加し、セカンドスクールへの興味関心を高めた。

【５年生１学期】

・国語科や社会科の学習を中心に、グループごとに、学校の中で調べ学習の事前学習として、観察の仕方や、課題発見の仕方などの学習をした。

・総合的な学習の時間で、セカンドスクールについてのオリエンテーションを行い、６泊７日の生活に対する期待と覚悟をもたせた。また、民宿の方や指導員の先生に自己紹介カードを書いた。

【５年生２学期】

・茶道クラブの顧問の下、ランチルーム和室で日本文化体験の事前学習として、座敷への上がり方、和室での作法について等を学んだ。

・（７月下旬に実施地の変更が決まったため）社会科で新潟県南魚沼市についての地理や気候など、基本的な学習をした。

・民宿ごとに必要な係活動の話し合いを行い、児童の自主的な活動を促すようにした。

新潟県南魚沼市

参加人数　男子29名　女子24名
計53名

９月２４日（土）		９月２５日（日）		９月２６日（月）		９月２７日（火）	
6：45	起床	6：45	起床	6：45	起床	6：45	起床
7：30	朝食	7：30	朝食	7：30	朝食	7：30	朝食
9：30	農業体験	9：30	登山	9：30	五十沢小との交流	9：30	学習報告会
	・稲刈り・はざかけ			12：30	昼食（お弁当）		
12：30	昼食	11：30	昼食（お弁当）	13：30	民宿帰着	12：00	昼食
14：00	座禅体験				民宿ごとの活動		
16：00	民宿帰着	13：00	郷土食作り		・みんなで作ろう	13：15	閉校式
16：30	入浴・洗濯	16：00	民宿帰着	18：00	夕食	13：30	六日町出発
18：00	夕食	16：30	入浴・洗濯	19：00	感謝の会	17：00	学校着
19：00	星空学習	18：00	夕食	19：30	入浴	17：15	帰校式
19：30	学習のまとめ	19：00	学習のまとめ	20：00	学習のまとめ	17：30	解散
21：30	健康観察・消灯	21：30	健康観察・消灯	21：30	健康観察・消灯		

②　事後の学習内容

・セカンドスクールでの体験を振り返り、自分の成長を中心に作文に表現した。
・セカンドスクールでの体験をもとに個人で課題を設定し、課題ごとのグループを作って調べたことをまとめた。それをセカンドスクール発表会で４年生に発表することにより、自分が選択していない課題についても学ぶことができた。
・民宿の方々など、お世話になった方々へお礼の手紙を書いて送った。
・お世話になった方々を招いて六日町交流会をもち、収穫した米を使っておにぎりを作ったり、セカンドスクールを通して学んだことを発表したりするとともに、感謝を伝えることができた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、お松の池オリエンテーリング

民宿のすぐ近くにあるお松の池で、活動班に分かれてオリエンテーリングを行った。周囲約１㎞のお松の池には、豊かな自然が残る。その中の数か所にチェックポイントとして教員が立ち、児童は、定められたタイムでの

【オリエンテーリングをしたお松の池】

ゴールを目指しながら、各チェックポイントの教員が出す課題に楽しく挑戦していた。今回のオリエンテーリングの目的は、新潟県や南魚沼市のことをよく知ることと、活動班の団結を深めること。このオリエンテーリングを通して、どの班も児童同士の距離がぐっと縮まり、団結した姿を見ることができた。

【課題に答えている様子】

2、坂戸山登山

標高 634 メートルの坂戸山に登った。ここは昔直江兼続の山城があったところで、昔の人は鎧を着て登ったのだということ、また、それにより、難攻不落の城であったことなどをインストラクターの方の話から知り、児童は昔の人の強さを感じながら登っていた。また、当日は天気も良く、途中途中で登ってきた麓の方を見ると、南魚沼の町や、民宿のある上の原地区、見学したカントリーエレベーターまで見渡すことができた。山道では、珍しい植物に目をとめ、インストラクターの方に質問したり、友達同士教え合ったりする姿が見られた。

セカンドスクール開始前の気候がとても暑かったため、家から水筒の他に空のペットボトルを持って行かせ、それにもお茶を入れて登山に臨んだ。当日はそれほど暑い日ではなかったが、児童は十分に水分をとることができ、安全に下山することができた。

3、星空学習

３日間雨が降り続いたあとの４日目、月もなく、星空がたいへんきれいで、北極星、北斗七星、カシオペア座、天の川等たくさんの星を見ることができた。校長先生に講師をお願いし、北極星の見つけ方や、夏の大三角の見つけ方を教わった。時には流れ星も見られ、武蔵野の夜空とは比べ物にならないほどの美しい星空に、児童達は時を忘れて見入っていた。

＜学習体験活動＞

1、農業体験①（稲刈り・はざかけ）

２日目に予定していた稲刈りが雨のため４日目に延期になった。縦 100m、横 20mの田んぼが何枚も広がる光景と、たわわに実った稲を見て、児童達は驚きの声をあげていた。講師である田んぼの持ち主の方から、「農家の方が大切に育ててきた稲なので、一粒も無駄にしないように。」とのお話があり、他の田んぼの中に落ち穂が一本も落ちていない様子を目に焼き付けて、稲刈り体験が始まった。各民宿のお父さん方もお手伝いに来てくださり、民宿ごとに一人一人鎌を借り、扱い方から教えていただき、収穫した。児童は、刈ることにはすぐに慣れ、どんどん刈っていくのだが、何株かをまとめて束にすることは難しいと見えて、ぎこちない手つきで苦労しながら束ねていた。いくら刈ってもまだまだ稲の波が続いている様子に、児童は手で刈っていたころの人々の苦労を感じることができた。最後には、他の田んぼと同じように一本の落ち穂もないように拾った。その後、束ねた稲の束をはざにかけるところまでを体験した。

2、農業体験②（カントリーエレベーターの見学）

ＪＡ魚沼みなみのカントリーエレベーターを見学した。田んぼで刈り取られた米がどのようにして運ばれ、その後、どんな道筋をたどって製品となるのかを分かりやすく解説していただ

いた。稲刈り最盛期ではあったが、見学当日は雨天のため、米を運び入れる車もなく、安全に見学することができた。

3、川の学習

インストラクターの解説のもと、川の上流、中流、下流と場所を移動しながらそれぞれを観察した。児童は川幅や河原の広さ、石の大きさをじっくりと観察することができた。石が水の流れで倒されてできる現象『インプリケーション』という用語も教わり、ファーストスクールでの理科の学習に大変役立った。

4、学習発表会

グループごとに６泊７日の民宿での共同生活や自然体験　活動などを振り返り、それを一人一人が漢字一字に表して発表した。様々な体験を通して感じたこと、感動したこと、集団生活の中で協力することや相手を思いやることの大切さなどを発表した。また、セカンドスクールを通して自分が成長したと思うことを発表した。

＜生活体験活動＞

1、郷土食作り（ちまき）

レイホー八海で、地域のお母さん方に郷土食であるちまき作りを教えていただいた。笹の扱いや縛ることが難しく、くじけそうになりながらも、なんとか一人２つずつ作り終えることができた。このちまきは、宿に持ち帰って茹でていただいて、次の日の朝食の時試食した。南魚沼の餅米を使った郷土食作りを体験したことで、より一層米どころとしての南魚沼が意識されたようだ。

2、民宿ごとの活動（みんなで作ろう六日町の食事）

民宿ごとに、『もちつき』『そばうち』『まいたけごはん』作りを、民宿の方と一緒に行った。６日目ということもあり、宿の方とも和気あいあいと作業を進め、できあがった食事は宿の方と一緒に楽しくいただくことができた。児童は大勢の食事を用意することの大変さを知り、また一つ、宿の方への感謝の気持ちが生まれたようだった。

＜地域の人々とのふれあい＞

1、五十沢小学校との交流

南魚沼市立五十沢小学校（現地では五小と呼ぶ）との交流を実施した。お互いに用意しておいた名刺を交換し、グループごとにそれぞれの学校、市、県や都を紹介し合った。その後、一緒にゲームをしたり、校内を案内してもらったりした。昼食は、五十沢小は給食を、第五小は民宿のお弁当をグループごとに丸くなって食べた。帰りには、児童が乗ったバスが見えなくなるまで見送ってくれた。短時間ではあったが、同じ５年生同士意気投合し、活動を楽しむことができた。

＜日本の伝統文化体験活動＞

1、つむぎ体験

つむぎ記念館において見学とつむぎ体験を行った。塩沢地区の伝統的な織物には何があるのか、何でできているのか等をお話しいただいた後、一人一人機織り機の前に座り、自分の選ん

だ２色の横糸を使ってつむぎを織る事を体験した。一人３㎝織っては次の人と交代するのだが、織るのは楽しいが、３㎝織るのに約 15 分もかかり、児童は織物を織ることの大変さに驚いていた。このつむぎは、一人一人の作品として仕上げて持ち帰るのではなく、７～８人でリレーしてつなげて織り、１枚の作品として持ち帰った。自分がどこを織ったのか、わかるように名前シールを貼り、秋の学校公開で展示し、保護者にも見ていただいた。７枚のランチマット大の物が出来上がったが、どれも反物にしておきたいような出来栄えで、児童も満足していた。

２、鈴木牧之記念館見学

江戸時代のベストセラー『北越雪譜』を書いた鈴木牧之の記念館を見学し、学芸員の方の解説を聞いた。ここには、牧之関連だけではなく、北国の生活の様子や道具類が展示されており、児童は、自分たちの生活とは縁遠い北国の人々の生活の知恵に触れ、冬の様子に思いをはせているようだった。

３、牧之通り散策

牧之記念館からほど近いところに、江戸時代の面影を再現した牧之通りがある。ここでは、電柱も地下に埋め込み、通りの店もそれぞれに江戸時代を感じさせるよう工夫している。どこの店も出入り自由で、児童はどんどん店に入って行っては話を聞いていた。また、牧之記念館で聞いてきた信号機の向きについても、実際に信号機を見て納得することができていた。

４、座禅体験

上杉景勝や直江兼続が幼少期に修業したという禅寺雲洞庵で、見学と座禅体験を行った。クラスごとに分かれ、座禅の座り方から教えていただき、約 10 分間程度姿勢を正し精神を統一して、静けさの中に身を置いた。たった 10 分程度でも、足のしびれに耐え、じっと静かに座っていることは児童にとっては貴重な経験だったと言える。座禅終了後は、皆無口で歩き方も静かに移動することができていた。

また、見学では、お参りすると五つのご利益があるという説明を、一つ一つ熱心に聞き入っている姿が見られた。

○児童の感想

・セカンドスクールを通して、とても成長したと思います。みんなで注意し合えるようになったこと、誰にでも挨拶できるようになったこと、協力し合えるようになったことなど、自分でも実感できるくらいとても成長したと思いました。
・成長したなと思うことは、お父さん、お母さんがいない中で、友達や指導員の先生方とだけで１週間過ごしたことです。友達との信頼関係がすごく深まったと思います。
・新潟は日本一の米どころだし、田んぼが多いことは聞いていたけど、本物は想像を絶するものでした。
・はじめはまず自分のことだと思ってやっていたけど、途中から『自分だけを思っていたらみんなと協力できないな。』と思い始めました。それからは、みんなと協力してがんばれるように自分のことよりもみんなのことを考えるようにがんばりました。

○保護者の感想

・去年のプレセカンドスクール同様、行く前は子ども本人の不安がとても大きく、行きたがら

なかったが、帰ってきたときには、「楽しかった。」という言葉が聞け、ホッとした。布団の上げ下げなど、自分でやってみようという意識が出てきたように思う。

・友達との絆がさらに深まったようだ。６泊７日一緒に過ごすことは、あの年頃の子どもにとっては、難しいこともあっただろうが、よい経験となった。今後、クラスや学年としてのまとまりがさらによくなっていってほしいと思う。

・帰って来てから、お手伝いをよくするようになった。協力し、助け合うことを学んできたからだろうか。

○総合的な学習の時間の視点から

本校の５年生は、総合的な学習の時間で、『触れ合おう人と自然』というテーマで学習を進めている。

事前学習では、観察の視点のもち方、課題の設定の仕方、課題解決の方法などを学び、学校の中でその実践をしてきた。また、セカンドスクールでの活動の目的を明確にもたせることで、見通しをもたせること、体験活動への意欲を高めることができた。

セカンドスクールでは、ファーストスクールでは味わうことのできない体験から、自分たちで課題を設定することで、課題発見能力や、問題解決能力を高めていった。

さらに事後学習では、体験し、得たことを生かして、自己の生き方に結び付けて考えさせながら、学習のまとめを行っていった。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・集団宿泊における基本的な事項（持ち物の管理や健康管理等）を、プレセカンドスクールで身に付けていたので、時間を守って規則正しく生活することができた。また、宿の中での大きなトラブルもなく、小さなトラブルは、自分たちで解決して、落ち着いて生活することができた。

・プレセカンドスクールを経験したことで、生活や活動全体の見通しがもて、長期の宿泊にもかかわらず、精神的に不安定になる児童もなく、生活を楽しむことができた。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年まで川場村で行っていた『テーマ活動』を取り入れていきたい。今年度は、宿ごとの活動以外のすべてが学年またはクラス一緒の活動であったので、グループ別の活動を設定し、児童と現地インストラクターの方との触れ合いを多くし、児童一人一人に中身の濃い活動となるよう、工夫していきたい。

・今年度雨天により活動を入れ替えたが、午後の見学時間が変更できないため、午前中の稲刈りの時間が短くなってしまった。来年度は雨天により活動を変更する場合に、午前と午後の活動の組み合わせを工夫し、時間的な融通がきくようにしておきたい。

・セカンドスクール期間に、シルバーウィークがあるので、休日の活動に何をもってくるか、再検討する必要がある。

・オリエンテーリングは、時間がかかり過ぎたグループがあったので、今後は内容とチェックポイントの再検討をする必要がある。

セカンドスクール

大野田小学校　　9月21日～9月27日（6泊7日）

○日程表

９月２１日（水）		９月２２日（木）		９月２３日（金）	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
8:00	出発		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理
12:00	昼食、 休憩（小布施ＰＡ）	6:45	朝食準備	6:45	朝食準備
13:20	戸狩到着、開校式	7:00	朝食、片付け	7:00	朝食、片付け
13:50	各宿舎着、荷物整理、避難訓練	8:00	活動準備	8:00	活動準備
15:00	はし作り	9:00	宿別体験活動１	9:00	課題別学習１
16:00	民宿の方との話し合い	12:00	昼食、片付け	12:00	昼食、片付け
17:00	健康観察、入浴	13:00	宿別対抗ドッジボール大会	13:00	和紙鋤体験・伝統産業会館見
18:00	夕食、片付け	16:00	お別れ会準備		学・ふるさと館見学・飯山市内
19:00	今日のまとめ	17:00	健康観察、入浴		めぐり(寺院)
20:00	語らいの時間	18:00	夕食、片付け	16:30	宿舎着
20:40	就寝準備、健康観察	19:00	今日のまとめ	17:00	健康観察、入浴
21:00	消灯	20:00	語らいの時間	18:00	夕食、片づけ
		20:40	就寝準備、健康観察	19:00	今日のまとめ
		21:00	消灯	20:00	語らいの時間
				20:40	就寝準備・健康観察
				21:00	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・４年生２学期･･･「総合的な学習の時間」で現６年生からセカンドスクールについて発表してもらい、戸狩の様子や活動の内容について教わった。これを機にセカンドスクールのへの興味・関心を高めた。

・５年生１学期･･･ 「総合的な学習の時間」で「調査・体験ふれあい in 戸狩」として調べ学習を計画、課題別グループを作り、学年全体で事前学習を進めた。また、社会科での学習を生かし、農業についての理解を深めた。自分たちで分からないことは、現地で質問したいという意欲をもった。

・５年生２学期･･･課題別学習のグループで事前調査や質問事項のまとめを進める。宿別グループを作り、係活動の分担を決め、期間中のそれぞれの活動への理解を深めた。指導員との交流の場ももった。

長野県飯山市戸狩

参加人数　男子70名　女子52名
計122名

９月２４日（土）		９月２５日（日）		９月２６日（月）		９月２７日（火）	
6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
	洗面、寝具整理		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理		洗面、寝具整理
	朝食準備		朝食準備		朝食準備		朝食準備
7:00	朝食、片付け	7:00	朝食、片付け	7:00	朝食、片づけ	7:00	朝食、片付け
8:00	掃除、活動準備	8:00	掃除、活動準備	8:00	ハイキング準備	7:45	大掃除
9:15	稲刈り、はぜかけ	9:45	ブナの森散策	10:00	高社山ハイキング		荷物整理
11:00	もちつき	11:45	宿舎着	11:45	昼食		宿の方へのお礼、
12:00	昼食、片付け	12:00	昼食、片付け	13:30	ハイキング終了		あいさつ
13:30	課題別学習２	14:25	脱穀	14:30	宿舎着	9:15	集合、閉校式
15:30	課題別学習まとめ	15:30	宿別体験活動２		お別れ会準備	9:30	戸狩出発
16:30	宿舎着	16:30	健康観察、入浴	16:00	お楽しみバーベキ	11:45	昼食､休憩(横川ＳＡ)
17:00	健康観察、入浴	17:30	夕食準備		ュー準備	13:25	休憩（高坂ＳＡ）
18:00	夕食、片付け	18:00	夕食、片付け	18:00	夕食、お楽しみバー	14:30	学校着
19:00	今日のまとめ	19:00	今日のまとめ	19:00	ベキュー、片付け		帰校式
20:00	語らいの時間	20:00	星空観察	20:00	お別れ会		解散
20:40	就寝準備､健康観察		語らいの時間	20:40	健康観察、入浴		
21:00	消灯	20:40	就寝準備、健康観察	21:30	就寝準備		
		21:00	消灯		消灯		

② 事後の学習内容

・帰校後、現地での体験を作文に書いた。期間中によんだ川柳は学校便りに紹介された。また、お世話になった看護師さんへお礼の手紙を書いた。

・課題別学習グループごとに、事前学習で調べたこと、期間中に実際に体験したこと、質問して初めて分かったこと等を何度も話し合い、発表に向けて準備を進めた。４年生への「伝えよう、セカンドスクール」の発表会は 11 月 16 日に行った。今後は、発表にまとめた壁新聞等を、校内、保護者に向けて紹介する予定である。

・来年１月の保護者会で、セカンドスクール中の様子を撮影した映像を流し、子どもたちの成長について話しをする。

・現地での農業体験で収穫したお米は家庭科の調理実習で活用する予定である。

・社会科(産業)、国語(方言)等、ほかの教科の学習に関連させて体験を広く活用している。

○特色ある活動内容

＜課題別学習＞

本校では、セカンドスクールを５年生の「総合的な学習の時間」の学習活動の中心として位置付け、児童の主体的な取り組みを促している。更にセカンドスクール期間中では、体験的な活動を通して判断力を育成し、理論と心情の両面から飯山市や戸狩地区の人々や自然に触れ、コミュニケーション能力や、探究心を養う機会として重視している。特にその中でも課題別学習では、各自の興味関心を中心に課題を設定し、戸狩への理解を深めるという視点で、学年で話し合いながら課題を整理し、十分検討した上でグループの課題を決めている。従って児童は十分課題について理解した上でグループを形成し、調べ学習を進めることができる。

ファーストスクールとしては、事前の調べ学習、現地関係諸機関への問い合わせを行い、事後では、まとめと発表の時間設定に配慮している。その基盤の上に、セカンドスクールでの現地学習、フィールドワークが支えられると言える。夏季休業中も児童の自主的な調べ学習や資料収集が進められ事前学習の充実を図ることができた。保護者の協力も得られた。

また、観光協会を通じて、事前に知っておきたい情報を各宿の協力を得て教えていただいただけでなく、要望やお願いについても早めに知らせることで、連携を深めることができた。

課題別学習の現地講師は例年宿泊先の宿元の方にお願いしている。本校のこの活動に賛同し、毎年快く指導していただいている。年によって児童の興味関心が変化してくるが、いつも柔軟に対応してくれる。

今年度の課題別学習は以下の９グループである。

１　草花・虫　･･･　戸狩の草花や虫の観察、スケッチ　など
２　川　･･･　千曲川周辺の地理や様子、水温、住む魚や生き物、西大滝ダム　など
３　りんご　･･･　戸狩での農家の取り組み、畑の様子、加工食品　など
４　米作り　･･･　水田の様子、棚田、農家の工夫、品種の違い、特色　など
５　歴史　･･･　飯山の歴史、寺社の歴史、城下の様子、史跡めぐり　など
６　農業・特産物　･･･　戸狩地区の農作物の種類について、野菜の集荷場の見学　など
７　伝統工業　･･･　飯山の伝統工芸品について、歴史、お店の見学　など
８　観光　･･･　飯山の観光地、集客の工夫、温泉地の様子、市役所の観光課の方の話　など
９　雪国の暮らし　･･･　家屋の工夫の様子、街中での工夫、行政の取り組み、人々の声など

各グループで課題に応じた活動内容を計画し、場合によって戸狩にとどまらず、飯山市内各地に足を運び、児童の関心に応える見学先、体験を準備していただいている。
（移動の際にはマイクロバスが有効であった。）

【りんご】

＜自然体験活動＞

１、高社山ハイキング

直接自然に親しむ活動場面としては、高社山ハイキングとブナの森周辺散策を実施した。ハ

イキングについては高社山で行い、山登りによる達成感を児童に味わわせる目的で今年も計画した。天候不順により２日目から６日目に日程を変更したが、当日は涼しく体を動かすには丁度よい気候となり、当初のねらいを達成することができた。

高社山は冬季スキー場として使用される。９月は山菜取りもできる豊かな自然に囲まれ、植物を直接身近に感じることができる。コースの途中から周辺地域の地形を一眺できるポイントがあり、実際の景色から北信濃の様子を学ぶことができた。

昨年度、水筒のみでは水分補給が十分でない場合があるという課題については、空のペットボトルを持参し、水筒と共にお茶の用意をしてもらうという対応をとった。

２、ブナの森散策

ブナの森周辺の散策は、飯山の自然の特色であるブナの木について知る貴重な機会となり、森林の果たす役割を体感するよい活動となっていた。コースは、落ち葉ですべりやすい場所が多かったが、児童の健康・安全面に配慮しながら歩くことができた。宿元の方々に講師を依頼し、ほかの動植物について説明してもらいながら散策を楽しむ児童の姿が多く見られた。

＜宿別体験活動＞

～ジャム作り、焼板工作、うちわ作り、さつまいも堀り、野菜収穫など～

【郷土料理作り】

この活動も戸狩ならではの体験ができる本校の特色の一つである。各宿舎の宿元の方々が、長年の経験を生かし、それぞれ得意な分野での活動内容を計画し、毎年少しずつ工夫を重ねて準備してくださっている。事前にアイデアを出し合い、連絡を取り合いながら、児童が宿元の方々と交流を深めることができるようにという視点でも配慮した。今年は、ハイキングの日程変更に伴い、５日目から２日目に１回目を実施。急な変更にもかかわらず、宿元の協力で児童と早めに交流、宿のまとまりができたと好評であった。

＜学習体験活動＞

１、農業体験（稲刈り、脱穀体験）

【農業体験】

社会科で１学期に「米作り」については学習しているが、実際に、田んぼに足を踏み入れ、鎌を手に持ち体で感じる機会を持つことはセカンドスクールならではの活動である。今年は全員が体験できた。この活動も天候による日程変更をしたが、宿元の方々の協力でスムーズに実施することができた。

２、飯山の伝統工業見学・和紙すき体験

伝統産業会館では、飯山の歴史と文化を象徴する伝統工芸品である飯山仏壇と内山和紙について学ぶことができた。地理的要所であったこと、自然条件に恵まれたことで盛んになったこの技術のすばらしさについて見学し、そして隣接する工房で児童全員が手すき和紙作りを体験した。短時間であったが、はがき作りを学び、一人一人がはがきを２枚作った。はがきに、セ

カンドスクール中によんだ川柳を書き、今年度の展覧会で学年合同装飾として飾る予定である。また、ふるさと館では、飯山に暮らす人々の生活史を道具や映像資料を通じて知ることができた。地方の生活を知ることで、自分たちの住む武蔵野市に思いを馳せる児童もいて、社会科学習としても有意義な活動になった。

3、市内めぐり(寺社を中心に)

児童を３つのグループに分け、実際に町の中を歩きながら飯山の様子を直接見る機会を作った。「寺の町」として有名で、昔からの街道筋に沿って多くのお寺が並んでいる。身近に歴史を感じながら歩くことができた。積雪量の多い飯山の町の様子も、実際に歩いてみると理解できる。自分たちの町と比べてどんな特徴があるか観察しながら歩くことができた。

○児童の感想

・はし作りが一番思い出に残りました。家でも使っています。使うと、楽しかったセカンドスクールのことを思い出します。
・高社山のハイキングは、みんなといっしょに歌いながら登りました。下りですべって転んだけれど、最後までがんばりました。
・課題別学習で、飯山仏壇について学んだだけでなく、金ぱく押し体験をさせてもらいました。難しくて、何度も職人さんに助けてもらいました。とてもきれいな飯山仏壇を見て、日本の伝統や、職人技のすばらしさを感じました。
・農業体験で、実際に稲刈りをしてみて、とても大変でした。農家の方はこんなに苦労して米を育てていることが改めて分かったので、お米を残さないようにしたいと思いました。
・夏休みに戸狩の植物や生き物について調べていました。実際に生き物を見たとき、お父さんに質問ができてほめられました。自由研究をやっておいてよかったです。
・民宿のお父さん、お母さんには本当にお世話になりました。最後は別れたくなくて、泣いてしまいました。
・宿では指導員さんにたくさんお世話になりました。色紙にお礼を書いてお別れ会で渡せてよかったです。

○保護者の感想

・自分のことができずに、お友達に迷惑をかけていないか心配でしたが、協力や話し合いをしながら生活できたようで、安心しました。
・たくさん楽しい思い出を聞くことができ、親として嬉しいです。
・たくさんの方にお世話になりました。とても感謝しています。

○総合的な学習の時間の視点から

・セカンドスクールの事前学習、準備活動、期間中の活動、事後の学習活動を総合的な学習の時間として位置付けるよう他の活動計画の時間、他教科の計画見直しを含め毎年調整している。

・限られた時間の中で、活動を実施するには計画の段階で、十分な検討と工夫を要する。学年で時間割をすり合わせ、打ち合わせを十分にすると共に、４年生への発表の機会も適切な時期、形式を事前に決めておく必要がある。学校全体の指導計画作成の段階から、２学期に「総合的な学習の時間」を多く使うため、国語と社会の一部を１学期に移動した計画を作った。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・本市の児童は４年生で宿泊行事を体験しているので、気持ちの面で不安定になる児童が少ないと思われる。また集団での活動に必要なルールやマナーも一通り学んでいるので、一定の認識をもって長期期間の宿泊に臨むことができる。現地での生活に対する不安はあっても、比較的スムーズに慣れ親しむことができる。

○次年度に向けての反省・課題

・長期間の宿泊で最も配慮を要するのは健康面である。昨年度の課題で、アレルギーや生活習慣についての情報を得る際、家庭によっては喘息の既往歴が明記されていないなど記載内容が不十分だった。保健調査表の項目を見直し、より詳細に児童の健康状況を把握できるようにした。しかし、家庭によっては十分な情報を得ることが難しいこともあり、次年度も個人情報の管理を徹底する旨を伝えつつ、適切な医療処置を受けるためには児童の健康に関する情報はきちんと提供してもらうよう要請したい。
・指導員の事前研修に力を入れ、その役割の重要性を十分認識させ仕事をしてもらった。本校のように分宿の場合、指導員はやはり各宿に男女１名ずつの配置が望ましい。実際１名配置の宿の指導員の体調が悪くなり、本部配置の指導員や教員が支援にまわる状況になってしまった。その宿の子どもたちのことも考えると、分宿では２名配置の宿がやはり安定した活動ができていたので、次年度は是非そうなることを希望したい。
・看護師の配置も本校のように児童が 100 名を越し、活動場所が分散している場合、複数配置を望みたい。管理職も対応に奔走し、期間中は大変多忙な状況である。
・日程変更の場合、祝日や土・日の休日が絡んだ時、設定に苦慮することがある。事前の雨天計画作成の際に、関連施設の休館や会場の予約状況等十分情報を得ておき、雨天の計画をしっかり立てる必要がある。
・観光協会、宿舎である宿元との連絡を密にし、十分なコミュニケーションのとれる関係づくりが大切と思い、実踏から積極的に話し合うようにした。また、学校から先に提案し、必要な情報を早めに提供して理解を得る努力をした。次年度もこうした姿勢で臨んでいく。
・途中帰京・参加の児童が数名いたが、保護者に事前に説明したとおりに送迎してもらうことができた。実施期間中の、もしものときの対応について保護者への理解、協力を求めておくことが必要とされる。
・体調や家庭の事情等で、ファーストスクールに登校した児童が２名いた。来年度も学習体制をどうするか、検討が必要である。

セカンドスクール

境南小学校　　9月16日～9月22日（6泊7日）

○日程表

９月１６日（金）		９月１７日（土）		９月１８日（日）		９月１９日（月）	
7:45	学校集合、出発式	6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
8:15	学校発	6:45	朝会	6:45	朝会	6:45	朝会
11:35	松代ＳＡにて	7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
	休憩・昼食	8:30	稲刈り	8:40	とんだいら	9:00	わら細工作り
13:00	飯山市戸狩着				ハイキング		
13:15	開校式	12:00	（宿で昼食）		（現地で昼食）		（宿で昼食）
13:45	各民宿へ	14:30	脱穀（トピアホール）			13:30	周辺散策（枝拾い）
15:00	近辺散策（神社）					15:00	火おこし・すいとん作り
	薪集め、栗拾い	16:00	夕会	16:00	夕会	16:30	夕会（雨天中止）
16:00	夕会	16:30	入浴	16:30	入浴	17:00	入浴
17:00	入浴	18:00	夕食	18:00	夕食	18:00	夕食
18:00	夕食→19:30 星空観察	19:00	民話を聞く会	19:00	絵手紙をかく		
21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝	21:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・「稲を育てよう」というテーマで、総合的な学習の時間に、実際にバケツに種もみをまいて、稲を栽培する体験活動を行った。定期的に観察記録をとり、日常の水の管理に気を配って世話を続けた。夏休みには自宅に持ち帰って継続観察を行った。８月下旬には穂をつけるようになり、スズメに食べられない対策も施した。児童は、本物の田んぼでの稲刈りを楽しみにするようになった。

・１学期末に学年全体でセカンドスクールの体験活動について事前レクチャーを行った。内容は、飯山市の地域的な特徴や米作りやきのこ栽培などの産業の特色、伝統食およびブナ林のしくみについてである。さらに、児童が追究する課題一覧を提示し、それをもとに、各自がくわしく調べたいテーマを選び、夏休み中に資料集めを行った。２学期が始まると、調べたことをまとめて１冊の「学習資料集」に編んだ。この資料集はセカンドスクールにも持参し、児童は、必要に応じて開いていた。

・１学期の理科の学習で「流れる水のはたらき」の学習を実施した。そこで、千曲川を取り上げ、川の水のはたらきや流れの特徴、川の流れと地形との関係、洪水や治水の歴史について、各自でテーマを決めて、インターネットで調べてまとめる活動を行った。

長野県飯山市

参加人数　男子39名　女子37名
計76名

９月２０日（火）		９月２１日（水）		９月２２日（木）	
6:00	起床	6:00	起床	6:00	起床
6:45	朝会	6:45	朝会	6:45	朝会
7:15	朝食	7:15	朝食	7:15	朝食
9:00	ブナ林散策	9:00	腹薬の水見学	9:00	閉校式
11:30	もちつき→昼食	11:15	笹寿司作り→昼食	9:15	飯山発
14:00	活動記録の点検、	14:00	民宿大掃除		
	体力作り、お別れ会	14:30	やしょうま作り	15:15	学校着
	準備(ﾄﾋﾟｱﾎｰﾙ)	15:30	お別れ会の準備	15:30	帰校式
16:30	夕会			15:45	解散
17:00	入浴	16:00	入浴		
18:00	夕食	17:00	夕食		
19:30	お別れ会準備・練習	19:00	お別れ会		
21:00	就寝	21:00	就寝		

②　事後の学習内容

・セカンドスクール終了後、活動をふり返りまとめの発表会を開いた。グループごとに体験活動を１つ選び、発表方法もそれぞれ考えさせた。現地でどんなことをした、という報告だけに終わらないように、発展的な内容も加味してさらに調べ学習を重ねた。発表形式は、ポスター形式・紙芝居・劇など多岐にわたった。発表会には、指導員や保護者を招いたが、現地での生活が充実していた様子がよく分かると好評だった。

・お世話になった民宿の方々・指導員の先生方に感謝の気持ちを伝え、自分の近況を報告する手紙を書いた。時候のあいさつに始まる手紙の形式にあてはめながらも、お礼の気持ちが伝わる文章を書くことを心がけ、全員が真剣に取り組むことができた。

・お米作りの学習の発展として、「お米マイスター」による授業（お米に詳しい地域のお米屋さんをゲストティーチャーとして招く授業）を行い、お米に関するさまざまな話をうかがったり、精米の実技演習を行ったりしていただいた。赤米や黒米、ワイルドライス等のサンプルを見せていただき、児童はたいへん興味深かったようであった。社会科では学習しなかった米の歴史についても、時代を追って話を聞くことができ、新たな知識を得たり、さらに興味関心を喚起させられたりする児童が多かった。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、とんだいらハイキング

２日目、民宿の方々の案内で、冬は戸狩スキー場となるとんだいらまでハイキングに出かけた。天気が３日目より下り坂に向かうとの予報だったので、予定を変更して１日繰り上げたのである。ところがこの日は、朝からまぶしい日ざしが照りつけ、夏を思わせる陽気だった。熱中症を心配し、こまめに休憩し、給水しながら登った。

【とんだいら頂上で遊びに興じる子どもたち】

スキー場をそのまま途中まで登り、振り返ると戸狩地方の盆地が開け、反対側には野沢温泉のスキー場、山麓には、赤いトタン屋根の集落と黄金色に色づいた田んぼが広がり、その中央を千曲川が蛇行している様子をつぶさに見学できた。

スキー場の頂上にようやく到着。子どもたちは、暑さに音を上げながらも頂上に着いた達成感に満ちていた。民宿の方々が、先に冷たいお茶の入ったポットを運んでくださっていた。往路ですでに水筒が空になってしまった子も多かったので、たいへんありがたかった。さらに、「お小夜のなみだ」と銘打ったわき水があり、子どもたちは先を争って飲んだり、水筒に詰めたりしていた。このわき水の源にあたる滝がすぐ近くにあるので、そこを見学に行く子どもも多かった。

まずは先に食事を済ませた。そしていよいよ遊びの時間である。注意事項と約束を確認してから、子どもたちは、めいめい自由に遊び始めた。日ざしはきついが、全員思い切り体を動かして工夫して遊んでいる。かなりの角度の傾斜地をどんどん登ってころがって遊ぶ子。拾った木の枝をバットの代わりにして野球を始める子。広い野原で鬼ごっこをする子。大なわとびやボールを使う子もいた。時間もたっぷり、場所も広々しているという環境の中で、のびのび遊ぶことができ、どの子の表情も満ち足りていた。

2、星空観察

雲の動きは気になったが、予定通り星空観察を実施した。夕食後に、駐車場に集合する。民宿の方が天体望遠鏡を用意してくださっている。そして、順番に天体望遠鏡で観察をする。月と木星が確認できた。その後、理科で学習した「夏の大三角」や北斗七星、カシオペアを肉眼で確認した。ずっと空を見上げる姿勢はつらいので、駐車場に仰向けに寝転がり、暗闇の中を静かに黙ったまま全天を観察した。言わずもがな東京の夜空と比べ、見える星の数が違う。子どもたちは、降ってくるかのような星々に圧倒されていた。

＜学習体験活動＞

1、1日農業体験

２日目、「丸ごと１日農業体験」ということで、午前中は稲刈りを、午後は脱穀を行った。実際に田んぼに行く前に、駐車場に集合し、民宿の方から手順について説明を受ける。服装も大事である。この日も気温は高めで、日ざしもたっぷりであったが、帽子をかぶり、長ズボンに長袖、軍手をはめ、首にタオルを巻くといういでたちである。長靴は戸狩の観光協会で用意してくれたものをお借りした。まずは、手刈りの方法について手ほどきしていただく。特に鎌の扱い方については、危険のないように気を付けなくてはいけないことをしっかり確認した。

田んぼに移動していよいよ稲刈り開始である。民宿ごとに、ご主人から説明を受け、子どもたちは意気揚々と田んぼに分け入って行く。鎌の扱いも、稲の束ね方も、時間の経過とともにみるみる上手になっていく。班の仲間と声をかけ合って、熱心に作業を進めていた。機械作業で行う分を残しておくようにと民宿の方から声がかかるほど、みんな夢中になって取り組んでいた。とにかく暑いので、給水はこまめにさせた。はぜかけ・落ち穂拾いが終わると、だだっ広い空き地が現れ、子どもたちは汗だくだったが、達成感や満足感に満ちあふれていた。

民宿の方に、バインダーとコンバインによる刈り取りの様子を見せていただく。手刈りとは比べものにならない作業スピードに、機械が動き始めると一斉に歓声が上がった。手刈り・バインダー・コンバインは、それぞれ１分間で稲を何束分刈り取れるのかを数えながら見学したことで、農作業の機械化が生み出した効率性を改めて実感できた。

午後は場所をトピアホールの軒先に移して、昔の脱穀の方法を体験した。千歯こきには難渋する子どもたちもいたが、足踏み式脱穀機ではリズムをつかみ、熱心に作業していた。しかし、思ったより力を要する作業で徐々に疲労感がつのってくる。お米になって自分たちの食卓に届くまでには、農家の方のさまざまな苦労があることを再確認するとともに、昔の人々がその時代時代で、知恵をはたらかせて農機具の開発を進めてきたことに敬服していた。

2、ブナ林散策

５日目、雨は降っているのだが、ブナ林の中に入れば大きく広がった枝葉によって、だいぶ雨はしのげるということで、ブナ林散策を実施することにした。民宿からマイクロバスで 30 分ほどかけて鍋倉山のふもとにある茶屋池付近に着く。子どもたちは、雨合羽を身に付けての散策である。

現地では、民宿ごとに５つのコースに分かれ、森林ガイドの方に散策コースを案内していただいた。

【雨の中、ブナ林ガイドさんの説明を聞く】

ブナの森に入ると、確かに雨脚が弱くなる。頭上に広がった広葉樹であるブナの枝や葉が、大きな傘となってくれている。雨の中の散策をいやがっていた子どもたちも、ガイドの方から雨の日だからこそ見ることができる「樹幹流」（雨がブナの幹を伝い落ちながら作る模様）の話を聞くと、今日は来てよかったと思えたようである。雑木林の根が張り巡らされ、大雨が降っても洪水にな

るのを防ぐ「緑のダム」と言われるゆえん、ブナの葉の見分け方や実の特徴、森で生きる動物たちとブナ林とのつながりなど、こうしたガイドさんの説明を、実際に森を歩きながら聞くことは、教室ではできないとても貴重な学習だった。

＜生活体験活動＞

1、伝統食作り

飯山はお米がおいしく、そのお米を利用した北信地方に古くから伝わる郷土料理の一つである「やしょうま」作りを民宿の方の手ほどきを得て行った。「やしょうま」の名前には古くからのいわれがあり、「やしょう」という人物がお釈迦様にこの料理を差し上げたところ、お釈迦様が「やしょう、うまい。」とおっしゃったことに由来するらしい。子どもたちは、調理の前にそれぞれ民宿の方から名前の由来をうかがった。作り方は、米粉を湯で練って固めてから蒸し、ごまや黒豆を混ぜ込んで形を整え、軽く焼く。本来はよもぎなどを混ぜて色付けを行うが、これは宿によってまちまちのようだ。子どもたちは自分でどのように成形するかも考えて作ったやしょうまをおいしそうに食べていた。

また、同じくこの地方に伝わる郷土料理の１つが「笹寿司」である。熊笹の葉の上に酢飯を乗せ、その上にワラビやゼンマイなどの山菜やクルミ、卵焼き、紅しょうがなどを乗せて食べる。６日目の昼食として子どもたちはそれぞれオリジナルの笹寿司を作って食べた。好きなものを選んで乗せることができ、作るのも食べるのも大満足の子どもたちだった。

さらに、きねと臼を使っての餅つきを実施し、一人一人がきねを持って餅をついた。きねを上手に扱うことは難しかったけれど、つきたてのお餅をしょうゆやきなこ、ごまで味付けしながらいただくという、今の生活ではなかなかできない体験であった。

＜地域の人々とのふれ合い＞

1、民宿の方々との交流

民宿のご主人たちを「お父さん」「お母さん」と呼ばせていただき、民宿のお客さんではなく子どもになったつもりで、かかわらせていただいた。活動が早く終わったり天候の関係でできなかったりしたときは、民宿の仕事を進んでさせていただいた。自分たちの部屋以外の掃除のやり方を聞いて行ったり、食事の準備や後片付けも、できるだけ子どもたちが主体となってできるように配慮していただいたりした。

【火おこしの方法についてコツをうかがう】

また、近辺散策にも同行してもらい、近くの川で沢ガニや小魚を捕ったり、畑を案内してもらったりした。４日目の火おこし体験・すいとん作りでは、民宿の方にポイントを教わり、無事に火がつきおいしいすいとんを味わうことができた。

飯山を去る日、子どもたちはバスが出発しても、民宿のお父さん・お母さんが見えなくなるまでずっと手を振り続けていた。

○児童の感想

・丸１日農作業体験がありました。最初、手作業でかまで稲を刈ったら、すごく汗をかきました。しかし、次にバインダーやコンバインの紹介があり、やっているところを見ているとすごく速かったので、自分たちがなぜこんなにおそかったのかというくらいびっくりしました。
・とんだいらハイキングはとても疲れました。たくさん上り坂があったので、歩くのがきつくて汗だくで、途中でお茶がなくなってしまいました。でも、やっととんだいら高原に着いたときはへとへとでしたが、達成感がありました。
・ぶな林に行きました。広葉樹は、根が網目のように張りめぐらされ、山がくずれるのを防ぐことや木の下の地面のうち 60%が空洞で水を少しずつたくわえて、少しずつ出す「緑のダム」と呼ばれていることが分かりました。

○保護者の感想

・お米作りの苦労を実感したようで、一粒一粒を大事にしなくてはいけない、と家族に言いながら、食べ物を大事にするようになりました。また、班長を務めたことで、全体の前で話をする経験やみんなのために何かをするといったよい勉強ができたと思います。
・集団生活では、一人一人がルールを守ることやマナーに気を付けて過ごすことが大事であることを宿のお父さん・お母さんから教わったようです。また、友達との間でトラブルが起こっても、自分たちで解決していこうとするようになり、精神的な成長を感じました。
・お米になるまでに１年かかることや農家の方のさまざまな努力を再認識し、作ってくださる方に感謝の気持ちをもつようになりました。

○総合的な学習の時間の視点から

・行事としてカウントしたのは、往復の移動とお別れ会、民宿大掃除、および開校式などの会式。それ以外の活動 31 時間については、すべて総合的な学習の時間として実施した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・バスでの移動に慣れたこと、および、バス酔いへの不安の解消。
・学年全体での集団行動、たとえば、班ごとの集合のしかたと並び方、人数確認の方法、集団で自然の中を歩くときの注意、お世話になる方々への挨拶などに前年の経験が生かされた。
・宿での生活（就寝や起床、検温、食事、入浴、洗面など）の約束について、また分担した係の仕事の遂行に関して、前年に注意した基本的なことがらを確認することができた。

○次年度に向けての反省・課題

・実地踏査の際、雨天対策プログラムの内容を十分に考えておく必要がある。
・農作業体験の後に質疑の時間を設けると、より学習が深まると思われる。
・生活指導員を宿に２人ずつ確保できたことはよかった。さらに男女１人ずつ配置できたので体調管理や夜尿の児童への対応など都合よかった。

セカンドスクール

本宿小学校　　9月27日～10月4日（7泊8日）

○日程表

９月２７日（火）		９月２８日（水）		９月２９日（木）		９月３０日（金）	
8:30	学校出発	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
	練馬ＩＣ	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	上里ＳＡ		片付け・準備		片付け・準備		片付け・準備
	東部湯の丸ＰＡ	9:00	泉台小との交流会	9:00	泉台小と合流	9:00	黒岩山ハイキング
	昼食		全体交流		能生へ出発		
	豊田飯山ＩＣ		グループ交流	10:30	地引網体験	11:00	昼食
13:00	信濃平到着	11:30	昼食〔各民宿〕	12:00	魚調理体験・昼食	12:00	下山
	開校式	12:30	泉台小５年生との	15:00	能生漁港にてせり見学	13:00	農作業体験
13:30	民宿着		交流・農業体験				各民宿にて
14:00	もちつき		（稲刈り・脱穀）	16:00	交流会閉会式		
	箸づくり	15:00	おやき作り	17:00	泉台小到着		
16:00	農村散策	16:00	農村散策			16:00	農村散策
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	18:00	夕食準備	17:30	夕食準備
18:00	夕食	18:00	夕食	18:30	夕食	18:00	夕食
19:00	入浴	19:00	入浴		入浴	19:00	入浴
	学習の記録		学習の記録		学習の記録		学習の記録
	明日の準備		明日の準備		明日の準備		明日の準備
20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流	20:00	民宿の方や友達との交流
21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝	21:00	健康観察・就寝
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・訪れる信濃平の位置や土地の様子などを学習する。
・課題別体験学習に向け、飯山の自然や産業・暮らしの様子などから調べてみたいことを挙げ関心のあるテーマを決めてグループ作りを行う。
・課題別学習のグループごとに事前に、本やインターネット、パンフレットなどを用いて調べ学習をし、自分たちが調べたい課題を作る。
・泉台小学校と自己紹介カードの交換をする。また、交流会で行う発表の練習をする。
・お世話になる民宿の方に自己紹介カードを書いて送る。
・生活指導員の方と顔合わせをし、グループごとにセカンドスクールのめあてを話し合う。

長野県飯山市（信濃平地区）

参加人数　男子15名　女子22名
計　37名

１０月１日（土）		１０月２日（日）		１０月３日（月）		１０月４日（火）	
6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面	6:30	起床・検温・洗面
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
	片付け・準備		片付け・準備		片付け・準備		片付け・準備
9:00	駐車場集合	8:20	駐車場集合	9:00	蕎麦打ち体験	8:00	荷物整理
9:30	飯山の町ウォーク	9:00	森の家到着		笹ずし作り（各宿）		大掃除
11:00	昼食		ブナの森ハイキング	11:30	昼食	9:00	柿の収穫
12:00	課題別グループ		伐採見学	12:30	駐車場集合		干し柿作り（各宿）
	体験調査活動	12:00	枝打ち体験	13:00	きのこ工場見学	10:45	宿の方へのお礼
15:45	飯山伝統産業会館	13:00	昼食	14:00	きのこ工場出発	11:00	駐車場集合
	集合・出発	15:00	木のクラフト作り	15:00	草木染め体験		閉校式
16:15	鈴荘前集合	16:00	森の家出発				信濃平出発
17:30	夕食準備	17:30	農村散策	16:00	農村散策		豊田飯山ＩＣ
18:00	夕食	18:00	夕食準備	17:00	入浴		佐久平ＰＡ（昼食）
19:00	入浴	19:00	夕食		学習の記録		高坂ＳＡ
	学習の記録		入浴	17:30	夕食準備		練馬 IC
	明日の準備		学習の記録	18:00	夕食	16:00	学校到着
20:00	民宿の方や友達との交流・お楽しみ会準備	20:00	明日の準備	19:00	お楽しみ会の準備		帰校式
			民宿の方や友達との交流・お楽しみ会準備	20:00	お別れお楽しみ会		解散
21:00	健康観察・就寝			21:00	健康観察・就寝		
21:30	消灯	21:00	健康観察・就寝	21:30	消灯		
		21:30	消灯				

② 事後の学習内容

・課題別学習のグループごとに自分たちが見学したり、体験したりして調べてきた内容をまとめ、保護者も招いての発表会を行う。後日、４年生にも紹介する。
・８日間の体験や生活を振り返り、作文にまとめる。
・社会科や理科の学習の際に、現地で体験してきたことや学習してきたことを振り返り、学習の参考資料とする。

○特色ある活動内容

＜課題別体験学習＞

昨年度に引き続き、今年度も課題別体験学習を行い、飯山の町や信濃平の自然の中で自分たちの課題についてグループごとに調べたり、体験したりして学習を進めることとした。総合的な学習の時間の中で、自分たちの課題をもち、それを実際に現地で調べたり、体験したりしてみることで、より意欲的に問題解決に取り組むことができた。課題作りは飯山や信濃平はどんなところかを本やインターネット、パンフレットを使って調べ、その中から興味をもったテーマを挙げて、６種類のテーマで６つのグループを作った。また、それぞれの講師は民宿のお父さんやお母さん、観光協会の方にお願いした。

１、飯山の自然

信濃平周辺で、植物の観察やわき水の由来などを調べるフィールドワークを行った。飯山の四季の変化、自然の様子、地形など自然環境や自然と共に生きてきた飯山の人々のくらしについて話してもらい、豊かな自然について改めて学ぶことができた。

２、郷土料理

当日は「ニラせんべい」「いもなます」の作り方を教えてもらい、実際に調理体験もさせていただいた。食料を上手に保管して、長期間食べられるような工夫が郷土料理にはあることなどを子どもたち学ぶことができた。

３、飯山仏壇

実際に仏壇工場に行き、仏壇を組み立てるところを見学させていただいた。たくさんの部品から作られていることを見学させてもらった。仏壇作りに携わる人の工夫や努力を実際に見て、聞くことができ、子どもたちには大変貴重な体験となった。

４、内山和紙

伝統産業会館にある和紙作りの体験工房で実際に紙すき体験をさせてもらった。和紙ができあがるまでの工程や和紙が様々に活用されていることなどをビデオで見たり、体験工房の指導員の方に質問したりして調べることができた。また、内山和紙保存会の方が紙すきをされていたので、様子を見せてもらったり、話を聞いたりした。その中で和紙の原料である楮の木などを見せてもらったり、三つ叉の和紙の紙すきを体験させてもらったりした。

５、雪国の工夫

飯山駅を訪れ、除雪車や大雪に対しての備えなどについて見学した。また、飯山市役所では道路の除雪について伺うことができた。町を歩いて雪国のくらしの工夫を見つけ、冬の飯山の暮らしと生活する人々の様子について学ぶことができた。

６、飯山の歴史・寺

飯山に寺が多い理由を、歴史を元にして説明していただいた。七福神についても興味をもち、当時の人々の暮らしについても聞くことができた。座禅も体験させてもらうことができた。

＜自然体験学習＞

１、黒岩山のハイキング

民宿の近くにある黒岩山でハイキングを行った。民宿のお父さんが講師となって、信濃平の地形の特色や、ブナの木やギフチョウなどの飯山の動植物についての話、桂池の話などをしてくださった。

＜学習体験活動＞

１、農業体験（稲刈り、野菜の収穫など）

稲刈り体験では、民宿のお父さん方に稲の刈り方と刈り取った稲の束ね方を教えていただき、作業を進めていった。その後、刈り取った稲を千歯こきや足踏み脱穀機を使って脱穀した。とうみなどの道具も使わせてもらった。昔の道具を使い、自分たちが普段食べている米ができるまでの作業の一端を体験することができた。農家の方がたくさんの手間をかけて米を作ってくれているおかげで自分たちが米を食べられることを感じることができた。

２、林業体験

４グループに分かれてインストラクターの方と共に活動した。人が手を入れることにより、森林の健康を保つことができることなどを、見学や体験を通じて学ぶことができた。枝打ち体験では実際にのこぎりを使って枝を切り落とす作業を行った。子どもたちが自然や環境について考えるよい機会となった。また、クラフト作りでは、午前中に切り落とした枝を使ったパチンコづくり、または、キーホルダー作りを行った。木の枝を使ったパチンコ作りでは、様々な大きさのパチンコを作ってアクリル絵の具でペイントし、杉の実を拾って飛ばして遊んだ。その中で自然の中にあるものを活用して工夫する楽しさを味わうことができた。

３、水産業見学

水産業の漁法の１つ、地引網をすることにより、魚の獲る方法の一つを体験することができた。実際に魚を捌くことにより、一生懸命働く人々が獲った魚という命をいただくということが実感できた。また、能生漁港でせりの様子を間近で見ることができ、働く人々の様子を見学することができた。これらの見学を通して、既習の社会科の水産業の学習の理解を深めることができた。

＜生活体験活動＞

１、郷土料理作り（そば打ち・笹ずし）

各民宿で、民宿のお父さんお母さんに教わりながらそば打ちと笹ずし作りに取り組んだ。子どもたちは、そば粉をこねたり、薄く延ばしたり、打ったそばを細く切ったりとプレセカンドスクールの経験も生かして上手に、生き生きと体験活動に取り組んでいた。

また、郷土料理である笹ずし作りでは、郷土料理について教えてもらいながら作業を進めている班もあった。自分たちで作ったそばや笹ずしは、その日の昼食となり、子どもたちは、美味しそうにほおばっていた。

＜泉台小学校との交流＞

飯山市立泉台小学校の５年生と２日間の交流を行った。１日目は、午後に交流会を行い、互いの学校紹介や歌の合唱、グループ交流、ドッジボール大会を行った。最初はぎこちなかった子どもたちも、少しずつ打ちとけてきて、一緒に作業に取り組み、別れる際は、「明日、会うのを楽しみしているよ。」と言葉をかけ合う姿も見られた。

２日目はバスで一緒に新潟県能生方面へ行き、地引網や魚調理体験、漁港や魚市場の見学をした。バスの中では、近くの席の子どもたち同士で楽しそうに話し、交流することができた。

○児童の感想

・一番楽しかったのは、箸作りです。竹を小刀で削って作る箸は、これから私たちが使っていく箸です。私は自分的には満足しています。私が作った箸は、先は丸いけれど太い方は端が取れた四角です。竹の皮は上部に付いており、スベスベです。そして、横に葉っぱのマーク。とても使いやすいです。

・今日、農作業体験をしました。したことは、稲刈り・脱穀・選別です。私が一番楽しかったのは、千ばこきで脱穀したことです。千ばこきは、鉄の串がついていました。ここに稲を引っかけます。そしてこちら側に引っぱります。そうすると、まるで鉄砲玉のように飛びます。その様子がとても面白かったです。さらに時間があるときに、カエルをつかまえて楽しみました。いろいろな発見があって、自然と触れあえたので、最高でした。

・今日は、交流会の最後の日でした。私のグループは、いっちゃんとともちゃんと仲良くなりました。どちらともとても面白くて、班の人はみんな面白かったです。れなちゃんとも仲がもっと深まり、嬉しかったです。

・ブナの森ハイキングでは、新しい発見がたくさんありました。まず一つ目は、ブナ林にはたくさんの水が溜められているということです。ブナ林に水がためられていることは知っていたけれど、その仕組みまでは知らなかったので、とてもとても驚きました。その仕組みとは、雨が土にたまり、ブナは深く強く根を張っているので、その水がたまるというものです。その仕組みを聞いたとき、なるほどと思いました。

・今日は民宿の方とお別れをしました。お父さんお母さんと一緒に「ふるさと」を合唱しました。最後のバスに乗ったとき、お母さんがずーっと手をふってくれていました。その時は泣いてしまい、さらには家についたあとにも号泣してしまいました。

○保護者の感想

・今まではあまりたくさん話す方ではなかったのですが、７泊８日のセカンドスクールでの友達との生活を通して、自分から話そうとする意識が高まったようです。また、今までは「出

したら出しっぱなし」が多かったのですが、自分ですぐにかたづけるようになりました。
・セカンドスクールを通して、新しい友達ができたり、友情が深まったりしたようです。
・「自然がいっぱいあって気持ちの良い場所だった。」「また行きたい。」と何度も言っています。

○総合的な学習の時間の視点から

課題別体験学習に向けて、課題づくりのために飯山や信濃平の自然・文化・産業について調べた。また、課題ごとにグループを作り、事前に下調べを行った。また、現地ではそれぞれのグループごとに課題別体験学習を行った。さらに、それぞれのグループで調べたことを学習発表会の形で発表して交流し合い、その様子を保護者にも参観していただいた。さらに、前回の発表の反省点を改善したり、４年生にも分かるようにしたりして工夫し、来年セカンドスクールに行く４年生にも発表して紹介した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

プレセカンドスクールでの生活や活動の経験があるので、セカンドスクールでの生活や活動にスムーズに入ることができた。また、自然の中で過ごす心地よさや遊ぶ楽しさをプレセカンドスクールで味わっているので、セカンドスクールも楽しみにし、心待ちにしている子が多い。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度に引き続き、課題別体験学習に取り組んだ。子どもたちの学習テーマに沿った講師を開拓し、現地での活動内容の充実を図りたい。そのために現地との連携をより密にし、準備を進める必要がある。
・１日のスケジュールに余裕をもたせて、日程を組んでいる。その中で、子どもたちは信濃平の自然の中で、蛙やバッタを捕まえたり、笹舟流しをしたりと自分たちで遊びを見つけていった。体調を崩す子どもも少なく、今後も余裕のある日程を組んでいく。
・信濃平地域が高齢化で民宿の閉鎖が相次いでいる。今後の実施に支障をきたさないように、早めに対策をとっておく必要がある。

【各宿での農作業体験】

【各宿での農作業体験】

【藤崎海岸での魚調理体験】

セカンドスクール

千川小学校　　9月29日～10月5日（6泊7日）

○日程表

９月２９日（木）		９月３０日（金）		１０月１日（土）		１０月２日（日）	
7:45	学校出発	6:00	起床、検温、洗顔	6:15	起床、検温、洗顔	6:15	起床、検温、洗顔
11:15	八海山登山	6:45	朝会	6:45	朝会	6:45	朝会
11:45	昼食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
13:30	開校式	9:45	稲刈り実習	9:00	わら細工作り	9:15	ちまき作り体験
14:00	各民宿着	11:30	はざかけ実習	12:00	昼食	12:30	昼食
14:15	出会いの集い	11:45	昼食	13:00	わら細工作り	13:00	各民宿での活動
15:00	周辺の散策	14:00	カントリーエレベ	15:15	班長会	17:00	学習の記録
17:30	夕食		ーター見学	15:30	学習の記録	18:15	夕食
18:45	天体観測	17:15	夕食	17:15	夕食	19:00	明日の準備
19:30	入浴	18:45	明日の準備	18:30	肝試し	20:00	入浴
20:00	健康観察	20:15	入浴、健康観察	20:00	明日の準備	20:45	健康観察、就寝
21:00	就寝	21:00	就寝、消灯	20:15	入浴、健康観察	21:00	消灯
				21:00	就寝、消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・１学期に社会科の学習として米作りについて理解を深めた。米作りが盛んな地域はどのような場所か、米作りがどのように行われているか、品種改良など安心でおいしいお米をつくるための人々の工夫や努力などを資料を元に調べ学習を行った。親戚の農家や近所の米屋に行き、インタビューを行うなど、米作りについての児童の興味を高めるきっかけとなった。

・社会科と同時進行で総合的な学習の時間にバケツ稲の栽培を行った。苗からどのように成長していくか観察していくと共に、水量の管理を自分たちで行うことで、どのように米作りが行われているか具体的なイメージをつかむことができた。

・これらの学習を通して子どもたちの米作りに対する興味、関心を高め、「お米料理」や「お米の種類」など、グループごとに米をテーマに調べ学習を行った。身近な食べ物である米の様々な秘密を学ぶことができた。

・出発前に、どのような場面で宿や現地の方にお世話になるか想起させ、自分たちがどのようなことを頑張りたいかについて手紙を書いた。

【事前学習のまとめ作品】

新潟県南魚沼市

参加人数　男子26名　女子31名
計57名

１０月３日（月）		１０月４日（火）		１０月５日（水）	
6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔	6:00	起床、検温、洗顔
7:00	朝食	7:00	朝食	7:45	朝食
9:15	各民宿での活動	9:00	つむぎ記念館見学	8:15	部屋の片づけ
11:45	昼食	10:00	牧之記念館見学	9:30	笹団子作り
13:15	しいたけパックセンター見学	11:00	牧之通り見学	11:30	昼食
		12:00	昼食	12:15	宿舎お別れ式
16:00	各民宿到着	13:00	雲洞庵見学	12:45	閉校式
18:15	周辺の散策	15:00	城内地区ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	13:00	出発
19:00	夕食	18:00	夕食	13:15	六日町インター
20:00	明日の準備	19:00	荷物整理	15:00	上里ＳＡ
20:45	入浴、健康観察	20:00	入浴、健康観察	16:30	学校到着
21:00	就寝	20:45	就寝	16:45	学校解散

②　事後の学習内容

・お世話になった方々への手紙を書きたいという児童の想いから、宿や観光協会、見学施設の方々への感謝の手紙を書いた。宿の方から続いてお手紙をいただくなど交流はさらに深まった。子どもたちの中には、学習後も自分から手紙を出すなど、主体的に活動する子どもたちもいた。自分にとって第二の故郷だという思いを多くの子どもたちがもっている。

・「稲刈りをどのように行ったか」「城内地区の建物などの特徴はどのようなものか」「八海山の自然」など、セカンドスクールで学習してきた内容をグループに分かれてまとめていった。その際に、どの学年にも様子が伝わるように写真を用いて、分かりやすくしたり、読みやすいように表題を工夫したり、図を用いて書くなどした。

【届いたお便りに喜ぶ児童】

【完成した事後学習のまとめ】

【学習のまとめを紹介する様子】

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、八海山登山

八海山にロープウェイで登り、山頂から南魚沼市を展望した。市の中央を流れる川や周りを山で囲まれているなど市の特徴をつかむと共に、昆虫を見つけて観察するなど、初めて出会う八海山地域の自然を体験することができた。

【展望台での様子】

2、天体観測

日大セミナーハウスにて星空の観測を行った。観光協会の方々に星座早見表の使い方を教えてもらい、観測を行った。山の中で暗闇という環境だったため、数多の星を見ることができた。天体望遠鏡を使って、アルビレオの観測も行った。普段見られない星を見ることができたということもあり、子どもたちは感動をしていた。

【天体観測の様子】

3、城内地区オリエンテーション

城内地区をグループに分かれて散策していった。雄大な山々や広がる田園風景やそこで暮らす人々の生活の工夫などを見ながら、チェックポイントを通過して宿舎に戻った。

＜学習体験活動＞

1、稲刈り体験

２日目に稲刈り体験を行った。日本一の米の産地である。初めて体験する子どもがほとんどだったため、最初は鎌を使って稲を刈るのも緊張した様子だったが、作業を進めていくに従って慣れていき、後半には格段に作業速度が上がっていた。

稲を刈るだけでなく、稲穂を縛り、はざかけまで行った。どの子も協力し合って活動を進めたため、予定よりも早く、かつ広い範囲を刈ることができた。

【稲刈りとはざかけの様子】

2、カントリーエレベーター見学

稲刈りの後にカントリーエレベーターを見学した。建物の大きさに驚くと共に、刈った稲がどのように保管され、商品になるのかを学ぶことができた。

3、各宿での作物収穫活動

各宿での活動では、それぞれ宿の畑の収穫を行った。南魚沼特有の野菜や山菜をとることができた、不思議な形をした野菜や初めて見た山菜など、子どもたちは驚きの顔をしていた。

その日の夕食に自分たちが収穫した野菜が出たことも、子どもたちにとって大きな喜びであった。

【畑での収穫作業ととれた野菜】

4、わら細工作り

３日目にわら細工作りを行った。地元の方に教えていただき、わらを編んでいった。慣れない作業のため、戸惑い気味であったが、慣れるに従って作業効率が上がり、午前中だけでほぼ完成させる子どももいた。午後も引き続いて作業を続けたが、早くできた子は他の子の手伝いを行うなど協力して作成をしていく光景が見られた。また、子どもたちの中には地元の方に「いつ頃からわら細工を作り始めたのか」「ほかにどんなものが作ることができるのか」など、より興味、関心をもつ子どももいた。

【わら細工作りの様子】

【地元の方に質問する児童】

5、ちまき作り

南魚沼市の伝統的な保存食でもあるちまき作りを体験した。地元の方に教えてもらい、宿の方と一緒に作業を行った。もち米を笹で包むだけだったが、もち米の分量調整や笹を植物の茎で包むなど、悪戦苦闘する子どもも多かった。次の日に自分たちが作ったちまきが朝食に出たことで、大きな喜びとなった。

【ちまき作りの様子】

6、しいたけパックセンター見学

南魚沼の特産品であるしいたけの生産工場、パック詰めの工程を見学した。普段食べているしいたけが作られて、出荷されるまでの過程を一通り見学することができた。

7、雲洞庵見学

南魚沼の伝統文化にふれるために曹洞宗の寺院である雲洞庵の見学と、座禅体験を行った。自然に囲まれ、静かな環境の中で座禅を組み、黙想した。都会の喧騒から離れ、静寂の中、精神を集中させるという貴重な体験をすることができた。

【座禅体験の様子】

8、笹団子作り

最終日に笹団子作りを行った。宿の方と最後の交流ということもあり、様々に語り合いながらの活動となった。わら細工作りや、ちまき作りを体験していたこともあり、細かい作業も比較的に慣れた手つきで行っていた。

なぜ笹で包むのか、他にどのような味があるのかなど地元の風習についても学ぶことができた。

【笹団子作りの様子】

＜生活体験活動＞

1、牧之記念館、牧之通り見学

６日目には、昔の街並みを再現し、地元の観光地でもある牧之通りと、江戸時代の著名人でもあった鈴木牧之記念館を見学した。豪雪地帯の人々が、寒さや雪とどのように関わってきたかを学ぶことができた。牧之通りでは、地元の方のお宅を訪問させていただくなど、温かく迎えていただいた。

【牧之通りで降雪量を知る様子】

2、織物体験

塩沢つむぎ記念館では、塩沢の織物の製作工程や商品の見学を行い、さらに実際に織物を作ることができた。徐々に織物になっていく様子を体験できたことで、製作工程を理解するだけでなく、出来上がったという充実感で、どの子どもも達成感をもつことができた。

【織物体験の様子】

○児童の感想

・ぼくが７日間で一番心に残ったのは皆で作った料理です。なぜ、心に残ったのかというと、皆で協力して作ったからです。料理は皆で作ってこそ最高の料理になると思います。
・友だちと一緒に寝たり、お風呂に入ったり、一緒に７日間も生活するからさすがに友だちのいやなところが見えてしまったりケンカもしたけど、仲良くなれた。友だちができたり、意外なところも分かった。それも思い出だと思う。
・このセカンドスクール７日間でぼくは成長したと思います。例えば、進んでお手伝いをするということです。友だちはみんな優しく、ぼくが困っている時には励ましてくれました。それが友だちで発見したやさしいところです。

○保護者の感想

・６泊７日、無事に過ごせるのかどうか心配でしたが、帰ってきた時の顔を見て、たくましくなって帰ってきたなと思いました。家でのお手伝いも進んでやってくれるようになりました。
・皆で料理を作ったのがよっぽど楽しかったのか、家で料理を作ってくれるようになりました。
・普段は学校のことを話さないのですが、帰ってくるなりものすごい勢いでセカンドスクールのことを話してくれました。本当に楽しかったようです。

○総合的な学習の時間の視点から

５年生の総合的な学習の時間では「自然や環境」をテーマに学習を進めている。海や山、川などの自然と共生している人々について知り、自然や環境についての課題をそれぞれに設定し、主体的に追究していく。その中で、自分たちにできることについても考え、発表していくという年間計画である。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・昨年、プレセカンドスクールを経験したことにより、どのような場面で協力しなければならないか、宿や観光協会などお世話になる方に迷惑をかけないようにするにはどうしたらいいか具体的に考えることができた。
・部屋での荷物の整理や履物をそろえるなど、皆が気持ちよく生活にするにはどうしたらいいか考えることができた。

○次年度に向けての反省・課題

・東日本大震災のため急遽、実施地を変更したが、観光協会の方に柔軟に対応していただいた。日本一の米の産地という点、豊かな南魚沼の自然をさらに感じることができるよう、体験プログラムの充実を図っていく。

セカンドスクール

井之頭小学校　　9月28日～10月5日（7泊8日）

○日程表

９月２８日（水）		９月２９日（木）		９月３０日（金）		１０月１日（土）	
7：30	学校集合	9：00	宿ごと体験	10:00	和紙すき体験	9：00	わらぞうり作り
7：40	出発式		（郷土食作り）				
8：00	バス乗車、出発	12：00	餅つき体験				
				15:00	カントリーエレベーター見学	13：00	宿ごと体験
		13：30	飯山についての学習				わらぞうり作り
12：00	戸狩到着、開校式		（地域の方の講話）				
		15：00	戸狩丸ごと体験				
13：00	昼食　部屋割り		-くるみやどんぐり拾い	16：00	雪国のくらし学習		
			-柿やあけびを見つける				
14：00	里山散策		-植物やつるを探すなど				
15：30	箸作り	19：00	暗闇体験			18：00	バーベキュー

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・社会科の授業で「気候を生かした地域の暮らし」の学習において、飯山市戸狩地区の事や雪国の暮らしにふれ、現地に行った折の学習への意識付けを図った。また、長野県の位置や気候についても調べた。

・１学期の総合的な学習の時間に、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。社会科で田植えまでの過程を学習した後、学校の水田で田植えを行った。植えた苗は戸狩から送っていただいたもので、セカンドスクールへの動機付けともなった。

・現地での課題別学習に向け課題を選択させ、インターネットや書籍での調べ学習を行った。課題は、戸狩の宿の方の専門分野を伺ったうえで設定した。内容は、①米、野菜作りについて②川の生物、虫、小動物について③戸狩の野草、植物について④伝統文化・仏壇について⑤郷土料理について⑥飯山の歴史についての６つである。

・交流会で感謝の気持ちをしっかり伝えられるよう、事前に計画を立てさせたり、準備をさせたりした。

長野県飯山市戸狩

参加人数　男子23名　女子25名
計48名

１０月２日（日）		１０月３日（月）		１０月４日（火）		１０月５日（水）	
						8：00	掃除、荷物整理
9：00	茶屋池周遊ハイキング	9：00	焼き板体験	9：00	米作りについての話		
				10：00	稲刈り・はぜかけ		
		13：30	宿ごと勤労体験			9：30	閉校式
			・大掃除			10：00	バス乗車　出発
			・野菜の収穫	13：00	脱穀		
14：00	課題別学習						
		15：00	交流会準備	15：00	棚田のスケッチ		
				17：00	交流会準備	15：00	学校着
				18：00	交流会	15：30	解散

② 事後の学習内容

・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。
・課題別学習班ごとに、事前に調べていったことや現地で学んだことを模造紙にまとめ、互いに発表した。加えて来年度にセカンドスクールへ行く４年生にも発表した。
・戸狩で稲刈りした体験をもとに、学校の田んぼでも稲刈りをした。手作業で脱穀を行った。田植えから、脱穀までの一連の作業を体験することで、米作りの過程やその大変さをより理解することができた。
・お世話になった宿の方々に手紙を書き、感謝の気持ちを伝えた。後日来校していただき、久しぶりの交流ももてた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、茶屋池周遊ハイキング

宿のお父さん方とともに、茶屋池周辺に広がるブナの森のハイキングを行った。ハイキングの中では、ブナに触れたり、木の実を拾ったりしながら、豊富な水を蓄えるブナの特色や、自然環境に果たす役割などについて肌で触れて直接的に学ぶことができた。大型のナメクジなど森にいる生物、生息しているきのこ、植物などについても目の前で見たり触れたりしながら学

習することができた。随時お父さんが説明を加えてくださり、疑問がその場で解決されていった。整えられた道ではなく、自然のままの山道をハイキングすることで、自然と触れ合い、自然と生物との関わりを実感することができた。

２、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な道や田んぼのあぜ道を歩く体験を行った。武蔵野の夜の暗さとは異なる圧倒されるような暗闇を体験することで、その深さや怖さを知ったり、逆に星空や月の美しさに深く感動したりすることができた。大自然を肌で体感し、畏敬の念を育む貴重な体験となった。高揚感を子どもたち同士で共有し合えたため、帰宅後の宿での会話が一層充実したようである。

３、棚田のスケッチ

棚田を見学し、自然の地形を生かした先人達の知恵を目の当たりにしたことで、自然との共生について考える貴重な機会となった。さらに、棚田や周辺の自然をスケッチすることで、里山の景観の美しさに思いを馳せ、心豊かな感性を育む素晴らしい体験となった。

＜学習体験活動＞

１、農業体験（稲刈り・はぜかけ・脱穀）

作業の前に働くことの意義や農家の苦労などを話して頂き、稲刈りへの関心や意欲を高めることができた。民宿の方々の指導で、稲刈り・はぜかけ・脱穀を行った。稲刈りでは、鎌の使い方や体の動かし方を習い、勢いよく手前に引くように刈っていった。ただ体験するだけではなく仕事として真剣に取り組む姿が見られた。

はぜかけでは、稲穂の束ね方から習った。少しずつの分量でまとめて干すことで、湿気ることがなく、カビがはえないという先人の知恵を学んだ。

脱穀では、千歯扱・足踏脱穀機・コンバインの３種類の農具を体験することが出来た。千歯扱では、籾をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。手前に引くと一気に籾が落ちる迫力にも感動していた。足踏脱穀機はさらに多くの量を手早く脱穀でき、農機具の発達や仕組みの工夫に驚く児童もいた。最後にコンバインでの脱穀の様子を目の当たりにし、手作業の大変さを実感できた学習であった。一方では、手作業で汗をかく素晴らしさや気持ちよさを感じる児童も大勢いた。

この農業体験は、今回のセカンドスクールの中心をなすものであり、他の活動との関連を図っている。主なものは、カントリーエレベーターの見学とわらぞうり作りである。カントリーエレベーターの見学を実施することで、稲刈り・はぜかけ・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを捉えやすくした。わらぞうり作りでは、籾を落とされた穂を再利用し生活用品に生まれ変わらせるという、先人の知恵を体感することが出来た。また３学期に学習する国語「わらぐつの中の神様」への動機づけと深い理解につながると考えている。

主食である米を作るまでの手間の多さと、それによって生まれる副産物について、ともに学ぶことが出来た。

＜生活体験活動＞

1、郷土料理づくり

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹寿司の起源や工夫された食材、食べ方などについての話を聞き、戦国時代から伝えられてきた郷土料理に興味をもったようであった。また、乗せる具材を調理し作るところから始めたことで、達成感もあったのか大切そうに食べている様子がみられた。

2、宿ごと体験

宿ごとの体験では、巣箱作り、おやき作り、釣り、蕎麦打ち、カボチャのランタン作りを行った。巣箱作りでは、のこぎりやトンカチを使って作業を進めていた。カボチャのランタン作りでは手で中の実や種を取り出し、ナイフを使って目と口を繰り抜き思い思いの顔を作っていた。どの宿も武蔵野では体験したことが無いことへの取り組みばかりで、意欲をもってできただけでなく、自分で作り上げたという満足感を味わうことができた。

また、それぞれの宿ごとに焼き板工作も行った。焼き板工作では、焼いた板についた煤をきれいにはらうことで板に新たな風合いを出し、思い思いにデザインを付けていった。板をのこぎりで切ったり、たき火を起こして焼いたりと、難しい作業にも関わらず自分で行っているのだという達成感を子供たち全員が感じていた。

＜宿の方とのふれあい＞

1、課題別学習

課題別学習は、以下の６種類からの希望制で行った。

・米、野菜作りについて・・・戸狩でとれる米についての学習や、飯山で栽培される野菜、きのこの栽培などについて学習した。

・野菜作りについて・・・・・戸狩で主に生産される野菜についての学習や、畑での収穫などを行った。

・飯山の歴史について・・・・飯山城址に行ったり、がんぎの続く町並みを見学したりすることで飯山の歴史を学んだ。

・川の生き物・虫　・・・・・周辺を流れる川に行き、カニやカエルなどの生き物について、実際に捕まえたり触ったりして学習した。

・戸狩の野草や植物について・・・周辺の散策をし、よく見られる花や植物について学習した。

・郷土料理について・・・・・おやき作り、郷土料理の作り方や季節の野菜について学習した。

・伝統文化・仏壇について・・・内山和紙や仏壇、飯山の名物を調べた。

2、地域についての学習（雪国の暮らし・飯山について）

「雪国の暮らしについて」の学習や「飯山ついて」の学習の講師を宿の方にお願いしたことで、実際に取り組まれている暮らしの工夫や生活の苦労を直接学習することができた。また、実物を見せていただき、学習が具体的に深く進められていった。

○児童の感想

・宿のお父さんお母さんにとても優しくしてもらいました。帰り際、別れるのがつらかったです。

・７泊８日も一緒に過ごした友達とは、セカンドスクールに行く前よりも仲よくなれた気がします。行く前は不安もありましたが、今はみんなと行くことができて本当によかったと思いました。
・セカンドスクールで楽しみにしていたことは茶屋池のハイキングです。ブナの木、茶屋池は寒かったけれどとても綺麗でした。
・課題別学習では、お父さんに飯山城に連れて行ってもらいました。そこでは、千曲川が飯山城のお堀になっていることが分かりました。寺社も多かったです。
・セカンドスクールで一番心に残っているのは暗闇体験です。東京ではできない山の中の暗い道を歩き続けて、最初に見たのは飯山の綺麗な夜景でした。その後には、月の横に流れ星が見えました。
・私は稲刈りがとても大変なことがよく分かりました。今は色々な機械があるけれど、昔はそんなものは無かったから、自分たちの手でやっていたことの大変さがよく分かりました。
・私は蛙が嫌いでしたが、だんだん慣れてきて触れるようになりました。セカンドスクールでできなかったことができるようになったのは、自分でもびっくりしました。
・飯山に着いて思ったことが２つあります。１つ目は空気の違い、２つ目は自然の多さです。両方とも武蔵野市とは違い、空気はとてもおいしいし、自然はとても豊かでした。

○保護者の感想

・自分で自分を律しようとする力がついた気がします。段取り力が上がりました。
・親から離れて、同年代の子どもたちと過ごせたことはとてもありがたい経験です。
・普段は学校のことをあまり話さない子ですがセカンド後はよく話をするようになりました。
・飯山のお父さんお母さんに全幅の信頼を寄せていて「また飯山に行きたい」と言っています。
・プレセカンドの経験を活かしていました。友達との付き合い方、責任感、友達を気遣う姿勢に成長が見られました。
・１粒のお米の重みや家族に対しての感謝の言葉「ありがとう」「ごちそうさまでした」の心を教えて頂き感謝しています。

○総合的な学習の時間の視点から

総合的な学習の時間では、事前に課題別学習の下調べを行い、事後には学んだことをまとめ、発表会を行った。現地ではそれに関連させ、課題別学習をテーマごとに行い、事前に調べたことの確認と新たに知り得たことの学習や経験を実践した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・長距離のバス移動ではあったが、体調を崩す児童も見られずに現地まで到着できた。
・１週間という長い期間の実施であったが、ホームシックが心配された児童もプレセカンドでの経験を活かして、楽しんで活動に取り組むことができた。

・多くは初めての体験活動が主だったが、順応が早く、主体的に取り組む姿が見られた。
・プレセカンドでの宿泊経験は、保護者の方々にも子供たちにも精神的な安心感をもたらしていた。荷物の梱包も慣れていた。

○次年度に向けての反省・課題

・雨天プログラムでは、前日の夜と朝の天候を見て、民宿の方と相談し臨機応変に対応できた。３日目は、午前に和紙すき体験、午後にカントリーエレベーター見学、雪国のくらし学習を行う雨天プログラムに変更した。実地踏査の際、雨天プログラムについてもお願いしておいたので、変更もスムーズであった。
・カントリーエレベーター見学は細かい粉塵が舞っているので、マスクを着用させた方がよいと考えた。また稲刈りの最盛期でもあるので、午前も午後も忙しいとのことだった。今年度は午後だったが昨年度通り午前中の見学がよいと思う。
・６日目の宿ごと体験（勤労体験）は、宿の方も子供たちも参加し朝からその宿ごとにゆったりと取り組みを始められて大変充実した関わりがもてた。宿の方と子供たちが一緒に会話をしながら作業に当たる姿がとても印象的であった。
・７日目は雨天で延期していた稲刈り・脱穀と棚田のスケッチを行った。青空の下、稲刈りやはぜかけ、脱穀を行うことができた。子供たちは楽しみにしていた稲刈りができ、満足そうだった。棚田のスケッチは、移動に時間をかけず描く時間をしっかりと確保するため、宿周辺の棚田に変更した。最終日前に相応しい豊かな時間の流れであった。

【ブナ林での学習】

【稲刈り】

【宿ごと勤労体験】

セカンドスクール

関前南小学校　　10月1日～10月7日（6泊7日）

○日程表

１０月１日（土）		１０月２日（日）		１０月３日（月）	
		6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
		7:00	清掃	7:00	清掃
7:30	学校集合、出発式	7:30	朝食	7:30	朝食
8:00	出発				
		9:00	稲刈り・落穂拾い・脱穀	9:00	森林伐採作業
				11:00	稲作地の景色を眺める
11:30	昼食	11:30	コンバインでの稲刈り見学		（のろし台）
		12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	戸狩到着、開校式	13:00	イナゴ取り		
13:30	各宿舎着				
14:00	避難訓練	14:00	餅つき	14:00	薪集め
14:30	荷物整理				
15:00	自己紹介				
15:30	民宿の方との話し合い	15:30	健康観察、入浴	15:30	郷土食作り
16:00	民宿の方との周辺散策			16:00	（うどん、おやき、笹ずし）
16:30	箸作り				
17:30	健康観察、入浴	17:30	薪割り、ご飯炊き	17:30	夕食準備、夕食、片付け
18:00	夕食準備、夕食、片付け	18:00	夕食準備、夕食、片付け		
				19:00	お別れ会準備
19:30	一週間のめあて確認				
20:00	生活のルール確認	20:00	星空観察	20:00	学習のまとめ
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

社会科

・地図帳を活用し、飯山市の位置や東京からの距離などについて学習した。

・雪の多い地方のくらしと関連付けて飯山市のくらしについても学習した。

総合的な学習の時間

・バケツを使って稲を育て、稲作に対する興味を深めた。また、芽出しから収穫までを自分で行うことで、稲の生長についての知識を得ることができ、セカンドスクールでの稲刈り、落穂拾い、脱穀体験につなげられた。

・インターネットや書籍を活用し飯山市について調べた。飯山のくらしや文化について知るだけではなく、自己の興味を基に現地での学習のめあてを立てた。

長野県飯山市戸狩

参加人数　男子18名　女子17名
計35名

１０月４日（火）		１０月５日（水）		１０月６日（木）		１０月７日（金）	
6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック	6:30	起床・健康チェック
7:00	清掃	7:00	清掃	7:00	清掃	7:00	清掃
7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
						8:00	荷物整理
						8:30	大掃除、奉仕活動
9:00	宿ごとの体験①	9:00	茶屋池周辺のブナ林	9:00	火起こし体験		
		9:30	ハイキング	9:30	かまど作り		
				10:00	野外炊飯	10:00	閉校式
12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食	12:00	昼食
13:00	課題別学習	13:00	課題別学習まとめ	13:00	宿ごとの活動②		
13:30	・森の家						
14:00	・ふるさと館、紙すき、高橋まゆみ人形館						
		15:00	お別れ会準備	15:00	お別れ会準備	15:00	学校着、帰校式
						15:30	解散
17:00	健康観察、入浴	17:00	健康観察、入浴	17:00	健康観察、入浴		
17:30	夕食準備、夕食、片付け	17:30	薪割りご飯炊き	17:30	夕食準備、夕食、片付け		
		18:00	夕食準備、夕食、片付け				
19:00	家族へのお手紙書き	19:00	お別れ会準備	19:00	お別れ会		
20:00	学習のまとめ	20:00	学習のまとめ	20:00	学習のまとめ		
20:30	健康チェック	20:30	健康チェック	20:30	健康チェック		
21:30	消灯	21:30	消灯	21:30	消灯		

② 事後の学習内容

礼状を書く

・体験活動で学んだことをまとめ、宿の方々やお世話になった飯山の方々へのお礼状書きを通して、児童に学習を振り返らせた。

自分たちの変容について話し合う

・セカンドスクールを通して学んだことから、自分たちの変容について話し合う時間を設定し、自分たちの今後の生活のしかたや、将来の食糧事情について考えを深めた。

体験活動で学んだことを報告する発表会を開く

・体験活動で学んだことを整理し、グループごとに説明する内容を考えた。パソコンでプレゼンテーションを作成し、保護者に向けて発表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、茶屋池ハイキング

茶屋池周辺のブナ林を、宿ごとのグループでハイキングした。宿の方に詳しく案内していただき、補聴器でブナの音を聞いたり、ブナに触れたりしてブナについて知ることができた。ブナの特性を理解するとともに、ブナが飯山市の人々の生活に果たしている役割を捉え、飯山市の人たちの生活にはなくてはならないものであることを理解することができた。

【茶屋池ハイキング】

２、森林伐採作業

のろし台までの山道の木を伐採し、光が入るようにしたり、道を歩きやすくしたりした。昨年度のプレセカンドスクールでの体験を生かして手際よくたくさんの木を切ることができた。しかし、木材とする植林を切るのではなく、自然に伸びている木を切ることから、難しい部分もあった。森の家のインストラクターや宿の方のアドバイスを受け、自然の木を切ることを知ることができた。今まであまり手を入れていた場所ではなかったということから、今後も継続していきたいと、現地の方からも感謝された。

３、森の家（課題別学習）

学級の 19 名の児童が、課題別学習で森の家での活動を選択した。ブナ、ヤマウルシ、クロモジ、コナラ、ミズナラ、ホウバなど、飯山市に生息する植物について森を散策しながら教わることができた。森の家のインストラクターの方が楽しく、分かりやすく教えてくださったので、多くの児童が興味を深めた。

４、イナゴ取り

飯山市では、郷土食の一つとしてイナゴのつくだ煮をつくっているということから、稲刈りの後、田にいるイナゴを採った。最初はバッタとイナゴの違いが分からず、宿の方に質問する様子が多く見られたが、その特徴を知り積極的に活動して、たくさんのイナゴを採ることができた。イナゴが昔の人たちにとって貴重な栄養源であったことを捉え、興味を深めた児童は、個人的に宿の方につくり方を聞く様子も見られた。

５、星空観察

とん平のスキー場までマイクロバスで上がって、山に囲まれたほとんど光のないところで星空の観察をした。東京では見ることのできない星空を目の当たりにし、児童は感動するとともに、理科で学習したことを自分の目で確かめていた。星座早見盤を学校から人数分持参して活用し、活用のしかたの復習にもなった。

＜学習体験活動＞

1、稲刈り・落穂拾い・脱穀

【稲刈り】

稲刈り体験では、全体で飯山の稲作についての話を聞いてから活動を始めた。各宿の方が、鎌の使い方を丁寧に指導してくださり、上手に安全に刈ることができた。その後各宿の方からお米の大切さを話していただき、作ったお米を無駄にしないよう落穂拾いに臨んだ。脱穀体験では、千刃こきと足踏み脱穀機を用意していただき、両方の体験をすることで時代の流れや工夫を感じながら作業することができた。最後にコンバインでの作業を見せていただき、現在の作業について理解を深めた。

2、紙すき体験・ふるさと館・高橋まゆみ人形館見学（課題別学習）

学級の 16 名の児童が、課題別学習で文化的な活動を選択した。飯山駅周辺の施設での活動を中心に、飯山の文化について理解を深めることができた。

【紙すき体験】

飯山市の伝統工芸である「内山紙」の紙すきを体験した。まず、なぜ飯山市で和紙が伝統工芸となっているのか、どのように活用されているのかなどを教えていただいた。その後、実際に紙すきを体験した。慣れない作業に難しさを感じながらも、はがきサイズの和紙を２枚作成した。自分で色のついた和紙を入れたり、紅葉の葉を入れたりして模様をつけ、工夫して完成させることができた。

【ふるさと館】

ふるさと館では、飯山市の地形や雪国ならではの昔の道具について見学し、生活の工夫や苦労について理解することもできた。

【高橋まゆみ人形館】

高橋まゆみ人形館では、飯山市出身の人形作家である高橋みゆきさんの作品を見学した。作品の一つ一つにテーマがあり、飯山市の生活の様子を人形からも捉えることができた。作品の細かな表情に感動し、興味を深めた児童が多かった。

＜生活体験活動＞

1、宿ごとの体験

宿ごとに野外体験型のものと、室内体験型と２種類の活動を用意してもらい、工夫を凝らした体験をさせていただいた。

【野外体験型】

さつまいもほり、栗拾い、アスパラ畑の整備、イチゴの苗植え

【室内体験型】

やしょうまづくり、和紙工作、ニラせんべいづくり、イチゴジャムづくり、リンゴジャムづくり、米粉パンづくり、よもぎパンづくり

２、郷土食づくり

【笹ずし作り】

飯山市の郷土食である、「笹ずし」「おやき」「うどん」をつくった。児童は３グループに分かれ、それぞれの郷土食をつくった。その後それぞれがつくった郷土食を宿に持ちより、夕食に３種類の郷土食をすべての児童が食べることができた。つくり方を学ぶだけではなく、なぜこれらが郷土食になったのかなどについても理解を深めることができた。その後、児童同士情報交換をし、つくり方を教え合う姿も見られた。

３、薪割り･ご飯炊き

すべての夕食のうち、２回の夕食のご飯は、かまどで炊いた。大きめの薪を燃えやすいように鉈で細くするところから始め、火の管理のしかたやお米を炊くためのポイントを教えてもらった。はじめは鉈の使い方を宿の方に聞き、恐る恐る作業していたが、２回目は、学んだことを生かして上手に鉈を使う姿が見られた。「はじめちょろちょろ、なかぱっぱ・・・。」と宿の方に教わったことを唱えながら火の管理をする姿も印象的であった。炊きあがったお釜の蓋をあけたときには、児童から「おいしそう。」という歓声があがり、自分達で調理するよさを感じ取ることができた。

４、火起こし体験

宿でのかまどを使用したご飯炊きの体験をもとに、川原で自分達だけでブロックを使ってかまどをつくり、火を起こしてカレーをつくった。与えるマッチは３本、新聞紙は１枚という条件を事前に提示していたため、真剣に作業に取り組む姿勢が見られた。空気の通り道や、薪の入れ方を工夫し、小雨が降る悪条件の中ではあったが、すべての班が、条件内で火を起こし、おいしいカレーをつくることができた。児童が学んだことを生かし、自分達の力だけで作業をしたことに、宿の方も感心していた。

５、餅つき

稲刈りの後、地元でも行われている収穫を祝う餅つきを行った。すべての児童が数回ずつ餅をつき、完成したものを宿の方が味付けしてくださり、それをみんなで食べた。収穫の喜びを感じ取るだけではなく、農業をくらしの中心としている人たちの文化についても知ることができた。

６、箸づくり

活動初日に７日間使用する箸を、竹を材料にし、小刀で削って作成した。事前に学校で小刀の使い方の学習をしたため、すべての児童が安全に箸をつくることができた。自分がつくった箸で食べることに喜びを感じながら食事をすることができ、帰ってきてからも家庭で使っている児童もいる。

○児童の感想

・はし作りが心に残っています。自分で小刀を使って作りました。１週間使うはしなので真剣に作りました。セカンドスクールから帰ってきても使っています。宿のお父さんが手伝ってくれたので、とてもいいはしができました。
・ぼくは、森の家に行ったことが心に残っています。ウルシやクロモジのこととブナの木の秘密などを教えてもらいました。これからも自然のことをもっと知りたいです。
・セカンドスクールでの思い出は、課題別学習です。飯山のふるさと館を見たり、紙すき体験ではがきを作ったりしました。また、人形館にも行きました。あたたかい気持ちになる作品がたくさんあってとてもきれいでした。
・私は「郷土食作り」が一番の思い出です。私はうどんを作りました。うどん作りで大変だったことは、水を入れているのに粉がまとまらなかったことです。できたうどんはこしがあっておいしかったです。

○保護者の感想

・長期間の宿泊でしたが、元気に帰ってきて、体験したことを嬉しそうに話してくれました。帰ってきてさっそく宿の方に手紙を書いている姿を見て、有意義な時間を過ごすことができたのだなと分かりました。
・短い期間でしたが、たくましくなって帰ってきたように思います。食べ物を残す妹を見て、つくり手の気持ちなどを話していました。

○総合的な学習の時間の視点から

・バケツ稲を育てることで、米作りの過程を体験した。芽出しから行い時期ごとに細かく観察しながら、その生長について理解を深めることができた。わずかな米をつくるのも難しいことであることを捉え、セカンドスクールでの稲刈りに真剣に取り組むことができた。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・６泊７日という長い期間の実施であったが、プレセカンドの経験を活かして楽しんで活動に取り組むことができた。
・初めての体験活動ばかりであったが、順応が早く主体的に取り組む姿が見られた。森林伐採作業では、林業体験での経験を生かすことができ、上手にのこぎりを使うことができた。
・共同生活で大切な場に応じた態度や挨拶をしっかりと行うことができた。

○次年度に向けての反省・課題

・今年度は実施地変更初年度ということもあり、課題のもたせ方が明確ではなかった。今年度の活動のよかったところを、来年度以降に引き継ぎ、現地での活動に自分なりのめあてをしっかりと立てさせ本番に臨ませるようにする。
・今年度は単学級のため５宿での分宿となったが、来年度以降は宿を増やすことを考えなければならず、そうなった際にこちらの学習のねらいを新しく加わる宿に明確に伝える必要がある。

セカンドスクール

桜野小学校　　10月2日~10月8日(6泊7日)

○日程表

１０月２日（日）		１０月３日（月）		１０月４日（火）		１０月５日（水）	
7：30	学校集合	9：00	郷土食作り	9：00	米作りの学習	9：00	茶屋池ハイキング
7：40	出発式		（笹寿司）	10：00	稲刈り		ブナ林の役割学習
8：00	バス乗車、出発				はぜかけ		
12：00	戸狩到着、開校式						
13：00	昼食　部屋割り			13：00	脱穀	13：00	宿ごと食体験
					千歯扱		・ジャム作り
14：00	里山散策				足踏脱穀機		・ドラム缶ピザ
		15：00	宿ごと自然体験		コンバイン		・おやき作り
15：30	箸作り		雪国のくらし				・そば打ち体験
				16：00	手紙書き		
		19：00	暗闇体験				

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・社会科の「比べよう気候を生かした地域の暮らし」の学習で、飯山市戸狩地区の地理や雪国の暮らしについて１学期から学び、セカンドスクールへの意識付けを行った。

・２学期の総合的な学習の時間「セカンドスクールに行こう」の単元では、長野県飯山市についての事前学習を５、６人程度のグループで行った。「自然」「雪国の生活」「郷土食」「歴史・文化」「気候・地形」「米」「農業」「伝統工芸」などのテーマに分かれ、調べ学習を行いワークシートや模造紙などに学習内容をまとめた。調べた内容は、クラスごとに発表会をすることで知識を共有できるように学習計画を工夫した。インターネットや書籍（中央図書館より貸出）での調べ学習は、児童の理解を深めるのに非常に有効であった。各グループごとにまとめた資料は、１冊のしおりにまとめセカンドスクールにも持参した。

・１学期の総合的な学習の時間「お米博士になろう」の単元で、社会科と関連させ、稲作についての学習を行った。田起こし、代かきをしてから学校の水田で田植えを行った。セカンドスクールでは稲刈りをするので、稲穂が実るまでの様子を学校で観察した。

・学習のしおりには、自分の目標や班の目標を決める学習の中で自然とセカンドスクールに対する意欲が高まるようにした。

長野県飯山市

参加人数　男子54名　女子44名
計98名

１０月６日（木）		１０月７日（金）		１０月８日（土）	
9：00	カントリー エレベーター見学	9：00	焼き板体験	8：00	部屋の掃除
10:00	和紙すき体験			10：00	戸狩発
		13：00	宿ごと勤労体験		
14:00	わら細工		・宿の掃除 ・農作業の手伝い		
		15：00	感謝の会の準備	15：00	学校到着
				15：30	解散
19:00	バーベキュー	18：00	感謝の会		

② 事後の学習内容

・セカンドスクールでの体験を作文にまとめた。

・セカンドスクール中に興味をもったことを学習の新たな出発点として、事後学習を個別に行った。セカンドスクール中にしおりにまとめた学習内容や宿の方から教えていただいた話をもとに、インターネットや書籍で調べ学習をした。「飯山市の生き物」「長野の方言」「水の役割」「米づくりの苦労」「飯山仏壇」「飯山の宿調べ」など各自課題を設定し、ワークシートにまとめていった。児童が、セカンドスクール中にデジカメで撮影した資料も添付し、より学習意欲を喚起できるように心がけた。友達の作品を読み合ったり、発表会をしたりして学習の成果を共有した。

・セカンドスクールで心に残ったことを題材に「俳句・短歌づくり」に取り組んだ。学年掲示として廊下に張り出し、保護者や異学年の児童にも飯山の様子を伝えた。

・展覧会では、児童がデジカメで撮影した写真をスライドショーに編集して飯山スライドショーコーナーを作った。図工の時間に作成したブナの木（段ボールに絵の具やコンテを使って作成）を掲示したり、トンボや蛙などの絵を画用紙に描き掲示した。また、自分たちが収穫した稲わらや飯山から持ち帰った「くろもじ」、「わらぐつ」などを飾ったり、鈴虫の音や「ふるさと」などの楽曲を流したりして、セカンドスクールの様子を紹介した。

・学校の田で稲刈りをした。刈り取った稲を乾燥させた後、手作業で脱穀をし、地域の米店の協力を得て精米を行った。田植えから、脱穀までの一連の作業を体験することで、米作りの過程やその大変さをより理解することができた。

・飯山市で収穫された米を炊いて、家庭科の時間で調理実習を行った。
・各宿にあいさつの手紙を書いて、お世話になる宿の方へ感謝の気持ちを伝えた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、茶屋池周遊ハイキング

おいしいお米を作るためには、豊富な水が必要であるということについてブナの林の役割を通して学習した。ブナの木１本で、米づくりの水田何反もの水量を確保できることを講師である宿の方々にガイドしてもらいながら学んでいった。聴診器を木の幹にあて水を吸い上げる音を現場で体感したり、豪雪地帯である戸狩の雪解け水の役割について教えていただいたりした。また、戸狩の方々がこのブナの林を守るための運動をしていた歴史を聞かせていただくなど、現地の方々にとってこのブナの林は生活の一部になっていることも学ぶことができた。高級つまようじの原料であるくろもじや、食用品であるあけびを見つけるなど、林にある植物についても見たり触れたりしながら学習することができた。

2、暗闇体験

東京では体験できない、真っ暗な夜の様子を味わわせる活動を行った。昼間とは違い静まり返った戸狩の夜空を見上げ星の観察をしたり、田んぼやあぜ道をゆっくりと踏みしめたりする中で、その暗さや怖さを実感した。

＜学習体験活動＞

1、農業体験（稲刈り・はぜかけ・脱穀ーわら細工）

セカンドスクール実施前に、桜野小学校で田植え、稲の生育の観察、稲刈りを実施して現地での農業体験への意欲を喚起した。セカンドスクール中は、作業の前に、宿の方に農家の苦労や米づくりの歴史について話していただいた。台風の被害や病気による農作物への影響などを話していただくことで、自然の脅威についても学ぶことができた。

稲刈りは、直前の台風で倒されてしまった稲を持ち上げながら、鎌を使って勢いよく手前に引いていった。足元がぬかるんだ中での作業は、手作業の大変さを実感させることにつながった。

稲刈りの後は、はぜかけを行った。刈った稲を、少しずつの分量に束ねて干すことで、湿気ることがなく、カビが生えないという先人の知恵を教えていただいた。

脱穀では、千歯扱・足踏み脱穀機・コンバイン・ハーベスターの４種類の農具を用いて実施した。千歯扱は、籾をより分けるために考えられた江戸時代の人々の知恵の深さに感心している児童が多かった。しかし、機械に比べ脱穀作業に時間がかかり、機械化の利便性についても改めて実感できたようである。足踏み千歯扱はさらに多くの量を手早く脱穀できた。現代には、あまり残されていない貴重な農具であるということを教えていただき、千歯扱に比べものすごい勢いで多くの量の籾をより分けていく迫力ある様に、喜びを感じていた。

この農作業は、他の活動と関連を図っている。主な活動としては、カントリーエレベーター見学とわら細工である。カントリーエレベーター見学を実施することで、稲刈り・はぜか

け・脱穀・もみすり・精米といった出荷までの一連の流れを分かりやすく学習できるように工夫した。わら細工では、籾を落とされた穂を再利用して生活に生かしていく先人の知恵を学ぶことができた。

＜生活体験活動＞

1、郷土料理づくり

宿の方の指導で、「笹寿司」作りを行った。笹を収穫するところから作業を始め、のせる具材を調理したり食べ方を教わったりしながら学習を進めていった。戦国時代から続けられてきた郷土料理の起源についても高い関心をもって作業に取り組んでいたようである。

2、宿ごと体験

宿ごとの食体験では、りんごジャム作り、そばうち体験、ドラム缶ピザ作り、餅つき、おやき作りが行われた。りんごジャム作りではりんごを細かく切り、鍋で煮詰めてパンなどにつけて食べた。そばうち体験ではそば粉をこねるところから始め、最終的には自分で打ったそばを食べた。ドラム缶ピザ作りでは生地を作るところから体験し、出来立てのピザを食べた。餅つきでは米をふかしたあと、宿のメンバーで餅をついてあんこやきな粉をまぶして食べた。おやき作りは、飯山で獲れた新鮮な野菜を具材として様々な味のおやきを作った。どの宿の体験も武蔵野ではできない体験ばかりであった。仲間共に、活動を最後までやり遂げたという充実感は大きかったようである。

宿ごとの自然体験では、リース作り、フォトフレーム作り、キーホルダー作り、凧上げ体験などを行った。飯山の自然を生かした素材でものづくりを体験したり、広々としたスキー場ゲレンデをおもいきり駆け回って自然を満喫したりする姿が印象的であった。

６日目に、宿の方への感謝の気持ちをこめて、宿ごと勤労体験を行った。お世話になった宿をきれいに掃除したり、農作業を手伝ったりする活動は、宿の方に感謝された。子どもたちが意欲的に働く姿がたくさん見受けられた。

＜宿の方とのふれあい＞

1、宿の方が活動の講師となる

セカンドスクール中の全ての活動は、宿の方が講師となって行われた。

・米、野菜作りについて・・・戸狩でとれる米についての学習や、飯山で栽培される野菜、戸狩で主に生産される野菜についての学習を行った。

・飯山の自然、歴史について・里山散策、雪国のくらし、ブナ林の役割、米づくりの苦労などについてお話をしていただいた。

・戸狩の草花について　・・・周辺の散策をし、よく見られる花や植物について学習した。

・生き物ものについて　・・・周辺を流れる川に行き、カニやカエルなどの生き物について実際に捕まえたり触ったりして学習した。

・郷土料理について　・・・郷土料理について学び、おやきを実際に作って試食を行った。

2、地域についての学習（雪国の暮らし・飯山について）

学習の講師を宿の方々にお願いした。豪雪地帯である飯山の建築様式について、１週間の生活を通して、教えていただいた。宿には、わらぐつや蓑などが飾られているところも多く雪国の暮らしの歴史や苦労、工夫についても直接学ぶことができた。

○児童の感想

・凧上げを初めてしました。電柱の全くないスキー場ゲレンデでおもいっきり走り回って凧を揚げた経験は忘れられません。凧が上がりすぎて、糸を巻くのに何十分もかかって大変でした。作った凧は、大切な宝物です。

・箸づくりが心に残っています。最初は、小刀の扱いに慣れず箸の形がばらばらになってしまいました。宿のお父さんに教えてもらってもう一度挑戦すると、とても上手に仕上げられました。今でも、家の食事のときには使っています。

・ぼくは、野菜が嫌いです。特に、キノコやアスパラガスは苦手でした。でも、飯山市での食事はどれもおいしくて毎日残さず食べました。なめこのおみそ汁は３回もおかわりしました。

・飯山の人たちは、みんな親切でいい人です。優しい人がいっぱいで毎日笑顔で生活できました。また、必ず飯山に来たいと思いました。第２のふるさとができた気持ちです。

・ぼくが心に残ったのは、和紙すき体験です。職人さんの仕事ぶりを生で見ることができてすごく勉強になりました。東京では見たことのない機械がいっぱいあって驚きました。和紙に菜の花や草を混ぜていたのもすてきだなと気に入りました。世界で１枚しかないぼくだけのはがきができました。

○保護者の感想

・セカンドスクールでの出来事をとにかくたくさん話してくれました。宿の方やその家族の皆様の話まで詳しく話してくれるので、聞いていて自分も飯山に行ったような気持ちになりました。冬には、家族で出かけたいなと計画をしています。

・家に帰ってきて靴を揃えられるようになりました。身の回りの整理も少しできるようになってきたように感じていて嬉しいです。私の方が、教わることもたくさんあるぐらいです。

・セカンドスクールに行く前と顔つきが変わっていて少し大人になったような気がしています。６泊７日の集団生活で自信を深め帰宅したようです。

・とにかく、「楽しかった」と話してくれます。苦手だったニラを残さず食べられたことが一番心に残っているようです。蛙を 20 匹捕まえたんだと得意げに話す子どもの話を聞いて思わず笑ってしまいました。

・飯山市は、寒かったことが印象深かったようです。友達と寄り添って眠ったことが忘れられないと熱心に話してくれました。10 月にこれだけ寒いのだから冬はどんなに寒いのか興味があるようです。たくさんの方言をつかって話す姿もおもしろいなと思っています。

○総合的な学習の時間の視点から

総合的な学習の時間では、事前に課題別学習の下調べを行い、事後には学んだことをまとめ、発表会を行った。現地では、興味がわいたことを個別に調べ、事前に調べたことの確認と新たに知り得たことの学習や経験を実践した。

○プレセカンドスクールの効果がみられた点

・集団宿泊体験でのルールや学習の進め方などが徹底された。
・長期宿泊に対する不安感が軽減されていた。
・持ち物についても新たにそろえなければならないもが少なく、保護者も安心してセカンドスクールに子どもたちを送り出せたようだ。

○次年度に向けての反省・課題

・川や池の水が冷たいと体調を崩す恐れがあるため、気候によっては、焼き板工作は計画を変更する。
・朝の６時起床が子どもによっては少し早かったようである。
・脱穀では、千歯扱、足ふみ千歯扱はどうしても時間がかかるので工夫が必要である。
・医療機関や物資の調達場所などを実際に確認できたので来年度からはよりスムーズに対応が可能である。事前調査にはない医薬品を持ち込む児童が数名見られたので来年度は、指導を徹底していく。

【稲刈り】

【ブナの森ハイキング】

【郷土食作り】

【箸作り】

中学校セカンドスクール

セカンドスクール

第一中学校　　9月27日～10月1日（4泊5日）

○日程表

９月２７日（火）		９月２８日（水）		９月２９日（木）	
6:45	一中校庭集合・出発式	6:30	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:45	調布インター	7:00	朝食	7:00	朝食
10:40	豊科インター	8:30	退館式、出発	8:10	民宿を出発
11:50	国営アルプスあづみの公園	10:00	林業体験　　下草刈り	8:40	八方尾根トレッキング
			枝打ち、チェーンソー		八方池
11:50	昼食（弁当）	12:00	昼食	12:15	昼食
12:50	学級ごとのプログラム	13:00	林業体験		
	ピザづくり、生き物の森観察、		薪割り、丸太切り	13:40	ジャンプ台見学
	ネイチャー体験	15:30	民宿入村式		
16:30	ホテル着、入館式	16:30	各民宿でオリエンテーション	14:45	民宿到着
17:15	入浴、休憩	17:00	夕食作り		スケッチ、郷土料理体験
18:45	夕食	18:00	夕食、入浴	17:00	入浴、夕食
20:15	レクリエーション	20:00	民宿の方との交流	19:00	民宿の方との交流
21:15	班長会議	21:15	班会議	21:15	班会議
21:30	就寝準備	21:30	就寝準備	21:30	就寝準備
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・「自然・環境問題」という総合的な学習の時間のテーマを設定し、事前学習を実施した。

・各教科等との連携

国語：農家民宿に、宿ごとに自己紹介カードを作成し、事前に送付した。

総合：長野県や白馬村について、自然や農業、林業、水、食など環境に関することについて、各自でテーマを決め、個々に調べ学習をした。

・セカンドスクール実施前に、ＪＡの方、民宿農家の方、林業体験担当の方を学校に招き、白馬村の地域や産業について、環境パンフレットやプレゼンテーションソフトを活用して、実際の農作業の方法や作業内容などの説明を受けた。クイズ形式に工夫してあるなど、分かりやすい説明を受け、セカンドスクールへの興味・関心が高まった。

長野県北安曇郡白馬村

参加人数　男子40名　女子46名
計86名

９月３０日（金）		１０月１日（土）	
6:30	起床・健康観察	6:00	起床・健康観察
7:00	朝食	7:00	朝食・出発準備
9:00	レクレーション、交流会	8:15	農作業体験（畑作業）
12:00	昼食	11:15	昼食（白馬五竜スキー場にて）
13:00	郷土料理体験、わら細工体験	11:45	閉村式
17:00	入浴、夕食	12:10	白馬村出発
19:00	民宿の方との交流	13:10	豊科インター
21:15	班会議	15:40	調布インター
21:30	就寝準備	16:15	学校到着・解散式　　解散
22:00	就寝		

②　事後の学習内容

・事後学習の取り組み

５日間の体験や民宿における活動などを、班ごとに模造紙１枚にまとめた。さらに、第一中学校の総合的な学習の時間の取り組みとしてのポスターセッションの中で、「環境」をテーマとして関連付けていく。

・道徳との連携

お世話になった民宿の方々へ班ごとにお礼状を作成し送付することで、感謝の心を育んだ。

・事後交流会

お世話になったすべての民宿の方々を学校に招待して、各班のセカンドでの体験報告会を行い、その中で、生徒が体験したことやお世話になった農家の方々への感謝の気持ちを表すとともに、セカンドスクール後に成長した姿を披露することができた。また、農家の方からいただいたもち米を使用して、餅つき大会を催した。交流会の運営では保護者の協力を依頼し、９年にわたって行われてきた交流会をさらに充実させることができた。

【体験発表会】

【餅つき大会】

○特色ある学習内容

＜自然体験活動＞

1、トレッキング

今年度は、「八方、第１ケルン」へのコースを学年全体で実施した。各学級、民宿のご主人１名ずつで引率しながらのトレッキングであった。教員、指導員を、先頭と中ほど、最後尾に配置し、生徒全体のフォローをし、事故防止に努めた。八方池での雄大な景色を満喫し、自然を大切にする心が育った。

【トレッキング】

【林業体験】

＜学習体験活動＞

1、林業体験（小谷村）

昨年度に引き続き生徒一人一人の体験活動における内容の質と量を充実させることができた。「中谷郷」という山間で、「下草刈り」「枝打ち」「チェーンソー体験」「薪割り」のなどの体験を全員で行った。

この体験活動では、生徒一人一人に「鎌」や「のこぎり」が配られ、指導員の方々の丁寧な指導の下、森を守るための「下草刈り」などの作業に関わり、充実した活動ができた。また、地元の方々と共に体験活動に汗を流して一生懸命取り組んだことにより、親睦を深めることができた。

2、白馬村オリンピックジャンプ台

冬季オリンピックの会場であり、スタート地点の高さや傾斜にびっくりしたり、リフトに乗りながら、空高くジャンプしている選手を想像したりと楽しむことができた。また、民宿の方のご厚意で、実際に飛んでいるところを見せてもらえた班もあり、貴重な体験となった。

冬季長野オリンピックで使用された、ジャンプ台を見学することにより、ジャンプ台競技の厳しさを体感することができた。また、白馬村の地理を一望することができ、山間での暮らしぶりを知ることができた。

＜生活体験活動＞

1、農家民宿泊

民宿泊を３泊連続して実施した。その結果、農家の方々との交流と親睦がより深いものになった。農業体験では民宿ごとに「さつまいも掘り」「ミニトマト収穫」「スキー場の花の種取り」などを天候に合わせて実施していただいた。また、郷土料理体験においても、「そばクレープ」

「そば打ち」「おやき」「おはぎ」など、民宿ごとに取り組み方に工夫を凝らしていた。また、「わら細工」体験では一輪ざしやワラ馬など、民宿ごとにいろいろな種類のわら細工を準備していたただき、楽しんで作品作りに取り組んだ。どの体験にも生徒は積極的に取り組んでいた。

各民宿にお世話になった生徒の人数が少人数であったため、多くの自治的活動が実施できた。また、一人一人の作業内容の質と量を向上させることができたので、生徒にとって大変貴重な体験になった。その要因としては、農家の方々の受け入れが９年目を迎えたこともあり、生徒に対する対応のノウハウができていたことが挙げられる。さらに、ＪＡ大北が学校側と農家民宿との事前打ち合わせを円滑に仲介してくれたこと、計画時間を工夫して体験活動の様子をこまめに見て回れたりしたことが、例年以上に生徒の体験活動内容の充実に繋がったと思われる。

○生徒の感想

・アンケートより、99%の生徒が大成功だったという結果が出た。「感じる自然・深める友情」というスローガンも達成できた。
・自然に触れ、山村ならではのいろいろな体験活動ができ、有意義な５日間になった。これからの学校生活では、白馬村で学んだことを個人個人で活かし、今以上によりよい学年になるようにしていきたい。

○保護者の感想

・民泊を主とした体験活動や事後の交流会を通し、人と人とのつながりや絆が深まったようで、家庭での会話も増えたとの感想が多かった。

○総合的な学習の時間の視点から

本校の総合的な学習の時間における、テーマ「環境」を学ぶ上でのステップとして有効な手立てになった。また、事後の交流会での発表では、クイズや劇の形式を入れるなど、班ごとに様々に工夫した発表が見られた。このことは、生徒たちの「思考力」「判断力」「表現力」を向上させるとともに、12 月のポスターセッションに継続できるものと確信できた。言語活動の充実を図れるよう、ポスターセッションを目標に、さらに課題解決学習を深めさせたい。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校セカンドスクールの体験学習を生かしながら、教科との関連を意識した学習及び農業や林業の労働体験を含め、中学生の発達段階に応じた体験活動に発展させていくことが大切であると考えている。

○次年度に向けての反省・課題

・宿泊がホテルに１泊、民宿に３泊は、全体指導から少人数指導に移るための教育的効果が高いので、今後も継続していきたい。
・農家の方々との、事前学習と事後学習（交流会）を、今後も継続して実施したい。
・今年度は、雨のため稲刈りができなかったので、農業体験可能日を複数入れるなど、天候に応じた日程を計画していくようにしていきたい。

セカンドスクール

第二中学校　　5月24日～5月28日（4泊5日）

○日程表

５月２４日（火）		５月２５日（水）		５月２６日（木）	
7:00	学校集合・出発式				
7:30	出発				
	所沢ＩＣより関越自動車道			8:45	農家とのお別れ会
	塩沢石打ＩＣ下車　浦田へ		《全日》	9:00	伝統料理体験
12:00	体験交流施設　着		農村生活体験		
	昼食		（農作業体験含む）		
13:30	開校式			13:50	林業体験
	田植え体験				
16:00	対面式（体験農家）			16:40	宿舎（千歳）着
	各農家へ移動			19:00	夕食
				20:00	現地学習「温泉熱の活用」
	農家泊		農家泊		
				21:00	室長会、部屋会議
				22:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・現地での活動内容を紹介し、目標作りなどをすることで興味関心をもった。
・昨年度の実施ビデオや実施踏査での写真を見せ、当日に向けてのイメージ作りを行った。
・武蔵野自然塾の講師の方を呼び、新潟県松之山に生息する動植物の情報や見どころなどを説明していただき、セカンドスクールに対する関心を深めた。
・「セカンドスクールについての学習会」と題し、プリント学習を行った。
・自分のテーマを決め、農村生活体験での質問内容や現地で収集したい情報・資料用写真撮影などの検討を行った。
・お世話になる農家の方への自己紹介カードを作成した。
・美術科の授業にて自然観察スケッチの仕方を学習した。

新潟県十日町市松之山

参加人数　男子46名　女子41名
計87名

５月２７日（金）		５月２８日（土）	
6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	出発		
9:00	大厳寺高原着	9:15	森の学校キョロロと美人林　見学
	自然観察ハイキング	10:30	閉校式
		11:00	松之山　発
12:00	昼食		塩沢石打ＩＣより関越自動車道
			昼食（赤城高原サービスエリア）
13:00	自然観察、風景スケッチ		所沢ＩＣより一般道へ
		15:30	学校　着
16:00	宿舎着	16:00	合同学活後　解散
19:00	夕食		
21:00	室長会、部屋会議		
22:30	消灯		

② 事後の学習内容

・お世話になった農家の方へのお礼状を作成した。
・しおり（学習と記録のページ）を完成させた。「学習テーマについて」・「農村生活体験において体験したこと」・「農家の人とのふれあいから感じたこと・質問したこと」など、その日の活動内容に沿って記入できるようになっている。
・感想文を書いた。
・班新聞の作成とプレゼンテーション形式の発表会を行った。事前に学習した内容やセカンドスクール当日に収集した資料・写真・パンフレット・現地での経験やインタビューなどを活用し、班新聞を作成した。新聞形式にまとめ、それを利用して学級内発表、その後、代表による学年発表会を行った。作成した新聞は、校内に掲示し、授業公開などで保護者にも見ていただいた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、自然観察ハイキング

現地のインストラクターと共に大厳寺高原を歩いた。小雨まじりの天候だったため、安全面を考え、展望台までは行かず、途中で折り返し戻ってきた。15 人程度のグループごとにインストラクターの方がついてくださり、高原に生息する植物や動物などの話を随所で見聞きしながらのハイキングとなった。また、武蔵野自然塾の講師から教えていただいた見どころを意識しながら大自然に触れることで、大変興味深いものとなった。

2、自然スケッチ

昨年度は悪天候より実施できなかったが、無事実施することができた。自然観察ハイキングを行った大厳寺高原にて、自然スケッチを行い、セカンドスクール後、色つけ等を行った。事前にスケッチについて美術科の授業で取り組んだ効果もあり、よい作品ができた。

＜学習体験活動＞

1、田植え体験

初めて田んぼに入る子が多かったため、緊張していた生徒も地域の方にご指導いただきながら、夢中になって田植えを行った。予想以上の泥濘に足をとられ、尻もちをつく生徒もいたが、割り当てられた田んぼ全てに苗を植えることができた。

【田植え】

2、農作業体験

男女別の班を作り、各農家に分かれて農村生活体験を行ったが、それぞれの農家毎に特徴ある農作業体験を行うことができた。山菜採り・野菜の苗の植え付け・育苗箱洗い・田植え・畑の雑草取りなど色々な体験をした。どの班も農家の方との触れ合いの中、非常に貴重な経験をすることができた。

3、林業体験

１人１本ブナの苗を植えるという林業体験であった。山の斜面にスコップで穴を掘るのだが、足場の悪さや硬い土に悪戦苦闘した。作業前には、ブナ林が環境に与える影響などの説明をいただき、自然の厳しさと自然を守るために人ができること、その重要性などを考えることができた。

＜生活体験活動＞

1、伝統料理体験

そば打ち・五目おこわ・こんにゃく（のっぺ汁）・ちまきなどの４種類５会場に分かれ､地域の方にご指導いただきながらの体験であった。実際に山菜採りに行き、採れたての食材で料理する班もあり、充実した体験だった。

【山菜採り】

2、農村生活体験

農作業体験だけでなく、農家の方との触れ合いや自由時間の過ごし方など、豊かな時間を過ごした。

＜地域の人々とのふれあい＞

松之山温泉の地域の方より、温泉熱を活用した地熱発電事業についての話を聞き、CO_2削減など環境問題について考える機会となった。

○生徒の感想

・泥だらけで最初は嫌だったけど、アメンボやカエルなどの生き物にも触れ合えたので良かった。広かった田んぼ全てに植え終わったときはとてもうれしかった。

・農村生活体験では、山菜採りやしいたけ採りをした。どれが山菜なのか戸惑ったけど、アズキナや山アスパラ、ワラビなどたくさんの山菜を自分の手で採ることができうれしかった。また、農家の方が分からないことをいくらでも教えてくれてとても優しさを感じた。別れるときは、本当に感謝の気持ちでいっぱいだった。

・大厳寺高原でのハイキングでは、インストラクターの方が葉笛やいい匂いのする木を教えてくれて楽しかった。ウグイスの鳴き声はけっこう聞こえたけど、アカショウビンの鳴き声は聞こえなくて残念だった。

○保護者の感想

中学校に入って間もなかったが、いい仲間作りのきっかけになった。また、豊かな自然の中、東京ではできない貴重な体験をすることができた。農村生活体験では、お世話になった農家の方に優しく丁寧に接していただいたと聞いている。

○総合的な学習の時間の視点から

本校では、セカンドスクールでの活動を通し社会・自然・環境などとの関わりの中で、これらと共に生きる自分への課題を見つけ、課題を追求する能力を育てている。また、新聞をつかってのプレゼンテーション形式の発表会では、聞き手に興味・関心をもたせ、理解してもらうために新聞に仕掛けを作ったりと、発表方法を工夫した。学習した内容を説明し、それに関する問題を提示し、質問したりすることで、「ことば」による表現活動を活性化し、言語力の向上に取り組んだ。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小中連絡協議会において、小学校のセカンドスクール等の取り組みなど情報交換を行った。震災の影響もあり、小学校の実施場所が変更になった。これによって体験内容が重複する可能性があるため、情報交換を密に行い、検討をする必要性があると感じた。

○次年度に向けての反省・課題

５月の実施であるため、準備時間がほとんどない中で、今年度は武蔵野自然塾の方から多くの情報や知識を学ぶことができ、大変充実したセカンドスクールを行うことができた。また、昨年度の反省で、丈夫なカッパ（使い捨てでない）の持参の徹底をしていたため、雨天時の対応も問題なく行うことができた。地域や農家の方々も大変協力してくださり、今後も連携を大切にしていきたいと感じる。

セカンドスクール

第三中学校　　5月20日～5月24日（4泊5日）

○日程表

５月２０日（金）		５月２１日（土）		５月２２日（日）	
7:40	学校集合・出発式（校庭）	6:30	起床・洗顔・健康チェック	6:30	起床・洗顔・健康チェック
8:00	学校出発（バス）	7:20	朝食準備	7:30	朝食
	調布インター	7:30	朝食	8:30	出発準備
	談合坂ＳＡ・八ヶ岳ＰＡ	8:20	出発準備	8:50	宿舎出発
12:30	春日公園着・昼食（弁当）	8:30	農業体験（３時間）	9:00	バス出発
13:30	上伊那農業高校着		・田植え	10:00	各クラス見学場所着
	体験学習(1 時間 30 分)		・蕎麦種まき	10:10	見学開始（約２時間）
	・生産環境科		（宿舎近辺の田畑）		松本城・開智学校・資料館等
	・園芸学科	12:00	昼食・班写真		を４クラスでローテーション
	・生物工学科	13:30	ジャム作り	12:30	駐車場バス内で昼食・休憩
	・緑地工学科		蕎麦打ち	13:00	駐車場発
15:00	上伊那農業高校発		（３時間）	14:30	エネルギー博物館着（１時間）
16:30	木崎湖着・開校式（公民館）			15:30	エネルギー博物館発
16:45	宿舎へ移動	16:00	宿舎着	16:00	宿舎着
16:55	宿舎着・入室		スタンツ練習（入浴）	17:30	夕食
17:30	夕食	18:00	夕食準備	18:00	スタンツ練習
18:20	稲作講義(１時間)		夕食		入浴（班長優先）
19:30	入浴	19:00	星座観測	19:30	「家族への手紙」書き
20:30	班長会議	20:30	班長会議	20:30	班長会議
21:00	班会議（各民宿）	21:00	班会議（各民宿）	21:00	班会議（各民宿）
21:30	日記・就寝準備	21:30	日記・就寝準備	21:30	日記・就寝準備
22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝	22:00	消灯・就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

班毎にテーマ決めをした後に、図書やパソコン資料などを利用して、調べ学習を実施した。テーマとしては、上伊那農業高校・飯盒炊爨・山菜とトレッキング・稲作・蕎麦・長野の地理・歴史等を調べた。セカンドスクール実行委員や学習係を各クラスより選出し、主体的に学習に取り組むと同時に、班長・学習係が中心となって自律的な班活動が育成されるように指導上工夫した。また、作品の一部は、しおりに掲載してセカンドスクール当日の学習にも生かせるようにした。

長野県大町市

参加人数　男子73名　女子54名
計127名

５月２３日（月）		５月２４日（火）	
6:30	起床・洗顔・健康チェック	6:30	起床・洗顔・健康チェック
7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	宿舎発（バス）	8:00	出発準備
9:00	鹿島川の河原着	8:30	宿の方への挨拶・宿舎前整列出発
	水質調査・岩石調査・植物調査・石器作り	8:40	駐車場到着・現地閉校式
	《移動トイレの設置》	8:50	出発
10:00	飯盒炊爨（昼食）・カレーライス作り	9:50	国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）着
12:00	片づけ・自由時間		（３時間）
13:00	集合・バス乗車		体験学習・館内外見学・昼食をクラスごとに
14:00	大王わさび農場着・見学（１時間）		時間差をつけて実施。
15:00	大王わさび農場発	12:00	昼食
16:00	宿舎着・スタンツ練習	12:50	集合・バス乗車
16:30	入浴（～17:20）	13:00	国営アルプスあづみの公園発
17:30	夕食	13:30	スイス村でお土産購入
18:20	各民宿前集合		スイス村発
18:30	キャンプファイヤー（含、校歌コンクール）		トイレ休憩：八ヶ岳ＳＡ、談合坂ＳＡ
	（於、体育館）	17:00	学校到着・閉校式・解散
21:00	班長会議		
21:30	班会議		
21:45	日記・就寝準備		
22:00	消灯・就寝		

② 事後の学習内容

しおり・各自が現地で集めたパンフレット・インタビュー・写真などを基に、班でテーマを決めて、事後学習・班新聞の形で模造紙にまとめ、発表した。セカンドスクール終了後、初めての期末テストが約１ヶ月後に実施されるため、時間的余裕はあまりなかった。概ねどの班も内容の濃い班新聞を作り上げることができ、くぬぎ祭（三中の文化祭）で全作品を展示した。

事後の理科授業では、現地の山菜であるワラビやゼンマイから「シダ植物のつくり」について、また田植えの稲と関連させて「単子葉植物」の学習につなげた。社会科では、生徒が鹿島川の飯盒炊爨時に作製した打製石器を、歴史授業に利用して縄文時代の学習を深めることに役立てた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、鹿島川での飯盒炊爨

前日（５／２２、日）に引き続いて天候が危ぶまれたが、時程を繰り上げて実施できた。清らかな川の水音を聴きながら、なごやかに班毎ご飯炊きとカレー作りに取り組んだ。食後の自由時間には、河原の石を打ち欠いて打製石器作りを自発的に試みる生徒も多かった。

2、キャンプファイヤー

当日午後から雨天となったため、体育館で実施した。レクリエーション係が運営にあたり、臨機応変に工夫しながら、「スタンツ（学級出し物）」を成功させた。事前から体育授業の中で取り組んでいたフォークダンスで盛り上がった。

＜学習体験活動＞

1、上伊那農業高校での体験学習

第１日目、長野県立上伊那農業高校にて「農業機械に乗ろう」「西洋ナシの摘果」「動物たちとの触れ合い」「人工種子を作ろう」「丸太切り体験」の５コースに分かれて体験学習をした。牛馬・ダチョウ等との触れ合いや、様々な現代農業技術を、驚きや楽しさを感じながら学習できた。

【木崎湖地区での田植え体験】

2、農作業体験

宿舎近辺の田畑で、田植えと蕎麦種まきを体験した。最初は素足で入る田の感触に奇声を上げ、苗の扱いもぎこちなかったが、やがて隣同士で声を掛け合って田植えできるようになっていった。蕎麦の種（実）を初めて手にする生徒も多く、楽しそうに作業することができた。

3、松本城・旧開智学校・資料館・エネルギー博物館見学

第３日目は雨天となり、小熊山トレッキングを中止した。松本城見学時には本格的な降りとなって、日曜日だったことも重なりひどく混雑した。しかし、班行動にもかかわらず、生徒たちは約束の時間どおりにどの班も集合することができ、その自覚的な行動には驚かされた。午後のエネルギー博物館では、プラネタリウムやエネルギー利用に関する展示を興味深く見学していた。

4、大王わさび農場見学

日本最大級のワサビ生産を誇る大王わさび農場の見学を実施し、ワサビの栽培について学んだ。

5、校歌コンクール

キャンプファイヤーの時に、校歌コンクールを体育館で実施。まだ覚えたてではあったが、どのクラスも３部合唱に頑張っていた。この取り組みが、後の「合唱コンクール」や各学校行事での「校歌合唱」に生かされていくものと考える。

6、国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）の体験学習

縄文時代からの歴史をもつこの地で、発掘された「トロトロ（つるつる）石器」のレプリカ作りや、火おこし体験、当時の様子を学ぶ講義など、雄大な自然の中で充実した時を過ごした。

＜生活体験活動＞＜地域の人々とのふれあい＞

1、稲作講義

第１日目の夜に各宿舎で、ＪＡ営農相談員の方々から、長野県の稲作・農民の暮らしについて、講義を受けた。翌日の農業体験と関わらせて、学習効果を一層高めることができた。

2、ジャム作り・蕎麦打ち

地域の方々からの指導を受けながら、地元で栽培されたブルーベリーを使ったジャム作りと蕎麦打ちの作業をすることで、地元の人々の生活の一端に触れることができた。

○生徒の感想

事後学習時に、生徒全員にアンケートを実施した。セカンドスクール全般に対しては、ほとんどの生徒が「充実していた」と評価していた。田植え・飯盒炊爨・キャンプファイヤー・トロトロ石器作りなどを印象に強く残ったものとして答えていた。「自然環境について考えを深め、友達との協力・助け合いの大切さと難しさを学んだ」という記述が、多く見られた。

○保護者の感想

３月の東日本大震災を受けて、今年度の実施に当たっては保護者の間に、実施の可否と震災対策に関する戸惑いが多かった。事前説明会で「生徒の安全確保のための本校・市教委の対応」を説明し、了解を得られた。実施後には、「いろいろな体験・学習をして、また他の小学校出身の人とも親しくなれて、一回り成長したようだ」という声もあり、今後の学校生活に期待したい。

○総合的な学習の時間の視点から

事前学習については例年通り、総合的な学習の時間に、４月下旬から実施した。セカンドスクール実施中は、各体験学習などを「総合的な学習の時間」と位置付けて計18時間をカウントしている。事後学習については、学期末考査までの期間を充当した。

また、理科（植物のつくり）・社会科（打製石器と縄文時代）・音楽（校歌コンクール）・体育（フォークダンス）等、普段の授業との関連に配慮した。

○小学校セカンドスクールとの関連について

本校のセカンドスクールがより一層の教育効果を高めることが出来るように、小学校のセカンドスクールのねらいや内容との検討・摺り合わせが必要と思われる。

○次年度に向けての反省・課題

第３日目（全日）と第４日目（午後）は雨天となったため、雨天日程を実施した。判断に苦慮するような不安定な天候の下であったが、その都度全職員で話し合い、限られた条件の中で最善の内容で実施できた。課題としては①雨天日程での見学時間を、もう少し多くとる。②大王わさび農場を晴天日程にも実施する。③生徒多数が虫に刺されたことへの対策などが挙げられる。

セカンドスクール

第四中学校　　9月27日～10月1日(4泊5日)

○日程表

９月２７日（火）		９月２８日（水）		９月２９日（木）	
7:30	市役所前集合	6:00	起床	6:00	起床
8:00	バス発	6:30	朝食準備		朝食
12:00	昼食（飯田運動公園）	7:30	朝食		農業体験
14:10	うるぎ星の森キャンプ場着	9:00	周辺散策	12:00	お礼の会・昼食
14:40	テント設営	10:30	テント片付け	13:00	稲刈り・はざ架け体験
15:30	夕食準備	12:00	昼食	17:00	ひるがみの森ホテル着
17:00	夕食	12:45	キャンプ場発	18:10	夕食、入浴
19:30	キャンプファイヤー	13:15	売木村役場　対面式	22:00	消灯（ホテル泊）
22:00	消灯（キャンプ場泊）		各農家へ移動		
			農家体験		
			入浴、夕食		
		22:00	消灯（農家泊）		

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・個人新聞（画用紙サイズ）の作成

（内容）１長野県、飯田市周辺（道のり、自然、天竜川と河岸段丘など）

２長野県の歴史・生活・文化（尖石遺跡と縄文文化、中山道と宿場町、方言など）

３長野県の産業・伝統工芸（農業、稲作、産業と名産品、農作物、精密機械工業など）

４長野県の動植物（木、花、野鳥、高度差による植物分布など）

５星座と雲（季節の星座、神話、雲の形やでき方など）

・農家への挨拶状・自己紹介カード作り

・スローガン作り

・生活のきまり作成（服装、持ち物など）

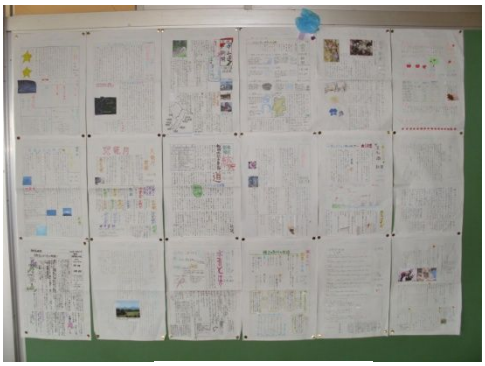
・レクリエーションについての企画・練習

・キャンプファイヤーの出し物の企画・練習

・係会による係活動内容の確認

・稲刈り、はざ架け学習

・テントの設営と片付け講習



【事前学習】

長野県飯田市

参加人数　男子59名　女子52名
計111名

９月３０日（金）		１０月１日（土）	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	宿舎発	8:45	宿舎発
8:40	風越山麓公園着	10:45	尖石縄文考古館着
9:00	登山開始	12:05	尖石縄文考古館発
11:30	虚空蔵山頂　休憩	12:30	昼食（おぎのや諏訪店）
13:00	風越山麓公園着　昼食	13:30	出発
15:50	宿舎着	16:10	市役所駐車場着
17:50	夕食、入浴	16:30	解散
19:00	レクリエーション大会（～20:40）		
22:00	消灯（ホテル泊）		

②　事後の学習内容

・実行委員会作成のアンケートを実施しその結果をまとめた。
・農家体験を班ごとに画用紙にまとめ、班ごとに発表した。
・セカンドスクールでの体験を作文にした。
・お世話になった農家へ、お礼の手紙を書いた。

【事後学習】

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、軽登山

飯田市北西部の郊外にある標高 1130ｍの虚空蔵山（こくうぞうやま）に登った。９時に登り始めて、午後１時に麓に降りてくるという急ぎの行程ではあったが、達成感のある登山だった。途中でトイレがないということで、頂上で過ごす時間を十分にとれなかった。曇天であったこの日の山頂は霧の中で景色が見られず残念であったが、下山直後に雨が降る幸運に恵まれた。１人途中下山した生徒は待機中のバスで休息し回復した。その他の生徒は無事元気に下山できた。

【虚空蔵山登山】

【キャンプファイヤー】

2、星の観察

うるぎ星の森オートキャンプ場でキャンプファイヤーの後、理科の教員が夏と秋の星座を解説し全員で観察した。

【稲刈り・はざ架け体験】

＜学習体験活動＞

1、学年合同農業体験

今年の体験は、稲刈りとはざ架けをした。学校では、事前に稲の束を結ぶ練習をした。前日に、教員は現地の「ネットワーク売木」の方と打ち合わせし、稲刈りとはざ架けの練習をした。当日は、天候に恵まれ、各クラスが１区画（約 700m^2）分の稲を競争のように刈り、４段のはざに稲をすべて架けることができた。そして記念の集合写真を撮った。前年の雨や過去の失敗を生かし、達成感の大きい体験ができた。

【尖石縄文考古館】

2、尖石縄文考古館

最終日、茅野にある尖石縄文考古館の見学をした。社会科で事前学習してあり、当日は２グループに分かれ館内と屋外にある竪穴式住居と尖石遺跡を見学した。

＜生活体験活動＞

1、キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」で行った。自分たちでテントを張り、寝袋で寝て、飯盒炊飯をして食事をつくるという内容だった。好天に恵まれ、昨年できなかったテントの設営と片付けができた。事前にテント１張りをお借りして学校でも練習をしていたが、現地でも係の人の丁寧な説明があり作業がスムースにできた。季節的に寒い時期にあたるので、夜が心配であったが、無事に過ごすことができた。夜には、キャンプファイヤーを行い、学年、学級のつながりを深めることができた。

【キャンプ体験】

【飯ごう炊飯】

＜地域の人々とのふれあい＞

1、農家泊

売木村と阿南町の 27 軒の農家の方々に、２、３日目の１泊でお世話になった。売木村役場に集合して、各農家にわかれた。生徒たちは、地元の農業と農家独特の住まいを体験し、東京にはない地域特有の料理・食物を味わい貴重な経験をした。

【農家泊】

○生徒の感想

・私はセカンドで楽しかったことが３つあります。１つ目はキャンプでのテント生活です。２つ目は農家民泊です。五平餅作りやバーベキューをしました。３つ目は昼神温泉のプールと

レク大会です。今回のセカンドで友達を大切にし、協力することを学びました。

・僕はセカンドでカレーを作ったり農家に泊まったり稲刈りをしたり最終日は尖石縄文考古館に行ったりしたけど、そのような体験をして改めて友達の大切さを味わうことができました。

・セカンドの目的は３つあった。「自然の大切さを学ぶこと。」「長野県の方の生活や考え方を体験すること。」「四中生として協力し絆をふかめること。」たくさんのものが得られました。

・「自然はいいなぁ」橋を渡るとさわやかな風が私達を包み込んだ。見渡す限り黄金色の稲穂が夕日を浴びて輝いている。その美しさに私達は息をのんだ。

○保護者の感想

・帰宅してすぐ５日間の様子を楽しそうに一通り詳しく話してくれました。キャンプ生活を通して普段あまり話をしない友達と話ができてお互いの印象が良くなったそうです。

・テントで友達と過ごしたのが一番楽しかったと言っていました。非日常的な空間が新鮮に感じられたのだと思います。

・全体としてとてもよかったと思いますが農家に滞在したことが一番印象にあったようです。１泊とはいえ、受け入れてくださった農家の皆さんの優しさを感じることができたようです。農業体験も含め、豊かな体験ができたことに感謝しています。

・レク大会がとにかく盛り上がって楽しかったようです。学年全体が一つに団結できたことは今後の活動に於いても積極的にかかわっていくと思います。

○総合的な学習の時間の視点から

１学年の総合的な学習の時間のテーマは「共生」である。自然との共生、他者との共生を考えていくことにしている。特に人との関わりについては、道徳のテーマでもある。

今回の４泊５日の生活を通して、仲間の大切さ、仲間に対する思いやりの大切さ、仲間との団結の大切さを経験するよい機会であった。この体験を今後の学校生活に生かしてほしい。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校、中学校とそれぞれの発達段階に応じて計画をたて実践しているが、体験学習を中心に据えているため、似たような内容になってしまう。今回の稲刈りとはざ架けについても、小学校のときに経験した生徒がいて、その経験を深めスムーズに取り組むことができた。

○次年度に向けての反省・課題

自然の中で生活をしたり農業体験をすることを通して、自然の恩恵を感じたり、仲間と寝食を共にし、仲間への思いやりや協力し合うことの大切さを考えるよい機会になった。その後の事後学習での農家体験のまとめや四中祭の準備活動も積極的に協力して取り組んでいた。

11 年目の売木農家宿泊体験は、今年も村長さんを始め 27 軒の農家が歓待してくれて充実した体験ができた。また、「ネットワーク売木」の指導のもと、稲刈り・はざ架け体験は称賛されるほど熱心に取り組めた。長年のノウハウの積み重ねが生かされていると感じた。

来年以降も、セカンドスクールは売木農業体験を中心に据えていくのがよいと思われる。

セカンドスクール

第五中学校　　5月26日～5月30日（4泊5日）

○日程表

５月２６日（木）		５月２７日（金）		５月２８日（土）	
7:30	校庭集合	6:00	起床	6:00	起床
8:10	出発式	6:30	体操・朝会	6:30	体操・朝会
8:30	バス出発			8:30	農家の方との対面式
		10:00	上高地班行動開始	9:00	安曇野農家体験
12:00	到着後、現地開講式				農作業・昼食・
14:00	農業体験	15:00	上高地班行動終了		夕食作り
		19:00	キャンプファイヤー始		農家の方との懇談
19:00	山葵漬・竹トンボ作り	20:30	キャンプファイアー終		
21:00	実行委員会・班長会	21:00	実行委員会・班長会		
21:30	部屋会議	21:30	部屋会議		
22:00	就寝	22:00	就寝	22：00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・実行委員会を立ち上げ、その下に生活班（宿舎班・農家班兼）や行動班、さらに細分化した係会組織を作り生徒の自主的な活動の推進を図った。「集団生活における生活のきまり」を決め、「バス車内、キャンプファイヤー他でのレクリエーションの企画」を立てるなどを通じて自治活動の基本を体得した。

・東京（武蔵野）から長野県安曇野までの行程や長野県や安曇野の地理（地形）について地図帳を使い概要を学習し、白地図やワークシートにまとめ学習を進めた。

・資料集等を利用して農家体験の予習や事後学習の事後学習の準備として、安曇野地方の自然や産業、特産物について自己学習（調べ学習）を行った。

・手紙文の書き方を学び、民泊先農家に自己紹介を兼ねた挨拶状を送ったり、接遇表現を学ぶ事で社会の一員としての在り方を自覚することを学んだ。

・安曇野の特産であるわさびの特性（腐敗菌や病原菌に対する殺菌作用）について学習し「わさび漬け体験」のための事前学習を行った。

② 事後の学習内容

・学習新聞を作成し、プレゼンテーションを行った。

・民泊農家の方々へのお礼状を書き、事後の親交を深めた。

・近代美術館で鑑賞した作品についてワークシートをもとにレポートにまとめた。

長野県安曇野市

参加人数　男子37名　女子33名
計70名

５月２９日（日）		５月３０日（月）	
5:30	起床	6:00	起床
7:15	農家の方とのお別れ会	6:30	体操・朝会
9:00	ｱﾙﾌﾟｽあずみの公園着	7:30	清掃活動
		9:00	大王わさび園見学
14:00	ｱﾙﾌﾟｽあずみの公園発		
14:30	近代美術館着	11:00	現地閉校式
15:30	近代美術館発		
		16:30	学校到着
21:00	実行委員会・班長会	16:40	解散式
21:30	部屋会議		
22:00	就寝		

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、上高地散策

上高地バスターミナルを起点に、班ごとに事前に計画を立てた散策ルートを５時間半かけて散策した。途中、事前学習した大正池・明神池・河童橋等を実際に見学し、事後学習のための記録写真を撮影した。班長を中心に計時係や学習係・美化係などが役割を果たしながら協力して集団行動する様子は、２年後の修学旅行での班行動の練習ともなった。

今年度は開催中のウォークラリーに自主的に参加し、班の結束を強くすることができた。比較的自然の多い武蔵野でも味わうことのできない大自然の美しい景色を愛でることで豊かな心を育てることができた。

＜学習体験活動＞

1、田植え

主食である米の圃場に苗を植え付ける作業である田植えを行った。多くの生徒は小学校時代バケツ等で稲を育てた経験はあるが、農業で使われる圃場での田植えは初めての経験であった。素足で田圃の中に入ったときには多様な反応を示してはいたが、作業にすぐ慣れて、決められた場所に規則正しく植えることができた。

【田植え体験】

準備されていた圃場への田植えは予定時間の半分位で終えることができた。田植えの終わりには、圃場横の用水で自分の足を洗ったり苗箱を洗浄したりして、農家の方が日常的に行っている作業も体験することができた。

2、ワサビ漬け

【わさび漬け体験】

日頃はお刺身やお寿司を食べるときには練りワサビが使われるが、北アルプスから流れ出た清らかな水が集まる安曇野では、昔からわさびが栽培され、多様な利用法があり、そのひとつにわさび漬けがある。生徒達はわさびについての説明と地元ならではの調理法を聞いた後、グループに分かれて調理を始めた。根（地元では芋と呼ぶ）の部分を細かく千切りまたは微塵切りにしたものに砂糖を入れ、撹拌した酒粕の中に漬け込む作業は順調に進んだ。家事の手伝いをしている生徒は、手際がよく短時間で一連の作業を終えていた。

3、竹とんぼ作り

【竹とんぼ作り】

鋸や小刀を使う家庭は減り続け、細かい作業が苦手な現代っ子が工作の難しい竹を使って作る竹とんぼ。「竹とんぼ」そのものに触れたことのある生徒は少なく、当初はたどたどしく製作に取り組んでいたが、完成の見通しが立ってくると、それぞれが理想の仰角を作り出すために真剣に小刀を動かした。出来上がると、軸に回転を与え、「力作」を空中に舞い上げた。歓声をあげながら「とんぼ」を追いかける姿は日常生活ではなかなか見られないものであり、また物作りの基本を実地に体験したことは、今後の学習活動にも有効と考えられる。

4、クラフト体験（キーホルダ作り）

【キーホルダー作り】

悪天候で光城山長峰山ハイキング（自然体験）が実施出来ず、アルプス安曇野公園内で各種活動のひとつとして、クラフト体験で木製キーホルダーを作成した。数種類の紙やすりで順番に木の表面や角を忍耐強く研磨して樹の持つ独特の光沢を引き出すのに一生懸命取り組んでいた。

＜生活体験活動＞

1、集団宿泊体験

学校での生活も集団生活だが、食事や入浴など、寝食を共にする宿泊体験は、健全な社会人として成長するプロセスとして欠かすことができない。お互いに快適に生活するにはどうすべきか、みんなが気持ち良く活動するには何が必要なのか等、それぞれが考え語り合う中で、生徒は徐々に社会性を身につけ、そして、他者に気を配り、思いを共有しながら人との関わりを学ぶ。食事などのマナー、人と接するときの礼儀、公衆道徳など、実地に体験しながら学ぶ機会は、学校生活の中でも限られた意義深いものであると実感できる。

2、安曇野民泊生活体験

農家での勤労体験は体力とともに五感を使い、そこで先人の知恵や知識を学ぶことができる。事前の学習での疑問を農家の方に質問することも、堅実で豊かな心身の成長の一助となる。
りんごの摘果、種蒔き、野菜苗の定植、野菜の誘引、蕎麦打ちなど自分たちの食事作りと、今後の人生の中でも経験できない貴重な体験を通じて、人と触れ合うことの大切さにも気づくことができた。農家の方々とのお別れ会で流した涙が、それらを裏付けている。

○生徒・保護者の感想

生徒は、一様に「友人関係の深まりと、農家の方々の有り余るほどの優しさを感じた」と感想を述べている。また、学期末の保護者会では、「子どもが一回り大人になった気がする。子どもとの会話が弾んだ。農家の方々の温かい心遣いに感謝する。」といった声が多く聞かれた。

○総合的な学習の時間の視点から

１・２学期の総合的な学習の時間の活動の柱をセカンドスクールに置いている。各自が安曇野に関係する課題を設定し、調べ学習を行い、紙面にまとめ人前で提示発表を行うなど、教科横断的な活動を通して、実生活に直結した取り組みを行うことができたと思われる。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のセカンドスクールとは活動内容が重なるところがあるが、発達段階の違いがあり、あえて重複を避ける必要性は感じない。実施時期についての重なりを考慮することで、多様な活動が期待できると考える。

○次年度に向けての反省

１学期実施では播種や苗の定植といった体験が主になり収穫の様子を間接的にでも観察できると栽培の流れを学習することが期待できるので、次年度は、現地の事情を考慮しながら有意義な活動を計画したい。

セカンドスクール

第六中学校　　9月7日～9月11日（4泊5日）

○日程表

９月７日（水）		９月８日（木）		９月９日（金）	
7:30	二小前しろがね公園集合	6:30	起床	6:30	起床
7:40	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
		8:40	出発	8:15	出発
11:00	宿舎到着　開校式	9:00	稲刈り体験	10:20	上高地ハイキング
11:30	昼食			11:15	河童橋　休憩
12:00	オリエンテーリング	12:30	昼食	12:10	明神橋　昼食
		14:00	わさび掘り、わさび漬け	15:00	上高地バスターミナル出発
19:00	夕食			17:20	宿舎到着
20:00	農作業体験講義	17:30	夕食	19:00	夕食
21:30	部屋班・行動班係会議	18:20	キャンプファイヤー	21:30	部屋班・行動班係会議
22:30	消灯	21:30	部屋班・行動班係会議	22:30	消灯
		22:30	消灯		

○セカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

- 実行委員会組織作り
- 教員による概要説明
  目標、スローガン、日程、毎日のテーマ
  安曇野市、農作業体験、上高地、民泊について
- 決まりの討議、決定
- 部屋班、行動班、民泊班、バス座席決定
- 係会議
- 民泊先農家の方々へ自己紹介カード作り
- 長野県、安曇野市、上高地の「地域･自然･産業」について調べ学習

②　事後の学習内容

- 反省アンケートの実施・集計、実行委員会による学年集会での総括
- 感想文を書く
- 民泊農家の方々への礼状を作成

長野県安曇野市

参加人数　男子53名　女子31名
計84名

９月１０日（土）		９月１１日（日）	
6:30	起床	8:00	集合
7:00	朝食		閉校式
9:00	民泊対面式	8:30	朝食
9:30	各農家へ	9:00	出発
10:00	安曇野生活体験	10:20	クラフト体験　あずみの公園
11:30	昼食作り	12:00	昼食
14:00	安曇野生活体験	12:30	あずみの公園出発
17:30	夕食作り	19:00	二小前しろがね公園到着
19:00	民泊先の方々と交流		※事故渋滞のため到着時間が遅れる
22:30	民泊		当初予定は１７：００.

・ 民泊新聞作成と体験発表（民泊で学習したこと、体験したことを民泊班ごとに新聞にまとめ、３月の学習発表会でお世話になった宿舎・農家を招待し、民泊体験発表を行う。）
・ 調べ学習個人レポート作成（セカンドスクールでの体験を通して、「地域・自然・産業」について各自でテーマを設定し、調べ学習・レポートにまとめ・発表をする。）

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、上高地ハイキング

大正池から班ごとに行動し、河童橋からは右岸コースと左岸コースに分かれて明神橋まで移動した。これまでの遠足での班行動などを生かして、どの班も概ね時間を守って、明神橋まで辿り着くことができた。明神橋での昼食後、往路とは反対のコースを通って、河童橋まで戻った。班長を中心に各個人の役割を意識しながら行動することができていた。小雨が降るなかであったが、普段味わえない美しい景色や、猿との出会いなど、多くの生徒が大自然の壮大さに感動を覚えた。

【ハイキングで出会った猿】

＜学習体験活動＞

１、農作業体験講義

１日目の夜に、ＪＡあずみの職員の方、わさび農家の方を直接招き、翌日の体験学習である稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義をしていただいた。稲作に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具などＪＡが製作したパンフレットをもとに詳しく説明していただいた。わさびに関する講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、簡潔にわかりやすく説明していただいた。

どの生徒もメモを取りながら、興味深く真剣に講義を聴いていた。多数の質問も出て、積極的に学習する姿が見られた。今まで知らなかった農作業の内容を理解した上で、２日目の体験活動に臨めるため、農業・作物に対しての意識が変わった生徒が多くいたようである。

２、稲刈り体験

宿舎から歩いて５分程度の田んぼへ行き、開校式の後、生徒は５ペア、９グループに分かれ、それぞれのグループに地元農家の方１、２名が指導にあたり、鎌の使い方・稲の刈り方・束ね方などの指導を受けた。刈っていくごとにコツを掴み、生徒たちは刈り・束ねを積極的に行っていた。担当区域の稲をどのグループも協力しながら刈ることができた。最後に束ねた稲をコンバインに運び、落ち穂拾いを行った。

生徒たちは一生懸命稲刈りに取り組むことによって、作物をつくるには大変な苦労と根気のいる作業が必要であるということを肌で実感し、改めて、農家の方の大変さを感じたようである。体験中には蛙やトンボ、バッタなどの虫も多く現れ、無邪気に遊ぶ生徒も多く、自然の生き物に触れる良い機会でもあった。

【稲刈り体験】

３、わさび掘り・わさび漬け体験

クラスごとでわさび掘り・わさび漬けの体験を行った。生徒は裸足でわさび田に入り、想像以上の湧き水の冷たさに声を上げながら、湧き水の綺麗さにも驚いていた。初めて見る生わさびにみな興味を抱き、わさび農家の大変さを実感できるプログラムであった。

【わさび掘り体験】

わさび漬け体験は、わさび漬け自体初めて知ったという生徒も多かったが、自分の手で特産品を作るということで、完成を楽しみに活動していた。地域の特産品であるわさびを使い、加工品を作ったことで、地域産業に触れる良い体験となった。

４、クラフト体験

国営アルプスあずみの公園でクラフト体験として「とろとろ石器づくり」を行う。１テーブル４～５人に分かれ、蝋石に自分でデザインをして、その形に削り、ペンダントにするという活動であった。数名の指導員が各テーブルで糸鋸やヤスリの使い方を丁寧に教えてくださったため、生徒たちも戸惑うことなく作業をすることができた。１時間 30 分のプログラムを、それでも時間が足りないほど集中して取り組んだ。また完成した作品を、身につけている生徒も多く、自分なりの作品を作りあげ、達成感を感じることのできるプログラムであった。

＜生活体験活動＞

1、民泊・安曇野生活体験

１班４～６人程度で 18 軒の受け入れ先にご協力いただいた。セカンドスクールでの一番のプログラムに、多くの生徒が民泊を楽しみにしていた。民泊先では野菜の収穫・芋掘り・お饅頭作り・米袋のラベル貼りやスタンプ押しなど、多岐にわたる体験活動を行うことができた。１泊だけではあるが、生徒たちに家族の一員として接してくださり、生徒たちもその気持ちを深く受け止めていた。「新しい家族ができた」と喜ぶ生徒も多く、生活体験だけでなく、人とのふれあいという点でも大変有意義な体験である。

○生徒・保護者の感想

・わさび田の水が冷たくて驚いた。わさびを始めてかじり、貴重な経験になった。
・民泊先で普段経験できないことをさせてもらったり、とても優しく接してもらいうれしかった。
・上高地では、雨が降ったけれど、すごくきれいで自然を味わった。
・帰宅後５日間の生活を楽しそうに話してくれました。貴重の体験だったようです。

○総合的な学習の時間の視点から

年間計画の中で、セカンドスクールへの取り組みを中心に位置づけている。１学期は、長野県、安曇野市、上高地の「地域・自然・産業」について調べ学習を行った。２学期はセカンドスクールでの体験を基に地域は限定せずに範囲を広げ、各自でテーマを設定し、個人レポートにまとめる。また、民泊での体験を民泊班ごとに新聞の記事づくりを行い、３学期に新聞づくり、学習発表会で発表会を行う。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校での経験もあり、地域の中に自然と入ることができている。体験内容では小学校と重複する内容もあるが、体験しているからこそ、理解が深まり中学生として感じることがあると考える。しかし、他にも適した体験活動がないか検討していくことは大切である。

○次年度に向けての反省・課題

セカンド全体のテーマ与えることは、生徒への動機づけ・意識づけという点で効果的である。次年度からは教科との関わりを持たせながら、学習を深める活動としたい。特に上高地での班行動では自然観察などの時間確保が望ましい。「クラフト体験」はとても有意義な活動になった。今年度は、計画通りに進んだが、雨天プログラムの充実が課題となる。

プレセカンドスクール

プレセカンドスクール

第一小学校　　9月20日～9月22日（2泊3日）

○日程表

９月２０日（火）		９月２１日（水）		９月２２日（木）	
8:00	出発式	6:30	起床	6:30	起床
	五日市街道	7:00	朝の会	7:00	朝の会
	秋留台公園で休憩	7:40	朝食準備・朝食	7:40	朝食
10:30	フォレストコテージ着	8:30	三頭山荘発	9:00	閉校式
	林業体験学習	9:30	都民の森ハイキング	9:40	こんにゃく工場見学
	森を守るお話	12:00	昼食		シクラメンハウス見学
12:30	昼食	12:40	木工作	11:40	角屋商店見学
13:00	水生昆虫観察	15:00	都民の森発	12:00	郷土資料館見学
	野村材木店見学	15:30	三頭山荘着	13:00	昼食（檜原小学校屋上）
15:30	三頭山荘着	16:30	入浴	14:00	バス乗車
	開校式	18:00	夕食	14:30	秋留台公園で休憩
16:30	入浴	20:00	就寝準備	15:30	学校着・帰校式
18:00	夕食		健康観察・学習の記録		
19:00	手紙書き				
20:00	就寝準備・健康観察	21:00	消灯		
	学習の記録				
21:00	消灯				

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・プレセカンドスクールのガイダンスとして、初めての集団宿泊体験に向けて児童にねらいを設定させた。ただの宿泊体験ではなく、学習としても取り組むよう全体で指導をした。また、宿での生活に必要な係を決め、児童が自主的に行動できるよう仕事や役割を考えさせる場を設定した。

・３学期に行う予定の社会科「私たちの東京都」の単元を入れ替え２学期に行い、事前に檜原村の学習を行なった。檜原村の産業、交通、観光などの学習に取り組むことで実際にプレセカンドスクールで行う体験活動に興味関心をもたせた。副読本に出てくる場所を自分の目で確かめたいと思う児童が多かった。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数　男子32名　女子34名
計66名

②　事後の学習内容

けやきの時間（総合的な学習の時間）に児童がプレセカンドスクールで行なった体験活動をもとに課題を話し合い、自分の選んだ課題に沿って学習内容を深めた。今回は「林業」「産業」「観光」「自然」「歴史」「生活」の６つのグループに分かれ、檜原村のそれぞれの課題について調べ学習を行なった。児童は体験活動をもとに、本やインターネットを活用し調べ、自分たちが経験して感じたことや、考えたこと、学習したことをまとめていった。まとめた内容を、ポスターセッション形式で学校公開の場で発表し、保護者や地域の方に学習内容を伝えた。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、林業家田中さんのお話

【林業について話を聞きました】

１日目はあいにくの雨だったため、林業体験はできなかったが、林業家の田中さんから日本の林業についてのお話を聞かせていただいた。木材が今ではほとんど外国産の安い木材を輸入していることや、森林を守るために人々が様々な努力をしていることなど、林業の重要性について考えることができた。また、木を切るために必要な道具を紹介していただいたり、たくさんの葉っぱの特徴や木の種類について教えていただいたりした。児童は林業の大切さ、自然の大切さについて気付くことができた。

2、水生昆虫観察

雨が一時的に上がったため、水生昆虫観察を行うことができた。はじめに講師の大村先生から、檜原村の水辺に住む生き物について詳しく教えていただいた。珍しい水生昆虫に児童は興味をもっていた。その後水辺に入り昆虫を探した。児童は水生昆虫探しに夢中になって取り組み、サワガニやカワゲラなどの昆虫を見つけることができた。また、たくさんの種類の水生昆虫を捕まえておいてくださり、様々な種類の昆虫を知ることができた。児童はめったにできない体験に大喜びだった。

【水生昆虫をみんなで探しました】

＜学習体験活動＞

1、こんにゃく工場見学

檜原村の産業の代表的なものとして生の練り芋から作られるこんにゃくがある。児童はこんにゃく工場を見学し、こんにゃくの作り方を知ることができた。なぜ檜原村でこんにゃくを作っているのか、生の芋で作られたこんにゃくの特徴について児童は興味をもって話を聞いていた。また、刺身こんにゃくを試食させていただき、美味しそうに食べていた。

【こんにゃくを作っている所を見学】

2、シクラメンハウス見学

檜原村の産業のもう１つにシクラメンの栽培があるが、シクラメンハウスの見学を行なった。きれいに咲いているシクラメンを観察し、檜原村の環境がシクラメンの栽培に適していることや、全国各地にシクラメンが送られていることなどを学ぶことができた。

【シクラメンをじっくり観察】

3、角屋商店見学

社会の学習で、「檜原村の人たちは、食品や日用品をどうやって集めているのだろう。」という児童の疑問から、檜原村にある商店についての学習を行なった。実際にどんなものが売っているのか、商店の様子についてなどを見学し、店の雰囲気や品物を見ることができた。檜原村の人々の生活の様子について理解することができた。

○児童の感想

・私は、林業家の田中さんに話を聞きました。最近の木はほとんど外国から届くと聞いてびっくりしました。水生昆虫観察では、カワゲラという昆虫を見つけました。捕まえた時はとてもうれしかったです。
・都民の森ではキーホルダー作りをしました。初めて使う電動のこぎりは難しかったけれど、以外とうまくできました。とてもうれしかったです。
・３日目にバスで井上こんにゃく店に見学に行きました。さしみこんにゃくを試食させてもらいました。とても美味しかったです。
・プレセカンドスクールでたくさんの経験ができてうれしかったです。また檜原村に行きたいと思いました。

○保護者の感想

・プレセカンドスクールでは、木工作が上手にできたので子どもはとても喜んでいました。準

備の段階から１人ですべて行い、自分のことは自分でやるという習慣がついたように思います。台風が来て、無事に帰ってこられるか心配でしたが、全員無事に帰ってくることができてよかったと思いました。

・自分の子は班長としてプレセカンドスクールに参加し、今までとは違う緊張感を持って参加することができました。友達と過ごした３日間は良い思い出になったようでした。友達と協力して生活することを学び、家でお手伝いなどしてくれるようになりました。貴重な体験ができとてもよかったと思いました。

・プレセカンドスクール発表会では、各グループが工夫して発表しているように感じました。グループによって説明をする内容が違って楽しんで聞くことができました。

○総合的な学習の時間の視点から

事前に社会科の学習で檜原村の産業、交通、観光などの学習を進めていたことで課題別学習や総合の学習につなげることができた。児童が興味をもった課題を調べ、まとめ、発表する学習がスムーズに行うことができた。また情報収集には、インターネットや武蔵野市立図書館からの図書の団体貸し出しを利用して、幅広く調べることができた。

○セカンドスクールとの関連について

・セカンドスクールでは民宿に分泊する形をとっているので、初めての宿泊行事は共同の施設に泊まり、生活でのルールを守って友だちと協力して生活をする経験が必要である。セカンドスクールに向けて基礎的な集団生活を学び、セカンドスクールにつなげていきたい。

・今年度は、山での活動を行い、セカンドスクールで行うカントリーウォーク等の自然体験に関連した学習を取り入れることができた。林業についてもセカンドスクールの活動の基礎段階として取り入れることができたため、より発展的な学習がセカンドスクールでも見込まれる。

○次年度に向けての反省・課題

・今年度は震災の影響があり、実施場所を変更して計画をしたため、準備期間が短かったが、現地と綿密に連絡を取り合い、実地踏査を入念に行うなどプログラムの構成を工夫し、様々な活動を取り入れることができた。今年度の実績やノウハウを今後の活動に生かしていきたい。

・今年度は台風が近づき、２日間は雨になってしまった。雨の場合、周遊道路が通行止めになってしまい活動が制限される場合もあり、雨のプログラムの充実が必要になる。ハイキングや林業体験、水生昆虫観察など自然体験活動が多いため、雨天時の活動をどのように設定していくかは大きな課題である。

・今回、帰校の際に交通渋滞に巻き込まれ、学校に到着した時間が大幅に遅れてしまった。交通渋滞の状況を考慮し、時間配分を考えることや、高速道路を活用する方法を取り入れるなど改善が必要であると感じた。あわせて、保護者に対して帰校時刻の情報をホームページに掲載するなどの伝達手段を整える必要があり、現在、教育委員会と連携し、トップページでの簡易更新を試行中である。

プレセカンドスクール

第二小学校　　10月12日～10月14日(2泊3日)

○日程表

１０月１３日（水）		１０月１４日（木）		１０月１５日（金）	
8:00	出発式	6:00	起床	6:00	起床
10:15	富士ビジターセンター（着）	6:30	朝会・体操	6:30	朝会・体操
	昼食	7:00	朝食	7:30	朝食
12:45	河口湖フィールドセンター	9:00	富岳風穴	9:00	閉校式
15:30	開校式、避難訓練	9:40	樹海ハイキング	10:30	勝沼ぶどう畑農業体験
16:30	入浴	11:45	野鳥の森公園	12:30	昼食
18:00	夕食	12:00	西湖公民館	15:30	学校着、解散式
19:30	星空観察		（ほうとう作り体験）		
21:00	就寝	14:45	八木崎公園(河口湖岸散策)		
		16:30	入浴		
		18:00	夕食		
		19:30	ナイトウォーク		
		21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・９月のはじめに、総合的な学習の時間を使って山梨県の位置や地理的な特徴、産業について事前学習を行った。自然・文化・産業の観点から山梨県について調べ、自分たちで学習課題を見つける活動を通してプレセカンドスクールに向けての学習意欲が高まった。

・山梨県勝沼町の地理的な特徴である扇状地を砂場で再現し、学習前の扇状地という地理的特徴について、体験的な活動から理解を進めた。

・自然・文化・産業の観点から子供たちが見つけた学習課題(富士山・富士山の生き物・河口湖・溶岩・ぶどう・ほうとう・風穴)ごとにグループを編制し、調べてみたいことや疑問に思ったことなどをもとに、グループに分かれて調べ学習を進めた。総合的な学習の時間を使って各活動についての新聞づくりを行い、クラス内で他の学習グループに向けて新聞の発表会を行った。

・生活班の中で、班長、副班長、入浴・生活係、レク係、食事係、保健係の役割分担をし、係ごとに集まって仕事の内容確認や計画を進めた。また、係が責任をもって活動できる場を設定するために、式や会、食事の際には全体の前で発言をする機会を多く作り、事前に練習を行った。

山梨県河口湖町

参加人数　男子57名　女子25名
計82名

②　事後の学習内容

・プレセカンドスクールでの活動メモや日記をもとに、国語の時間に作文にまとめた。特に心に残ったこととその理由を中心に、はじめ・中・おわりを意識して作文を構成させた。
・３年生にプレセカンドスクールについて紹介する発表会を行った。発表内容は、事前学習で調べたことや、実際に体験したり聞いたりして分かったことを新聞や紙芝居等でまとめたものである。３年生に伝わるように内容や発表方法を推敲しながら、グループの友達と協力して準備を進めた。
・事前学習から事後学習まで、全体を通して自己を振り返り、自分の成長した点を見つけ、友達のよさや学年全体の連帯感にも気付き、今後の生活に生かしていこうとする意欲を高めた。

○特色ある活動内容

【河口湖フィールドセンター】

＜自然体験活動＞

1、河口湖フィールドセンター

富士山の樹海をガイドさんの話を聞きながら散策した。富士の植物や生き物の話を聞くだけでなく、実際に溶岩樹型の中に入りながらの散策は、より富士の自然の雄大さを感じるものとなり、富士の自然、そして溶岩樹型への理解を深めた。

2、星空観察

理科で行った星や星座早見盤の学習を実際の星空のもとで行うことで、体験的な学習を行うことが出来た。また、満月を見ることができ、プレセカンドスクール後の月の学習への意欲も高まった。

【風穴見学】

3、風穴見学

溶岩洞窟である富岳風穴では、外と中との温度差を体感した。１年中氷が溶けないことや、その条件を生かして昔は冷蔵庫として使用されていたことを知り、富士の自然と人々の生活との結びつきについて知った。

4、樹海ハイキング(風穴～野鳥の森公園)

前日に富士ビジターセンターや河口湖フィールドセンターで学習したことを自分たちで発見しながら、ハイキングを楽しんだ。溶岩の流れを感じる部分が多々あり、子供たちからは驚きの声があがっていた。自分たちの目で改めて発見したことを、自らメモにまとめる姿が見られ、前日の学習を生かして意欲的に活動していた。

＜学習体験活動＞

1、富士ビジターセンター

富士山が今の形となるまでの歴史を映画で見たり、富士ビジターセンターの方からスライドを使ってお話を伺ったりして、富士山への理解を深めた。また、館内のクイズラリーを行い、楽しみながら学習を行うことができた。

【富士ビジターセンター】

＜生活体験活動＞

1、ほうとう作り体験

地元の方に教えていただきながら、山梨の食文化の一つであるほうとう作り体験を行った。地元の人とふれあいながら、友達と協力してほうとうを作る体験は子供たちにとってかけがえのない体験となった。ほうとうを食べた子供たちからは「今まで食べたものの中で一番おいしい‼」「この味は一生忘れない‼」といった感動の言葉が聞こえた。

【ほうとう作り体験】

2、ぶどう畑農業体験

地元のぶどう畑の方から、ぶどう作りに対する思いや工夫、ぶどうのおいしさと地理的な特徴のかかわり等のお話を伺った。実際に、ぶどうの収穫を行い、急斜面での作業の大変さを体験した。また休耕田を利用した、牛の飼育の取り組みについても知り、休耕田の手入れの農業体験を行った。

【ぶどう畑農業体験】

○児童の感想

・ほうとうは、山梨の食文化で有名だと知っていたけど食べたことも作ったこともなかったから楽しみでした。みんなで協力して粉を混ぜるところが難しかったけど、この時間がすごく楽しくてみんなと協力できて成長したと思いました。

・風穴は、ものすごく寒くて、とてもゴツゴツしていてスリルがありました。外はあまり寒くなかったけど、階段を降りたら息が白くなるほどさむくなっていったのでびっくりしました。

・プレセカンドスクールで、自分のことは自分でやることが自分のめあてでしたが、頑張って自分のことが自分で出来たのでよかったです。

・ぼくは、プレセカンドスクールで５分前行動が出来るようになりました。来年のセカンドスクールでも５分前行動をやっていきたいです。

○保護者の感想

・初めての宿泊体験で、私も本人も心配がありましたが、帰ってきた時の笑顔を見て安心しましました。家では、楽しかった出来事をたくさん話してくれました。
・プレセカンドスクールから帰って来た後は、家でも自分のことは自分でしようとする意識が見られ、プレセカンドスクールでの成長を実感しました。
・発表会では、自分たちの課題についてまとめていました。発表の仕方も工夫されていて、とても分かりやすかったです。３年生の前でハキハキと発表する姿を見て、大きな成長を感じました。

○総合的な学習の時間の視点から

２学期になって山梨の自然や文化、産業など学習内容ごとにグループを作った。担当した学習内容について事前に調べ、事後では発表会に向けた新聞作り、発表練習というまとめの学習に取り組んだ。自分たちで課題を設定し、その課題を追求して、まとめる活動をとおして課題解決力、表現力が高まった。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールで必要な基本的生活習慣・公共性・規律・集団行動のルール・マナーなど、親元から離れ、自ら行動できる素地をプレセカンドスクールにおいて養う。

○次年度に向けての反省・課題

＜良かった点＞
・ホテル到着後の予定は、４年生の発達段階を考慮して、ゆとりをもって設定した。また、夕食前に入浴をしたことでその後の時間にゆとりができ、星空観察やナイトウォークを行うことができた。
・樹海ハイキングでは、風穴から野鳥の森公園に向かうコースを選択したことで、到着したクラスから写真撮影をしたり、ゆとりをもって休憩をとったりすることができた。また、コースの道も風穴から野鳥の森公園へ向かう方が、分かりやすく安全だと感じた。

＜課題点＞
・ホテルでは、児童が集まって活動できる場の確保ができないため、雨天時に宿舎内で行うプログラムが限られてしまう。雨天時のプログラムに幅が広がるよう検討が必要である。
・今回、ぶどう畑で行った休耕田の活動は、収穫活動に比べ農業を体験したという児童の実感が少なかった。今後、先方と打ち合わせをより密にして、価値のある活動に結び付くよう他のプログラムの中から検討する必要がある。

プレセカンドスクール

第三小学校　　6月1日～6月3日（2泊3日）

○日程表

６月１日（水）		６月２日（木）		６月３日（金）	
8:00	学校集合・出発式	6:00	起床・おにぎり作り	6:00	起床・検温
11:15	上越国際観光協会到着 開校式	9:00	朝の会（観光協会前） 上越国際スキー場トレッキング	9:00	農業体験
12:30	昼食（各民宿）	10:30	出発 十日町展望台到着	11:00	民宿の方と昼食作り
14:00	田植え体験	14:00	昼食 塩沢つむぎ機織り体験	13:00	観光協会前集合 閉校式
20:00	交流会準備	17:30	牧之記念館・雁木通り散策		
21:30	就寝	20:00	ぬか釜体験	16:30	学校到着・帰校式
		21:30	民宿の方との交流会 就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・学校での初めての宿泊体験ということもあり、イメージがつかめずに不安に思っている児童も多かった。そのため、最初に児童に対してのオリエンテーションを行った。昨年度を参考に、宿泊体験のめあて、どこに行くのか、何をするのか、宿での生活はどのような感じなのかなどを説明したり、様々な質問に答えたりした。３日間のイメージが具体的にわいてきたのか、「早く行きたい。」と楽しみにするようになった。

・総合的な学習の時間では、各自でテーマを決め、調べたことをポスターにまとめるという活動を行った。テーマを決める前に、昨年度の活動の様子や、実踏で撮ってきた写真を見せながら簡単に説明した。「これは何だと思う。」「なぜこうなっているのだと思う。」と問いかけていく中で、子どもたち自身に疑問をもたせ、調べたいテーマを決めさせた。子どもたちから出たテーマは、南魚沼市の気候、雪国のくらしの様子、南魚沼の自然、特産物、コシヒカリのおいしさの秘密などであった。そして、それぞれのテーマに沿ってインターネットや、図書室の資料などを利用して調べ学習を行った。使用した資料や、それをまとめるメモは１冊の資料集としてまとめ、いつでも見られるようにし、工夫してポスターにまとめることができた。

・班ごとに役割分担を決め、係で打ち合わせを行った。班長は班長同士、どのように班をまとめていくかを相談するなど、それぞれに自分の役割について考え、進んで準備をすることができた。なかには、独自のチェック表（整理整頓や検温など）や注意事項を書いたポスターを作成する子もおり、自分たちで声を掛け合い成功させようという意識をもたせることができた。

新潟県南魚沼市樺野沢

参加人数　男子41名　女子34名
計75名

②　事後の学習内容

・プレセカンドスクールの体験の中でもっとも印象に残ったことをふりかえり、新聞や発表の資料にするために、プレセカンドスクールで学んだことを作文にまとめた。

・「プレセカンドスクールを３年生に伝えよう」という活動を総合的な学習の時間に毎年行っている。南魚沼の自然や気候、豪雪地帯の生活の工夫、八海山の自然、コシヒカリのおいしさのひみつ、などを伝えるグループに分かれ、模造紙にまとめたり、紙芝居にしたり、劇を演じたりしながら、グループごとに発表する予定である。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、上越国際スキー場トレッキング

２日目に、上越国際スキー場でのトレッキングを行った。まずは、ゲレンデをマイクロバスで上がっていく。まだ少し雪が残っているところがあり、東京との気候の違いに子どもたちも驚いていた。

【展望台からの景色】

トレッキングでは、宿のお父さんたちが一緒に歩いてくれ、子どもたちも時折足をとめながら、道端に咲く花や、木など南魚沼の自然について解説を聞くことができた。特に、ヒメダケが生えているのに気がつくと「あ、これ夕食で食べた。」「昨日、宿で皮むきのお手伝いをしたんだよ。」と嬉しそうに話していた。また、途中にあった沼にはオオサンショウウオの卵が産みつけられていて、その大きくて白い卵に子どもたちも興味津々の様子であった。ゴールである十日町展望台から見える景色はすばらしく、思わず全員で「やっほー。」と叫んでしまうほどであった。ちょうど前日に田植えをした田んぼも見渡すことができた。

＜学習体験活動＞

1、田植え

１日目の昼から、民宿の方を招き、民宿近くの田んぼで田植えを行った。初めは「気持ち悪い。」となかなか素足で田んぼの中に入ることができなかった子どもたちも、慣れてくると、楽しんで田植えに取り組み始めた。民宿の方々に教えてもらったように、腰をおとし、３本ずつまっすぐ丁寧に植えることができた。地元の方から、「隣の中学生が植えた田んぼより上手だ。」と褒められ、子どもたちも嬉しそうだった。実際にやってみるとその難しさや、大変さがわかり、自分たちが食べているお米がこれだけの苦労をして作られていることに気がつくことができた。

2、塩沢つむぎ機織り体験

２日目のトレッキング後に、塩沢つむぎ記念館を訪れた。そこで越後地方に伝統的に伝わる塩沢つむぎについての説明を聞き、その後、１人ずつ自分の好きな色の糸を選び、機織り体験を行った。

【機織り体験】

係の方は、リズムよくスムーズに織っていくのだが、いざ機織り機に座り、同じように織ろうとしても手と足のタイミングの取り方が難しく、戸惑っている子も多かった。中には、すぐにコツをつかみ、どんどん織っていく子もおり驚いた。互いに教え合いながら、１人３㎝のしおりを約 15 分かけて織ることができた。

今回初めて機織り体験をした子たちがほとんどだったが、全員最後まであきらめずにしおりを織りあげることができた。出来上がったしおりは後日子どもたちに届けられた。一人一人使った糸の色が違うので、それぞれ違った味わいの素敵なしおりになっていた。

3、農業体験

【農業体験の様子】

３日目は、午前中は宿ごとに、野菜の苗植えや、草取り、コシヒカリの苗箱洗いなど、南魚沼の地元の方が普段行っている農作業を体験する活動を行った。

普段食べている野菜などがどのように栽培されているのかを実際に見ることができ、子どもたちも興味津々だった。中には、鍬や耕耘機を使わせてくださる宿もあり、初めての体験に緊張しながら取り組んでいた。収穫には立ち会うことができないが、「おいしく育つといいね。」と宿の方と話しながら、暑い中でも一生懸命活動することができた。

＜地域の人々とのふれあい活動＞

1、民宿の方との交流会

２日目の夜に、子どもたち主催の交流会を行った。事前に学校で宿の方々とどのようなことをしたいか話し合い、プログラム決めや準備はしていった。しかし、実際に宿の方と交流していくうちに「さらに工夫したい。」「感謝を伝えたい。」と感じたようで、時間ぎりぎりまで進んで準備をしていた。飾りを作って飾らせてもらったり、折り紙のプレゼントを宿の方に内緒で準備したりするなど、各班で工夫が凝らされていた。

実際の交流会では、宿の方と一緒にゲームをしたり、歌を歌ったり、プレゼントを渡したりなど、それぞれ楽しく充実した会を行うことができた。３日間という短い間だったが、子どもたちなりに感謝の気持ちをもつことができたようで、会の最後にはしっかりと自分の感謝の思いを伝えることができていた。宿の方も大変喜んでくれていた。

○児童の感想

・初めて民宿に行った時、民宿のお母さんが「血はつながっていないけれど家族だよ。」と言ってくれました。やさしく自分を受け入れてくれるのだと改めて思いました。帰りのバスに乗るとき、新潟の家族と離れるのが辛かったです。
・プレセカンドスクールでは、みんなと力を合わせることで、おいしいカレーが作れたり、一人ではできない体験をしたりすることができました。プレセカンドスクールを通してみんなで協力することが大切なんだなぁと思いました。
・わたしは「雪国のすごさ」を学ぶことができました。東京ではそんなに積もらないので大変ではないけれど、南魚沼の人たちはとても大変だとガイドさんや民宿のお父さんに教えてもらいました。雪国のことがたくさん知れて、よかったです。
・ぼくはプレセカンドスクールに行き、田植えをしました。そこで米の一粒が大切だというということがわかりました。そう思ったきっかけは、稲を植えているときです。農家の方はこのように腰を曲げて一生懸命お米を作ってくれていることがわかりました。これからもお米を大切に食べたいと思います。

○保護者の感想

・プレセカンドスクールに行くまでは、親としても不安がありましたが、２泊３日友達と協力して元気に過ごせたと知り、子どもの成長を嬉しく思いました。
・宿の方々にも温かく接していただき、南魚沼が大好きになったようです。家族でまた行きたいと話しています。

○総合的な学習の時間の視点から

・事前学習では、南魚沼について自ら課題をたて、調べ学習を行った。このことで、現地での活動の視点が明確になり、課題を追究し、事後学習でまとめることで、総合的な学習の時間のめあてを達成することができる。
・自らの課題に基づいて学習を進め、学習したことが現地での活動に生かされた。活動を通して疑問が明らかになることで、自主的な問題解決学習の姿勢が身に付いた。
・自分のことは自分でするという自立性が高まった。班の友達と協力して学習し、生活する体験を通して、学年や学級という集団の絆が強くなった。

○セカンドスクールとの関連について

・セカンドスクールでは、稲刈りを行うので、プレセカンドスクールの田植えと系統性をもたせて、米作りの学習ができた。

○次年度に向けての反省・課題

・２日目の上越国際スキー場のトレッキング、塩沢つむぎ体験、雁木通り散策が日程的にきつく、特にトレッキングした後、さらに１時間半雁木通り散策をしたのは体力的に厳しかった。トレッキングの後に、休憩時間があるとよい。

プレセカンドスクール

第四小学校　10月12日～10月14日（2泊3日）

○日程表

１０月１２日（水）		１０月１３日（木）		１０月１４日（金）	
7:30	学校集合、出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:00	学校出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:30	片品村東小川着、開校式	8:30	各宿出発	8:00	荷物整理
12:00	昼食	9:30	鳩待峠出発・尾瀬ハイキング	9:15	うどん作り体験
13:00	りんご狩り体験	11:30	牛首到着・昼食	11:00	昼食
14:00	ジャム作り体験	13:40	鳩待峠着	11:45	閉校式、片品村出発
16:00	各宿に移動し顔合わせ	14:20	ぷらり館見学	15:30	学校到着、到着式
17:00	入浴	16:00	宿の方からのお話	16:00	解散
18:00	夕食	17:00	入浴		
19:30	健康観察	18:00	夕食		
20:00	学習の記録	19:30	健康観察		
21:00	次の日の準備、就寝準備	20:30	学習の記録・就寝準備		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・プレセカンドスクールのめあてについて
・集団での宿泊に関する心構えについて
・グループ編成と係の仕事について
・持ち物について
・群馬県片品村について
・しおりの活用の仕方とスケジュールについて

② 事後の学習内容

プレセカンドスクールでの３日間の体験や感動を五七五で書き表した。また、１人１課題についてこれまで調べてきたことや現地で知ったことをまとめ、３年生に対しての報告会で発表した。その際、国語科「アップとルーズで伝える」の単元と関連をもたせ指導した。

群馬県利根郡片品村

参加人数　男子31名　女子27名
計58名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、りんご狩り体験

大きく赤く実ったりんごを前に、子どもたちは歓声を上げていた。りんごの説明や、収穫の仕方などの説明をよく聞き、実際に収穫させてもらった。採ったりんごをその場で食べさせてもらい、採れたてのりんごのおいしさ、自然の甘さにどの子も感激していた。中には、「これまで、苦手だったりんごが、食べられるようになった。」と話す子もいた。

【りんご狩り体験】

2、尾瀬ハイキング体験

農協観光のガイドの方に付き添って頂き、案内に耳を傾けながら、紅葉真っ盛りの尾瀬の自然の中を散策した。木道では、熊や鹿が通った跡などを見たり、川では、サンショウウオを見たりと、自然を満喫しながら約１時間かけて休憩ポイントの山の鼻に到着した。その後、尾瀬ヶ原の中にある牛首で、草紅葉の中で昼食をとった。

帰路は、上り坂が続いたが、友達同士励ましの声を掛け合いながら、全員無事に鳩待峠まで歩くことができた。

【尾瀬ハイキング】

3、うどん作り体験

小麦粉をこねて、うどんを作るという体験はほとんどの児童が初めてであったため、活動中は、歓声や驚きの声がたくさん聞かれた。上手く作業が進まなくても、宿のお母さん方が各班に付き添って、手助けをしてもらいながら進めることができたので、ほぼ同じ工程で活動を進めることができた。また、この体験活動がお母さんとふれ合う最後の機会でもあり、２泊３日間の間にすっかり打ち解けた様子やしっかり技を教わろうとする姿勢も見られ、温かい雰囲気の中で体験

【うどん作り体験①】

活動を楽しむことができた。できあがったうどんは、「今までで食べたうどんの中で一番おいしかった。」と語る児童もおり、自分で作ったものを食べる充実感や友達と協力して作ったおいしさを実感することができた。

【うどん作り体験②】

＜学習体験活動＞

・各宿で、片品村について、冬の生活について、野菜を作る作業などについてのお話をうかがい、児童の質問に答えていただいた。
・ぷらり館では、尾瀬の自然やそこに住む生き物についての説明や展示品を見学した。ハイキングをとおして尾瀬の自然に触れた後に見学をすることで、子どもたちの興味関心も高く、たくさんメモをしたり、友達同士で話し合ったりしながら学習を進めていた。

＜生活体験活動＞

・初めて会った方にお世話になる体験をすることで、自分のことを自分自身ですることや、友達と協力しながら生活することを学んだり、他人に親切にしてもらう温かさを感じたりすることができた。
・細かい荷物の管理、食事やお風呂でのマナー、宿での過ごし方を体験することで、セカンドスクールへの見通しをもつことができた。
・実際に集団での宿泊体験をすることで、友達と寝泊りし一緒に活動する楽しさを知り、セカンドスクールへの期待をもつことができた。

○児童の感想

・ハイキングは辛かったけど、鳥の声を聞いたり、山の景色を楽しんだりすることができた。
・尾瀬の紅葉がすばらしかった。赤や黄色の葉が川に落ちているのがとてもきれいでした。
・りんごをとりたてで食べたら、いつものりんごよりおいしかった。
・東京にない自然、めずらしい植物や動物などを見て心がきれいになるような気持ちになって楽しくできた。
・お母さんがいつも当たり前にやっていたことを、自分でやってみたらとても苦労することだったのに気付いて、今度からは、自分のことは自分でやるようにしようと思った。
・１人ではできないことも、みんなでやればできるし、早くできるんだということを学んだ。
・来年のセカンドスクールでも、友達と仲良くしたいです。人の気持ちや意見を大事にしてちゃんと話をしたいです。
・プレセカンドスクールよりももっと自分から進んで、できることはやりたいと思っています。一人一人協力できたらいいです。来年のセカンドスクールが楽しみです。

○ 保護者の感想

・３日間がとても楽しかったようで、帰ってきてからたくさん話を聞かせてくれた。東京ではなかなかできない体験が、子どもにとっても忘れられない思い出ともなっている。
・プレセカンドスクールに向けてのグループ分けや、係分担の話し合い、現地での共同生活によって、友達の新たな面を発見し、友達関係が広がった。
・出発前からプレセカンドスクールを楽しみにし、荷物の準備も自分で進めていた。帰ってきてからも、何かと手伝いをしてくれ、成長を感じる。

○ 総合的な学習の時間の視点から

「出会いふれあいプレセカンドスクール」という単元設定をし、普段の生活ではできないこと、分からないことを学んでこようと投げかけ、現地での体験そのものを重要視した。事前学習では、現地での生活や集団行動について学ぶとともに、インターネットや本で、片品村や尾瀬についての簡単な調べ学習を行った。事前に調べ学習を行うことで、「分かったことを見てきたい、確かめたい。」「分からなかったからお話を聞いてきたい。」という、活動・学習への動機づけとなった。

事後は、３年生への報告会で「片品で味わった感動を３年生に伝えよう」ということで、グループごとに課題を設定して取り組んだ。

○セカンドスクールとの関連について

セカンドスクールの前段階として、短期間の宿泊を体験することを通して、宿の方々とのふれあいを大切にする心や、進んで自然と親しもうとする心、集団生活上のマナーやルールを大切にする態度を育むことに重点を置いた。

○次年度に向けての反省・課題

・例年行っている稲刈り体験活動が、春の震災の影響で実施することができず、プログラムを変更した。活動自体は、子どもたちも楽しみ、学びも多いものであったが、安全面での課題があった。来年度は、また、稲刈り体験を実施する予定である。
・２日目の各宿から鳩待峠までのバス乗車で、乗り物酔いをする子が多かった。朝食後に酔い止めの薬を飲むなど、対策、指導を徹底する必要がある。
・今年度もトランシーバーを用意し、ハイキングで使用した。教員の配置や動き等を共通確認したことにより、連絡も比較的スムーズにとれた。
・現地観光協会との連携は必要不可欠である。実施前、実施中とも連絡や確認を密にとることが必要である。
・看護師は、セカンドや日光などで度々本校に来ている方なので、児童の様子をよく把握して、心身両面から適切な処置をしてもらった。何よりの大きな力を発揮していただいて助けられた。また、教員との意思疎通もよくとれ、一丸となって対応することができた。

プレセカンドスクール

第五小学校　10月5日～10月7日(2泊3日)

○日程表

１０月５日（水）		１０月６日（木）		１０月７日（金）	
		6:30	起床	6:30	起床
		6:50	朝の会	6:50	朝の会
8:15	出発式	7:30	朝食	7:30	朝食
		9:30	「葉を見よ！」	9:00	「ほうとう作り体験」
11:10	「根を見よ！」		(東大演習林フィールドワーク)	11:30	昼食(ほうとう)
	(青木ヶ原樹海フィールドワーク)	12:00	昼食(芝生広場)	12:30	閉校式
	昼食(富士山ビジターセンター)	13:50	「木を見よ！」	12:45	宿舎出発
	開校式		(富士登山)	12:55	記念撮影(プラザきらら)
16:30	反省会、入浴	17:20	反省会		
18:00	夕食	18:00	夕食	15:00	帰校式
19:00	ゲストティーチャーによるお話	19:00	句会		
	※雨プロ	20:00	入浴		
21:30	消灯	21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・今年度より実施場所を山梨県南都留郡山中湖村に変更した。事前の学習として、３年生の時に、当時の４年生の「プレセカンドスクール報告会」を聞き、プレセカンドスクールでのおおよその活動内容を知った。

・９月に入ってしおりを配布し、行程や集団生活でのきまり、約束事を確認した。また、各活動に「木を見よ！」「星を見よ！」「葉を見よ！」「根を見よ！」といったテーマを付け、活動の目的を明確にし、見通しをもたせた。

・課題を発見する力を高めるため、本校のビオトープにおいて「葉っぱ探しゲーム」や「葉っぱビンゴ」などを行い、葉をよく観察することで多くの違いがあることを気付かせた。また、葉の観察では、国語科のアップとルーズを意識しながら写真を取るように指導した。

・班編成は、学習班（活動）と生活班（宿舎）に分け、学習班は男女混合で各クラス６グループ、学年で 12 グループを編成した。生活班は男女別で各クラス６グループ、学年で 12 グループを編成した。児童は学習班と生活班でそれぞれに役割を担い、グループの中での役割をもたせた。

・初めての宿泊行事であり、集団生活をしていく上で大切なことを始め、部屋での過ごし方やお風呂の入り方、保健指導などを実施した。また、反省会の進め方を事前に指導し、自分たちで進行できるようにファーストスクールでも反省会を行わせた。

山梨県南都留郡山中湖村

参加人数　男子29名　女子32名
計61名

②　事後の学習内容

・プレセカンドスクールの主な活動となった「木を見よ！」「葉を見よ！」「根を見よ！」の３つのテーマから１つを選び、撮ってきた写真を効果的に使いながらまとめた。
・３年生対象の報告会に向けては、１人でまとめた新聞のテーマをもとにグルーピングをした。３年生が４年生の報告を聞いて、プレセカンドスクールの様子を想像したり、来年のプレセカンドスクールへの意欲を高めたりできるような内容を選材してまとめた。各グループに模造紙１枚と写真資料を渡し、模造紙に書いたほうが分かりやすい内容なのか、または、話をすれば済むことなのかを考えながらまとめた。
・各学級の授業では、秋の俳句を作り句会を開いた。プレセカンドスクールで見つけた秋の様子を思い出したり、よく観察することを大切にしたりしながら俳句を作った。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、根を見よ！（青木ヶ原樹海フィールドワーク）

プレセカンドスクール初日が雨天のため、予定していた「木を見よ！（富士登山）」は実施できなかった。そこで、２日目の午後に予定していた「根を見よ（青木ヶ原樹海フィールドワーク）」と入れ替えて実施した。１クラスを６グループ（５人程度）に分け、３グループに１人のインストラクターがついた。３グループをひとまとまりとして隊列を作り、インストラクターの話を聞きながら、青木ヶ原樹海の成り立ちや独特の生態系について学んだ。倒木更新が行われた根の様子や動物の足跡などを目の当たりにし、驚きとともにたくさんの発見をすることができた。また、フィールドワークの終わりには富岳風穴に入り、溶岩流によりできたとても美しい世界を感じたり、人間はそうした洞窟も上手に活用して生活していたことを学んだりした。雨の中の活動にも関わらず、子どもたちは好奇心旺盛に取り組み、とても充実した活動であった。

2、葉を見よ！（東大演習林フィールドワーク）

２日目の午前中には予定通り、東大演習林においてフィールドワークを行った。青木ヶ原樹海フィールドワークと同じく３グループをひとまとまりとしてインストラクターが１人ついた。ネイチャーハントビンゴカードがグループに１枚配布され、子どもたちはグループで協力して 16 問の設問に答えていった。設問の内容は、東大演習林の自然の様子をよく観察することで分かる問題や観察したことをもとにして自由に発想したことを書く問題などさまざまであった。子どもたちは、設問に答えるため自然をよく観察し、グループで話し合い、楽しみながら学習を進めることができた。

【東大演習林で葉の観察】

3、木を見よ！（富士登山）

【富士登山】

２日目の午後には、初日に実施できなかった「木を見よ（富士登山)」を実施した。これまでの学習活動と同じく３グループをひとまとまりとしてインストラクターが１人ついた。富士山の成り立ちや独特の生態系についての話を聞くだけでなく、聞いたものを目の前で確認したり、触れたりすることで、より理解や関心が高まった。特に、実際に噴火口へ下りたり、溶岩と火山弾を触って違いに気づいたりしたことは子どもたちにとってよい体験となった。御中道コースを歩いたことで、森林限界線がよく分かり、雪の積もった富士山のギザギザのイメージの理由を実感することもできた。富士登山が初めての児童が多く、５合目から４合目という短い道のりであったが、見上げた富士山は大きく、また、溶岩で埋め尽くされた足場など、日本一の富士山を初めて体験するのにはとてもよい活動であった。

＜学習体験活動＞

1、山中湖周辺の生態系の学習

初日は雨天のため、予定していた「星を見よ！（星の観察)」は実施できなかった。そこで、インストラクターの代表の方が「山中湖周辺の生態系」について、写真と実物資料を使いながらお話をしてくださった。研修室での座学であったが、山中湖周辺に住む動物（リスや鳥など）の興味深いお話やエビフライと呼ばれるリスが松ぼっくりを食べた跡の実物資料、鳥の頭蓋骨の標本、羽など全員が実物に触れ、重さやメカニズムなど驚きと発見がたくさんあった。

2、プレセカンドスクールの句会

２日目の夜には句会を開いた。初日の青木ヶ原樹海の活動を通して、秋の様子について観察したことや感じたことを俳句で表現し、２日目に句会を行った。一人一人の作句の力だけでなく、鑑賞の力も高まり、友達の俳句を詠み味わい、その言葉選びのよさ、情景描写の優れているところなどを伝えることができた。俳句を作るという課題をもつことで、より一層自然を観察することができるようになった。

3、郷土料理に挑戦（ほうとう作り）

３日目の午前中には山梨県の郷土料理であるほうとう作りを行った。うどんとの違いについて知り、小麦粉と水から生地を作った。

＜生活体験活動＞

今回のプレセカンドスクールが初めての宿泊体験である子供が多かったので、事前に、時計を見て行動すること、入浴の仕方、部屋の清掃の仕方、反省会の進め方など、実際に行わせ体験的に指導した。現地では、部屋ごとのグループの団結力がファーストスクール以上に高まり、協力して生活することができた。また、自分のことだけでなく、共同で使うトイレのスリッパを自発的に整頓したり、お風呂の床をきれいに拭いたりするなど、集団生活の中で、自分だけでなくみんなが気持ちよく生活できるように考えて行動することができた。このような活動を通して、グループで協力する力が一気に高まり、ファーストスクールに戻ってからのグループ活動では、協力することや話し合いの進め方が明らかに成長している。

○児童の感想

・わたしは、このような勉強をするのは初めてでした。いろいろなことを知ったり、やったことのない体験ができたりしたのでよかったです。この体験を生かして、自然を大事にしていきたいと思います。
・青木ヶ原樹海フィールドワークで、倒木更新やコケのことなどを教えてもらって勉強になりました。それから、林と森は違うものだということも分かりました。このプレセカンドスクールを通して、私たちがもっと自然を大切にできたらよいなと思います。
・プレセカンドスクールに行って、自然についてよく考えることができました。東大演習林がとても楽しかったです。来年のセカンドスクールが今からとても楽しみです。
・山中湖に行って東京では見られない植物や生き物が見られてよかったです。東京には森と林のちがいが分かる所がなかったので、とても勉強になりました。もっと自然を知ってみたいと思いました。
・プレセカンドスクールで、みんなと協力ができました。これからの学校生活でも協力できたことを生かしたいです。

○保護者の感想

・家に戻ってから青木ヶ原樹海のことや宿での生活のことなどいろいろ話してくれました。いろいろな発見があり、友達とも協力して生活できたようでよかったです。
・初めての宿泊で不安があったようですが、とても楽しかったようで、もう少し行っていたかったようです。
・プレセカンドスクールでの学習も生活も楽しかったようで、早くも来年のセカンドスクールが楽しみなようです。

○総合的な学習の時間の視点から

本校の４年生の「総合的な学習の時間」の年間テーマは「環境を考えよう、自然に親しもう」となっている。プレセカンドスクールでは、課題を発見する力を高めたいと考え、事前学習では本校のビオトープを活用し、葉をよく観察する活動を行った。普段何気なく見ている自然について、よく観察することで変化や違いを感じることができた。そうした学習により、現地での観察の視点を明確にし、どの活動も充実したものとなった。また、帰校後は、「課題解決型学習」を意識し、自分の選んだテーマについてまとめた。さらに、同じテーマのグループごとに、わかったことをまとめ、３年生や保護者に向けて発表することにより、課題設定の力や、追究する力、まとめる力を育てていけるように活動を展開した。

○セカンドスクールとの関連について

本校では、今年度からプレセカンドスクールの実施場所を山梨県南都留郡山中湖村に変更した。セカンドスクールを見据えて、課題を発見する力を高めることを目標とした。集団共同生活の基礎、グループ活動の基礎など、セカンドスクールに向けての素地づくりができた。セカンドスクールでは、民宿への分泊となるが、基本的な生活については、しっかりと身につけることができた。児童も今からセカンドスクールへの興味・関心が高い。

○次年度に向けての反省・課題

プレセカンドスクールでは、１つのものをよく観察すること、そこから課題を発見することを重点的に指導してきた。課題を追究することが今後の課題となる。追究の仕方を学び、自己の課題を自分で解決できるようにすること、また、それを相手に分かりやすくまとめ発表することをセカンドスクールでは高めていきたい。

プレセカンドスクール

大野田小学校　　10月4日～10月6日（2泊3日）

○日程表

１０月４日（火）		１０月５日（水）		１０月６日（木）	
7:00	学校集合、出発式	6:00	起床、健康観察	6:00	起床、健康観察
7:20	出発	6:30	朝会、体操	6:30	朝会、体操
10:20	滝沢牧場着、牧場体験、昼食	7:00	清掃、荷物整理	7:00	清掃、荷物整理
13:40	宿舎着、開校式	7:30	朝食	7:30	朝食
14;20	避難訓練	8:30	クラフト（焼杉キーホルダー）	8:40	ネイチャー
14:50	冒険ハイク	10:00	ほうとう作り		オリエンテーリング
17:30	荷物整理、夕食	14:00	スライド＆トーク	11:30	昼食
18:40	入浴	15:00	葉っぱのスタンプ	12:20	閉校式
20:20	1 日の反省、班長会、荷物整理	17:30	夕食	12:40	宿舎発
		18:20	室内レク	15:30	学校着、解散式
21:00	健康観察、就寝準備	19:20	入浴	16:00	解散
21:20	消灯	20:20	1 日の反省、班長会、荷物整理		
		21:00	健康観察、就寝準備		
		21:20	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・プレセカンドスクールのめあてについて
・山梨県や北杜市のようすについて
　山梨県や北杜市の位置や土地のようす、歴史、文化財、産業などの特徴
　清里の自然のようす(植物・動物など)
・保健指導（体の成長の変化について,女子の初潮指導など）
・集団行動のルール・集団生活のマナーについて

② 事後の学習内容

・２泊３日の体験や課題学習について振り返り、作文などにまとめる。
・学習課題ごとにグループで体験活動のまとめを行い、３年生に対して発表会を実施する予定。

山形県北杜市高根町清里

参加人数　男子59名　女子43名
計102名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、冒険ハイク

冒険ハイクは、グループで協力しながら森の中に設置されたチェックポイントをクリアしていく活動である。広大な森の中を子どもだけで活動することに、児童はわくわくドキドキしていた。

「友情のウォール」というチェックポイントでは、３ｍ以上の高さの壁をどのように超えるか、どんな順番で越えるかを話し合っていた。自ら踏み台になったり、壁の上から友達を引っ張り上げたりと、力を合わせている姿が見られた。

「ヤッホーの丘」では、遠くに美しく見える八ヶ岳に向かって、グループ全員で「ヤッホー」と叫んだ。自然の雄大さを感じ、それを友達と共有することができた。

その他のチェックポイントでも、協力して取り組む姿が多々見られた。この活動を通して、自然の中で体を動かす気持ちよさを満喫するとともに、友達と力を合わせて難関を越えていく嬉しさを味わうことができた。

【冒険ハイク】

2、ネイチャーオリエンテーリング

前日に雨が降ったため天気が心配されたが、活動場所に向かって出発するころには天気が回復し、実施することができた。

冒険ハイクと同様、グループで自然の中に用意された課題を解決していく活動である。笹舟を作ったり、笹笛を吹いたりする課題、指定された植物の実を探す課題、木に刻まれた爪痕を付けた動物を予想する課題、不思議な形の木に名前を付ける課題など様々な課題に取り組むことを通して、自然について知ったり、感じたりすることができた。

活動が終わるころには、「えっ、もう終りなの。」「もっとやりたい。」という児童の声が聞かれ、自然に対して興味が高まったことがうかがえた。

＜学習体験活動＞

1、牧場体験

【搾乳体験】

今回のプレセカンドスクールの最初の活動として、牧場体験を行った。牧場では牛や山羊、羊へのえさやり体験、子牛の心臓の音を聞く体験、乗馬体験、搾乳体験などをした。山羊や羊が自分の手からえさを食べたり、子牛の心臓の音を聞くことで、児童は命のぬくもりを肌で感じていた。乗馬体験では、馬は臆病な生き物だから怖がらせてはいけないということを知り、乗る時にひらひらした紙をしまったり、脚を後ろから回して乗ったりして、馬と接するときの気遣いを学ぶことができた。搾乳体験では、牛の乳の温かさや乳首の感触、乳が出た時のうれしさを口々に語っていた。

2、焼杉のキーホルダー作り

２日目は焼杉のキーホルダー作りから始まった。杉の木目は同じものが１つもなく、児童は自然の風合いを楽しんでいた。それをガスバーナーで焼き、その後で表面の黒くなった部分をブラシで磨き落とすと、焼く前とは一味違った色合いになった。児童はよりきれいにしようと一生懸命に磨き、出来栄えに満足していた。

3、スライド＆トーク・葉っぱのスタンプでデザインしたエコバッグ作り

レンジャーと呼ばれる講師の方に、実物やスライドを見せていただきながら、清里の植物や動物について学んだ。事前学習で調べた内容と関連した話になると、「これ、知ってる。」と得意げになりながらも、真剣に話を聞いていた。

その後で屋外に出て、エコバッグのもよう作りに使う葉っぱを探した。雨の中での活動になったが、直前に学んだことを確かめたり、さらに新たなことを知ったりしたい欲求が強く、自分のイメージしたデザインに合う木の葉を熱心に探していた。

室内に戻り、摘んできた葉っぱにアクリル絵の具を付けて、エコバッグにスタンプした。思い思いにデザインを考え、豊かにイメージを膨らませながら作品作りに取り組んだり、できた作品を友達同士で認め合っていたりする姿が見られた。

＜生活体験活動＞

1、ほうとう作り

ほうとう作りは現地の方に指導していただいた。野菜を切ったり、火を起こしたりと危険が予想される場面のある活動であったが、児童は指導してくださる方の話をよく聞き、活動に取り組んでいた。麺を打ったり、野菜を切ったり、火をつけたりすることに悪戦苦闘しつつも、麺と具材を煮込み、味噌で味をつけ、やっと完成した。自分たちで作ったことに達成感を感じ、ほうとうの味に舌鼓を打っていた。楽しく、おいしく、山梨県の食文化に触れることができた。

2、室内レク

予定していたナイト追跡が雨天のため中止となり、宿舎の講堂で室内レクを行った。「伝言ゲーム」では、その時点までに行った活動の感想を伝言していった。ゲームを通して活動を振り返るとともに、友達との仲を深める良い機会となった。

○児童の感想

・「友情のウォール」で、ぼくが台になってみんなを登らせてあげました。そしたら、先生が「素晴らしいチームワークだね。」とほめてくれたので、すごくうれしかったです。
・牛のお乳はむちむちしていました。ぎゅっと握ると、勢いよくミルクが飛び出してびっくりしました。
・ほうとう作りで、麺の生地を踏むのが疲れました。でも、上手にできたので、みんなで、「おいしいね。」と言いながら食べました。

○保護者の感想

・疲れきって帰ってくると思っていましたが、帰ってくるなり現地で行った活動の様子をたくさん話してくれました。その様子から、充実した活動ができたことがわかります。
・普段なかなか触れ合う機会のない動物や自然と触れ合うことができ、貴重な体験をさせていただけたと思います。

○総合的な学習の時間の視点から

・２学期に清里の自然や文化について概略を調査し、それぞれが自らの課題を決めた。
・プレセカンド後に体験を通して学んできたことを作文にまとめた。
・２学期末に『３年生に伝えよう』として、プレセカンドスクールの発表会を行う。

○セカンドスクールとの関連

・今回の自らの課題について下調べをし、現地で調査しまとめるという体験は、セカンドスクールでも十分に生かされると考えられる。
・学校行事として初めての集団宿泊体験は、子どもたちの自主・自立・協力の心を養い、セカンドスクールに向けての自信と期待につながった。

○次年度に向けての反省・課題

・昨年度まで実施していた館山市と今年度実施した清里を比較し、来年度の実施地を検討する。
・晴天時と比べても内容的・予算的に遜色のない雨天プログラムを再検討する。
・現地の観光協会を有効利用し、ねらいを達成するための体験活動の情報を数多く得る。

プレセカンドスクール

境南小学校　　10月5日～10月7日（2泊3日）

○日程表

１０月５日（水）		１０月６日（木）		１０月７日（金）	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床、検温、洗顔	6:30	起床、検温、洗顔
8:15	学校出発	7:00	朝の会	7:00	朝の会
		7:30	朝食	7:30	朝食
9:40	談合坂ＳＡ（トイレ休憩）	8:30	片付け、荷物整理	8:30	片付け、清掃、出発準備
10:30	ぶどう畑着	9:00	宿舎出発	9:00	閉校式、宿舎発
		9:30	紅葉台入り口着、ハイキング	9:50	富士山五合目着
11:30	農作業体験・昼食	10:40	三湖台着	11:45	昼食（御中道東屋にて）
	収穫、草取り、	11:30	野鳥の森公園着、昼食、休憩	13:00	富士山奥庭出発
	まきひげ取り、かさ吹き	13:30	野鳥の森公園発	14:30	石川ＳＡ（トイレ休憩）
14:10	ぶどう畑発	13:45	富岳風穴着、見学、	15:30	学校着、帰校式
15:00	宿舎着、開校式、避難訓練	15:30	宿舎着、荷物整理		
16:00	入浴、学習の記録	16:00	入浴、学習の記録		
18:00	夕食	18:00	夕食		
19:30	絵手紙作り	19:30	星の話、星空観察（散歩）		
20:45	健康観察	20:45	健康観察		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:30	消灯・就寝	21:30	消灯・就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・宿泊を伴う共同生活体験に向けて、集団行動のルール・集団生活のマナーについて指導した。特に、集団活動を楽しく安全に行うには、時間を守って行動することやきちんと整列すること、一人一人がしっかり話を聞くことが大切であることを確認した。

・係ごとに必要なルールやマナーを話し合い、食事や入浴の仕方などの約束を決め、全体で確認し、実行できるようにした。

・自主的に活動できるよう、班長を中心に児童が考えたスローガン「感動、友情、大自然、心に残るプレセカンド！」を設定し、初めての宿泊行事をみんなで協力し思い出に残るものにしようと話し合った。

・総合的な学習の時間に現地で行う活動内容について知らせ、富士山、富士山の石、山梨の交通、富士山の雲、ぶどう、富士五湖、高山植物の７つの学習課題にまとめ研究を進めた。

山梨県南都留郡富士河口湖町

参加人数　男子42名　女子34名
計76名

②　事後の学習の内容

・課題別の学習について、同じ課題のグループごとに研究発表会を開き、資料を準備して調べたことを発表した。
・宿泊体験や自然体験、農作業体験、友達との交流など、プレセカンドスクールの思い出を振り返り作文にまとめた。
・12 月に行う予定の３年生に向けてのプレセカンド体験発表会に向け、活動のまとめを行っている。まず、各自が現地で体験したことから、写真や絵を利用してパソコンを使って発表資料を作成し原稿を作っている。そして、自分の伝えたいことをまとめ、次年度にプレセカンドスクールを体験する３年生にプレセカンドスクールの宿泊体験の様子や自然体験のすばらしさなどを伝える予定である。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、富士山五合目トレッキング

初日が雨天のため３日目に富士山５合目のトレッキングを行った。ボランティアガイドから、火山岩や富士山特有の植物などについて説明を聞きながらグループで歩き、途中、コケモモやシャクナゲを見たり、変わった色や形の火山岩を見たりして高山の特徴を学習した。

トレッキング中は、雲一つない快晴に恵まれ、麓の河口湖や富士吉田市内を一望することができた。ボランティアガイドの説明のおかげで、富士山特有の植物の観察ができ、大自然にふれ、十分満足できたようである。

【富士山から河口湖方面を望む】

2、紅葉台ハイキング・野鳥の森公園・富岳風穴見学

２日目、晴天の下、紅葉台入口からハイキングコースになっている道を登った。前日の雨のため登りの坂道がぬかるんでいたため、時間をかけてゆっくりと登って行った。紅葉台展望台では富士山の山頂が雲から顔をのぞかせ、絶好のハイキング日和となった。目的地の三湖台では、西湖、精進湖、本栖湖の湖面を見渡す 360 度のパノラマを楽しむことができた。ただ、三湖台にはトイレがないため、あまり長居はできなかった。帰路は滑りやすいので登山道ではなく車道を下った。勾配がゆるやかで周りの森林の景色を楽しみながらのんびりと歩くことができた。

野鳥の森公園は紅葉台入口からバスで 10 分ほどである。この公園は周りを青木ヶ原樹海に囲まれている。当日、公園の施設自体は休園日であったが、駐車場と芝生は開放していた。手入

れの行き届いたきれいな芝生で昼食をとり、その後、子どもたちは芝生の感触を楽しみながら友達同士で伸び伸びと身体を動かして遊ぶことができた。風が心地よく気温もちょうど良い最高の気候であった。

富岳風穴は野鳥の森公園からバスで 10 分ほどのところにある。風穴は青木ヶ原樹海の中の遊歩道の先にある溶岩洞窟である。そこから、急勾配の階段を下りて行き、低い天井に気をつけながら奥に進むと、そこは気温５℃の暗闇。溶岩樹形や縄状溶岩、氷柱などが見られる。総延長 201 メートル、高さは８．７メートルにおよぶ横穴で、所要時間 20 分程である。子どもたちはこの季節に氷が残っているのを実際に見て、その寒さに驚いていた。こうした溶岩洞窟は、昔は蚕のさなぎや植物の種などを保管する天然冷蔵庫として使用されていたと説明を聞き納得した様子であった。

＜農業体験活動＞

1、ぶどう畑での農作業体験

【ぶどう畑でのまきひげ取り体験】

１日目、あいにくの雨だったが、予定を変更して甲州市のぶどう畑に向かった。まず、活動についての説明を聞いた。そして、さっそくぶどうの収穫体験活動を行った。斜面での収穫作業であったが、はさみで枝を切る際に、切ったぶどうを落とさないように片手で支えるなど、現地の指導員の方の指導で安全に作業ができた。子どもたちは説明を聞き、できるだけ良いぶどうを自分なりに見分けながら収穫していた。そして、次の畑へ移動し、強くなってきた雨の中、かっぱを着てぶどう畑の草取りを行った。土地が荒れるのを防ぐため休耕畑で飼っている牛に刈り取った草を食べさせようとしたが、残念ながら子どもたちに驚いた牛は逃げてしまった。

収穫作業と草取りの体験後、昼食をとり、その後、雨や薬から実をカバーするふくろを再利用するための「かさふき」と、よけいな部分に栄養を取られたり病気になったりするのを防ぐための「まきひげ取り」の作業を体験した。こうした作業を体験することによって、子どもたちは、自分たちが食べている農作物を育て収穫するまでには、人が多くの手間をかけなければならないということに気付いたようである。現地の方の話や実際の体験を通して、おいしいぶどうができるまでの働いている方々の努力や苦労、また食べ物の大切さについて考えることができ、大変有意義な活動であった。

＜学習体験活動＞

1、絵手紙作り

１日目の夕食後、「プレセカンドスクールの思い出を表現しよう」と絵手紙作りを行った。ぶどうや富士山を題材にしていた児童が多かったが、同じぶどうや富士山でも一人一人さまざまな色と形が表現され個性を発揮することができた。出発前に学校で絵手紙のかき方については若干の指導を行ったので、当日はほとんど細かい説明をせずに実施することができた。

○児童の感想

・ぶどう畑では雨の中で作業が大変だったけど、その分、後で食べたぶどうがとてもおいしく感じられた。とても良い経験になった。
・ぶどうの木は病気にかかりやすく手入れが大変だと分かった。おいしいぶどうを作るために農家の人が毎日心をこめて手入れをしているのがすごいと思った。今度からぶどうを食べるときにそのことを思い出すと思う。
・富士山の５合目から見た景色は最高にきれいだった。遠くに河口湖や西湖がキラキラ光って見えた。地元の人でもめったに経験しない最高の天気に恵まれて本当に良かったと思う。
・溶岩は重いと思っていたのに、持ってみると軽かった。穴だらけで空気がまじっているみたいだった。
・富岳風穴の中は暗くて少しこわかった。夏でも氷が溶けないと聞いてびっくりした。
・プレセカンドに行く前はいろいろと心配したけど、行ってみて自分でやることをきちんとやって生活できたので安心した。これでまた、来年のセカンドスクールが楽しみになった。

○保護者の感想

・帰宅してからも、「１ヶ月は泊まりたい。」と言っていました。寝言でも「楽しかった～。」というくらい楽しい思い出ができたようです。
・２泊３日のプレセカンドから帰ってきた息子は一回り成長したように感じました。友達や先生、指導員やホテルの方にお世話になり、人とのかかわりの大切さを学んだようです。
・さまざまな体験の中で、自らの手・足・目・耳で多くのことを発見したようです。友達との共同生活では、互いの気持ちを考えながら行動することを学んだようです。

○総合的な学習の時間の視点から

１学期に「給食から見える世界」の単元を学習し、食の大切さについて学んだ。その上でぶどう園の農作業体験では、実際に農作業を体験したり現地の方の話を聞いたりして、作る人たちの苦労や食べ物の大切さを実感することができた。

○セカンドスクールとの関連について

友達との集団生活を経験することにより、自信をもって来年度のセカンドスクールに臨めるようにと考えて計画・実施した。事前指導では、全員が楽しく気持ちよく生活するために大切なことは何かを考えさせた。また、課題追究型の学習過程で、学習課題の決め方や調べ方、資料の表現方法などを学び、それがセカンドスクールにも生かされると考えている。

○次年度に向けての反省・課題

・富士山のトレッキングでは、トイレのない場所で必要以上に時間がかかるのを避けるため、ボランティアガイドの必要性を再検討する必要がある。トレッキング中の高山に関する学習内容は学校関係者でもある程度説明できるので今後再考したい。
・雨天のため、初日と３日目の日程の交換を初めて実施したが、特に大きな問題はなかった。

プレセカンドスクール

本宿小学校　　6月8日～ 6月10日(2泊3日)

○日程表

６月８日（水）		６月９日（木）		６月１０日（金）	
8:00	学校出発	6:30	起床・健康観察・洗面	6:30	起床・健康観察・洗面
10:00	上里ＳＡ（トイレ休憩）	7:00	朝食・清掃・寝具整理	7:00	朝食・清掃・寝具整理
11:30	八海山到着・開校式	8:30	坂戸山登山	8:00	八海山ロープーウェイ
12:00	避難訓練・昼食	11:00	山頂・昼食		温度調べ・地形鳥瞰
13:00	田植え体験	12:00	下山	9:30	山菜狩り
		14:30	ソバ打ち体験	11:30	昼食
16:00	プレセカンドの過ごし方・入浴	16:00	荷物整理・入浴	12:30	閉校式
17:30	夕食準備	17:30	夕食準備	14:30	上里ＳＡ（トイレ休憩）
18:00	夕食	18:00	夕食	17:00	学校到着
19:00	天体観測	19:30	民宿の方とのお別れ会		
20:00	民宿の方との交流会				
21:00	健康観察、就寝	21:00	健康観察、就寝		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

前年度の４年生から、事前にプレセカンドスクールの様子について知らせてもらっていた。その上で、本年度になり自分達の調べたい課題について考えた。六日町の農業・特産物・生き物・交通・歴史・星座などについて子ども一人一人が「学習の課題」をもち、図書室の本や資料、インターネットなどで調べ、現地に臨んだ。

米作りについて調べたグループはパソコンや本で米の作り方を調べ、実際に田植えをした時に農家の方に質問ができるように準備をした。また、天体について調べたグループはパソコンや本で６月に見える惑星や星座について調べ、天体観測をした時に観光協会の方に質問ができるように準備をした。

② 事後の学習内容

それぞれの学習班で課題別に調べたことを模造紙などにまとめた。そして、「総合的な学習の時間」を使って、来年度南魚沼市に行く３年生や保護者の方を招待してポスターセッションをした。児童は、３年生にもわかる平易な言葉で南魚沼市での自分達の体験を発表することができた。

新潟県南魚沼市(六日町・八海山地区)　参加人数　男子27名　女子22名　計49名

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、坂戸山登山

朝から晴天の中、地元のボランティアや観光協会の方と一緒に登った。上杉景勝、直江兼続やその家臣たちの屋敷跡などの史跡を通り過ぎて、御館を横に見ながら登って行った。今年度は猛暑の中での登山となったが、観光協会で飲料水などをしっかり準備していただいたので、猛暑の中でも登山ができた。１名が途中から引き返したほかは、実城といわれる頂上まで全員が歩き切った。南魚沼盆地の眺めはすばらしく子どもたちは、山や盆地、川など地形の変化を目の前で観察した。記念撮影をして 360 度のパノラマの頂上でお弁当を食べた。下山道も整備され、比較的容易に下山できた。

【坂戸山にて】

2、山菜狩り体験

八海山ロープウェイの乗り場付近は、格好の山菜狩りの場所である。地元の方々の先導で、山菜のみつけ方を教えていただき、山菜のある場所に案内していただいた。子どもたちはわらびをみつけて家庭へのお土産とした。

3、田んぼでの自然とのふれあい

活動の合間にペンションの横の田で、自然とのふれあいをした。蛙をたくさん捕まえる子、イモリを捕まえる子などなど、どの子も生き生きとした表情で自然とのふれあいを楽しんだ。武蔵野では体験できない貴重な時間だった。

＜学習体験活動＞

1、コシヒカリの田植え体験

今年度も「本宿小実習田」として提供していただいた田で田植えを行った。最初に農家の方に、稲の持ち方や移動の仕方など田植えのこつを教わった。田んぼに裸足で入った子どもたちは熱心に田植えをして、30a の田を全て植え終わった。最後に田のあぜで、農家の方に子どもたちがさまざまな質問をした。

2、そば打ち体験

ペンションより徒歩 10 分の体験施設「レイホー八海」の体育館でまず地元の達人からそば打ちの方法を教えていただいた。子どもたちは、達人のあざやかな手さばきに息をひそめてみとれていた。続いて、小グループに分かれて、地元のおじいちゃん、おばあちゃんがついて、そばうちの指導をして

【そば打ち体験】

いただいた。初めてそばを打つ子どもがほとんどだったが、「粘土みたい。」「のばすのが難しい。うまくやらないと切れるね。」「包丁が重くて大変。」いろいろなことを言いながら工夫をこらして一生懸命に作っていた。冷蔵庫に入れて、翌日の山菜狩りでとった山菜のてんぷらとともに、グループ別に自分たちがうったそばを食べた。

3、地形鳥瞰体験

温度計でふもとの温度を測り、ロープウェイで山頂までいって再度温度を測った子どもたちは３度近く違う気温に驚いていた。標高差で同じ日でも温度が違うことを実感できたことは大きな成果だった。またロープウェイの終点の展望台からは見渡す限りの南魚沼盆地や上越国境の山々が見え子どもたちは感動していた。

＜交流体験活動＞

1　夜の交流会

１日目はあまり時間がとれなかったが、自己紹介をした後、「なぜペンションをしようと思ったのですか。」「ペンションの名前にはどんな意味があるのですか。」などお父さんお母さんにいろいろな質問をして時間を過ごした。２日目は事前の準備をもとに、児童の係が民宿の方へのお別れ会を運営した。その結果、二つのペンションともに、スムーズかつなごやかに、お父さん、お母さんとのふれあいをすることができた。

2　共同生活のマナーと身辺自立体験

「自分のことは自分でする。」「他人に迷惑をかけない。」など共同生活のマナーや、身辺自立についての体験も多く行った。最初に避難訓練をして、いざという時に自分の身の安全を守る体験をした。次に、部屋の片付け方、風呂の入り方、食事の配膳方法、布団のたたみ方、正しい検温の仕方、部屋の整理整頓など集団生活の基礎的マナーを教師や指導員が指導した。

3　閉校式での集団演技の披露

閉校式では、ペンションの駐車場で、毎年度恒例となった運動会での表現種目、今年度は「本宿ソーラン」を披露した。ペンションのお父さんお母さんや観光協会、地元の方々などの拍手喝采の後、お別れとなった。２泊３日という短い期間ではあるが、地元の方々とかなり密度の濃い交流ができた。

【閉校式の演技】

○児童の感想

・ぼくは初めてのプレセカンドスクールで、少しきんちょうしてたけど、ドキドキする気持ちのほうが大きかったです。新潟県の南魚沼に着いたとき、最初にびっくりしたのが、どこを見ても田んぼばっかりでした。だから、新潟県のお米はおいしいんだなと思いました。

・二日目は坂戸山に登りました。最初はふつうの山だと思っていたけれど、初めからきつくてまだ半分もいっていないのにきつくて、もう登れないと思ったけれど、みんなが「だいじょうぶ？つらい？」とやさしく声をかけてくれたので、やっと山ちょうまで登りきりました。

・田んぼに入って足をぬくとき、「ブヒ」と音がしたのでおもしろかったです。終わった時田植えはむずかしいなということがわかりました。それを自分たちは食べているんだからきれ

いに食べなくちゃと思いました。
・ぼくが最高に感げきしたのはおわかれ会です。いつもお見送りや「がんばってね」と声をかけてくれたお父さんやお母さんと別れるのでとても悲しかったです。でも、最後にいっしょにしりとりをして遊べたのですごくうれしかったです。
・２日目、そばうちをしました。そばをこねるところと切るところがむずかしかったです。最後、太く切ってしまって失敗してしまいました。すごく細いものもありました。けれど、みんなで「あちゃ。」「やっちゃった。」など言いながらやったので、楽しかったです。

○保護者の感想

・家ではわがままを言うけれど、集団生活の中では我慢することを覚えたようです。
・都会にない風景が強く印象に残ったようです。新潟に住みたいと帰ってきてから言ってます。
・家では家の手伝いをしないけれど、プレセカンドでは普段できない手伝いをさせてもらったのでいい経験をさせてもらったと思います。

○総合的な学習の時間の視点から

事前の学習では南魚沼という地域に期待をもたせるとともに「学習や生活の課題」を持たせた。事後の学習では、来年度南魚沼に行く３年生に向けて体験したことをわかりやすくまとめプレゼンテーションする発表会を行った。また、宿のお母さん、お父さんへの御礼を書く活動も行った。

○セカンドスクールとの関連について

５年生の飯山セカンドスクールに向けて、集団生活の仕方や、稲作の季節による作業の様子などを調べさせた。また、民宿の方との交流会のやり方や、お礼の会の運営の仕方なども練習した。さらに、教師がふたつのペンションの分宿し、指導員に仕事について指導し、本部形式の６つの民宿に分泊するセカンドスクールにおける指導に生かせるようにした。

○次年度に向けての反省・課題

・新潟県南魚沼市六日町・八海山でのプレセカンドスクール実施も３年目となった。今年度は好天にもめぐまれ、すべての予定を計画通り実施できた。
・現地までの移動時間が３時間半程度と適切で、途中休憩も１回ですみ、移動による疲労や車酔いの心配がほとんどなかった。
・宿舎のペンションのお父さん、お母さんもプレセカンドスクールの趣旨をよく理解していただけて、昨年度より一層理想に近い形で実施できた。宿泊施設の清掃も行き届いていたためぜんそくもほとんど発生しなかった。
・坂戸山の下山路がよく整備されているため、子どもたちも安心して下山できた。
・坂戸山はふもとにしか便所がないので、毎年段ボールの簡易トイレを指導員に頼んで持参している。幸い今年度も使うことはなかったが、腹痛の児童への対策も必要である。
・二つの宿に教師が分泊したので、指導員や児童への連絡や指導がスムーズに行えた。

プレセカンドスクール

千川小学校　　10月12日～10月14日（2泊3日）

○日程表

１０月１２日（水）		１０月１３日（木）		１０月１４日（金）	
7:30	出発式	6:30	起床	6:30	起床
10:00	フォレストコテージ到着	7:00	朝食	7:00	朝食
	森を守る話	9:00	都民の森　ハイキング	8:15	三頭山荘　閉校式
	林業体験学習			9:00	こんにゃく工場見学
12:00	昼食	12:00	昼食		シクラメンハウス見学
13:00	水生昆虫観察	13:00	こんにゃく作り体験		郷土資料館見学
15:30	三頭山荘着　開校式			12:00	昼食
16:30	入浴	16:30	入浴		
18:00	夕食	18:00	夕食	16:00	到着式　解散
19:00	学習の記録	19:00	学習の記録		
21:00	消灯・就寝	21:00	消灯・就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

○プレセカンドスクールで身に付けたい力やどんな学習をするのか、児童に分かる言葉でねらいを設定し、プレセカンドスクールまでの見通しをもたせた。

・山地で暮らす人々の生活の様子や生活環境を学ぶ。
・友達と協力して生活し、交友関係を深める。
・生活のきまりを守る。（あいさつ、時間、マナー）

○「わたしたちの東京都」「東京都の地図」を活用し、檜原村の自然、交通、産業、生活の様子などのテーマに分け、１時間ずつ学習した。写真などから気づいたことや疑問点を発表し、話し合い、檜原村を訪れることへの学習意欲を高めていった。

○檜原村の自然などについては、総合的な学習の時間を活用して学習した。林業体験があるため､苗付けから伐採まで林業の仕事の内容を新聞作りを通して児童に理解を深めさせた。

○集団宿泊行事を進める学習

・班で役割分担をし、班内で分担した役割の準備を進めた。
・宿舎で生活する際のマナーについて話し合い、実行に向けて取り組んだ。
・友達と一緒に生活することの意味と、心配りをしあわなくてはならないことについて話し合い、各自が目標をもって臨めるようにした。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数　男子37名　女子25名
計62名

②　事後の学習内容

「プレセカンドスクールの報告会をしよう」

・２週間後の学校公開日にプレセカンドスクールの報告会を「ふれあいホール」で行った。

・発表内容は自分たちで選んだ。

「事前学習で学んだこと」「水生昆虫の観察について」「林業体験について」「係活動」「班の紹介」などを１人ずつ役割を決めて発表した。

・発表した後、聞いていただいた方に感想をいただいた。

・お世話になった宿泊施設の方や指導していただいた方にお礼に手紙を出した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、林業の重要さを知り、体験を通して理解を深める

【受け口を作ろう】

フォレスティングコテージにて、林業家の方から日本の林業の実態や森林の減少などについてプリントや写真などを見ながら説明していただいた。また、日本は人口林が多く、人間が手を入れて育てていかないと荒れ果てた山になってしまうという話は子ども達には驚きの内容であった。

その後、実際に間伐の林業体験をさせてもらった。全体を６グループに分け、それぞれのグループに指導員がついたため、児童一人一人が活動する時間を多くもつことができた。のこぎりで「受け口」「追い口」を作り、ロープで木を倒す方向を決め、グループで協力して木を倒すことができた。木が倒れてくるときには、他の木を盾にして引っ張り、安全に注意して活動に取り組んでいた。１グループにつき、３本ほど間伐したため、太陽の光が地面にさす面積や場の明るさが増していたことに児童が気づくことができた。「森を育てる」ためには、木を切ることも大切であることを学んでいた。

２、水生昆虫の観察

天気がよく、実際に川に入って水生昆虫の観察をすることができた。児童は、講師の先生から水生昆虫の探し方を教わり、網とコップを持って川辺で水生昆虫を探していた。

川の水は冷たかったが、ひとたび水生昆虫が見つかると夢中になって川の中の石をどかしたり、網で石と石の間を探ったりしていた。

【水生昆虫を見つけよう】

3、都民の森ハイキング

お天気に恵まれ、朝９時から都民の森でハイキングを行った。三頭山の入り口である都民の森は、なだらかな道と険しい道の両方があり、杉や松などの針葉樹、シロヨメナやヤマトリカブトなどの秋の花を見ながら楽しく歩くことができた。三頭大滝があり、初めて滝を見る児童が多く、多くの歓声が上がっていた。

【三頭大滝の前のつり橋】

山の上から見下ろす美しい緑の世界と新鮮な空気を胸一杯に吸い、檜原村の自然の雄大さを感じることができた。

＜学習体験活動＞

1、こんにゃく作り体験

交流センターにて、地元の講師を招き、こんにゃく作り体験を行った。こんにゃく芋をすりおろしたり、ソウダとすりおろしたこんにゃく芋を混ぜ、大きな鍋でぐつぐつと煮込んだりして、こんにゃくができるまでの調理をした。児童は、こんにゃくが芋からできていることを事前に学習していたが、体験を通して実際に実感しているようであった。できたこんにゃくを食べ、できたてのこんにゃくのおいしさに感激していた。

【冷めないうちにかき混ぜよう】

2、檜原村の産業を学ぶ

檜原村の名産品であるこんにゃくができるまでの過程を知るため、こんにゃく工場の見学をした。檜原村の特色である水はけのよい土地を生かして、こんにゃく芋を育て、生の練り芋を使ってこんにゃくを作っていることを学んだ。児童は、前日にこんにゃく作りを体験しているため、手作りと機械を使って作る工程の違いを比べながら見学していた。また、シクラメンハウスの見学では、檜原村の気温の変化を生かして栽培していることや買ってくれる人の需要に合わせて栽培する種類を変えていることなどの工夫を知ることができた。

【こんにゃくの作り方を発見】

＜生活体験活動＞

・各グループの中で、仕事の役割分担をし、部屋の整理整頓、食事の準備や片づけ、時間を見て行動するなど、一人一人が責任をもって自分に任された仕事に取り組むことができた。

○児童の感想

・たくさんの水生昆虫を探すことができ、武蔵野市では見られない生き物を観察することができた。
・こんにゃくを作るのは大変だったけど、できたてのこんにゃくのおいしさにびっくりした。
・班で協力して過ごすことができて、いい思い出ができた。

○保護者の感想

・プレセカンドスクールの楽しかった話をたくさんしてくれた。自分から家の手伝いをするように少しずつなってきた。
・プレセカンドスクールの報告会を見て、一人一人が係の仕事に責任をもって取り組んでいたことがわかった。また、３日間充実した体験学習ができたことが内容からわかった。

○総合的な学習の時間の視点から

・社会の「わたしたちの東京都」から檜原村の概要をつかみ、児童の関心を高めることができた。日本の林業の実態や仕事の内容を知るために、総合的な学習の時間と関連させて調べ学習に取り組むことができた。

○セカンドスクールとの関連について

・プレセカンドスクールにおいて、児童がそれぞれ体験する活動について、事前に調べ、学習して課題を見つけておく。そして、現地での体験を通して課題を追求していく経験を積むことによって、セカンドスクールにおいて課題を追求していく姿勢を養っておきたい。
・セカンドスクールでは、児童がグループに分かれ、現地の方の家に泊まる分泊である。４年生で、基礎的な集団生活を学び、生活習慣、マナーを見直すことによって、セカンドスクールでの指導員との分泊の土台を築いておきたい。

○次年度に向けての反省・課題

・４年生は、初めての宿泊体験ということで、宿泊場所を１か所にして行った。児童の様子がよく把握でき、事前に連絡を受けていた保護者からの要望や心配事にも対応する事ができたり、ちょっとしたことにも迅速に対応できたりしたのでよかったと思う。セカンドスクールでの分泊の準備のために、班で責任をもって生活をしていく指導体制をより工夫していく必要がある。
・２日目のハイキングとこんにゃく作りは、学級ごとの活動になってしまった。こんにゃく作りをできる場所の面積に限りがあるので、学年として半分に分けることも検討していきたい。また、講師の方との打ち合わせをより密にしていく必要がある。

プレセカンドスクール

井之頭小学校　　10月19日～10月21日（2泊3日）

○日程表

１０月１９日（水）		１０月２０日（木）		１０月２１日（金）	
8:00	学校集合　出発式	6:00	起床	6:00	起床
8:30	バス乗車・出発	6:30	朝の会	6:30	朝の会
12:00	尾瀬わくわく体験郷到着	6:45	朝食準備・朝食	7:00	朝食
12:15	開校式	7:30	出発準備	7:45	荷物最終チェック
12:30	昼食	8:00	水源見学	8:30	野菜畑見学
13:00	豆腐・こんにゃく作り	11:00	りんご狩り体験	9:00	ジャム・田舎料理作り体験
		12:20	昼食		
16:15	尾瀬わくわく体験郷出発	13:30	植物採集・押し花作り体験	11:05	昼食
16:30	各民宿に行く	16:00	押し花作り体験終	12:00	宿の方とのお別れの集い
17:15	健康チェック	16:15	学習のまとめ	13:00	閉校式
	学習のまとめ		宿の方へのお手紙書き	13:30	バス乗車、片品村出発
18:00	夕食	17:00	健康チェック	16:15	学校到着　到着式
19:00	星空観察	18:00	夕食準備、夕食	16:30	解散
19:30	宿の方とお話	19:00	星空観察		
20:00	入浴	20:00	入浴		
20:30	反省会	20:30	反省会		
21:00	就寝準備	21:00	就寝準備		
21:30	消灯	21:30	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

・１学期の理科で「星の学習」を行い、星座早見盤の使い方、星座の位置や、名称を学習した。
・現地の課題別学習に向け、課題を選択させ、インターネットやパンフレット、書籍などを活用し、調べ学習を行った。課題の内容は、①片品村のりんご・産物について、②片品村の水について、③豆腐・こんにゃく作りについてなどである。
・社会科で「水」の学習をした時に水源林について学習し、利根川源流の水源について触れた。
・事前に民宿の方への質問内容を考えさせ、課題意識を明確にした。

群馬県利根郡片品村

参加人数　男子28名　女子21名
計49名

②　事後の学習内容

・プレセカンドスクールの体験を作文にまとめた。
・事前に調べたことや、現地で学んだことを模造紙や画用紙にまとめ、次年度体験する予定の３年生にむけてプレセカンドスクールのよさや、各自が学んだことを発表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

1、植物採集

クラスごとに分かれ、押し花作りに使うための植物を採集した。子どもたちが各々自分の押し花を作るために、花々や葉を一生懸命探していた。美しい里山の景色を堪能しながら子どもたちは楽しそうに過ごすことができた。

2、りんご狩り

日本で一番標高の高いりんご園でりんご狩りを行った。１年間を通じたりんごの世話の仕方に驚き、おいしいりんごの選び方や種類などのお話を伺った。子どもたちがりんごを選んでいる表情はとても生き生きしたものであった。２個収穫し、１つはその場で丸かじりし、残りはジャム作りに使用した。りんごの蜜の多さに感動している児童が大勢いた。

【りんご園】

＜学習体験活動＞

1、片品川水源見学

社会科の時間で「水源林」について学んだ。片品は太平洋側への分水嶺である。したがって、水源について課題を設定した児童も多く、とても楽しみにしていた様子であった。水源にたどり着いた時、多くの子どもたちが実際に湧き出ている水を見、さわり、驚きを感じていた。実際に利根川として太平洋に注ぐ最初の湧き水を飲むことが出来た。湧き水のおいしさ、冷たさと長い水の行方を感じ、感嘆していた。

【片品川水源見学】

2、豆腐・こんにゃく作り体験

現地講師の指導で、豆腐・こんにゃく作りを行った。

今年度も、豆腐を作る児童とこんにゃくを作る児童に分かれ、体験活動を行った。豆腐とこんにゃくの作り方は、ほぼ全ての児童が初めて学び、とても意欲的に取り組むことができた。２つの課題に分かれたために、お互いの進み具合を確認したり、作り方を教え合ったりという学び合いの姿が見られ、充実した学習ができた。

【豆腐作り】

３、押し花作り体験

現地講師の指導で、自分達で採集した植物を使い、電子レンジで水分を抜いた。その後、花や葉をデザインしながら台紙にのせ、上から和紙を貼った。２枚作成し、そのうち１枚を額にいれて仕上げた。作り方を教えていただいた後は、各自熱心に工夫を加えていた。途中うまく作れず悩んでいる児童を進んで手伝う児童も見られ、児童相互の関わり合いが深まった。

【押し花作り】

４、野菜畑見学

それぞれの宿の畑で、野菜畑の見学を行った。いろいろな種類の野菜を栽培されていることにほとんどの児童が驚いた様子であった。また、野菜畑の作物を~~を~~昼食の時に自分たちで調理し、うどんにして食べた。収穫の苦労と喜びを感じ取れたようであった。

＜生活体験活動＞

１、ジャム作り

各宿の指導で、「りんごジャム作り」を行った。児童の作文に「甘くておいしいりんごジャムが心に残った」という記述が多く見られ、子どもたちの印象にとても残ったようであった。出来上がったジャムはその場で試食し、東京にお土産として持ち帰った。自分のためだけでなく、家族や教師へのお土産として一生懸命作っている児童の姿が印象的であった。

２、田舎料理作り

それぞれの宿ごとにうどん作りを行った。うどんを手でこねたり、足で踏んだりしながら製麺機でうどんをきったり、ゆでたりすることをぎこちないながらも楽しんで取り組むことが出来ていた。「自分たちで作った料理はとてもおいしかった。」という意見が多く、東京に戻っても料理をしてみたいという声が聞かれた。

○児童の感想

・片品川上流の水の湧き所まで登りました。湧水を飲んだら、とてもおいしかったです。手がこおるほど冷たかったです。

・大白大豆で豆ふを作りました。ぼくたちのはんは他のはんよりあまくてこくのある豆にゅうが

できました。もう一度豆ふを作りたいです。

・りんごを一口かじったら、みつが飛び出しました。りんごはおいしいということを知りました。下が黄色のりんごがおいしいということも学びました。

・私が一番楽しかったのは、押し花でした。押し花にするのに、花や葉をつみに行ったときに、自然とふれあえるからです。上手にできました。

○保護者の感想

・クラスの仲間と共に過ごしたことで、今までよりも仲良くなって、お友達の幅がひろがりました。

・お友達との信頼関係ができたようで、たくさんのお友達の話をするようになりました。

・家に帰ってきてからも、自ら進んで布団をたたんで片付けたり、配膳を手伝ったりしてくれています。

・いろいろな体験をしたこと、クラスの仲間と宿に泊まったこと、いろいろな体験を経験したこと、すべてが本人に大きな自信をつけたと思います。

○総合的な学習の時間の視点から

事前学習で、片品村のりんご、大白大豆、こんにゃく、豆腐の作り方、水源について課題を設定し、各自パンフレットやインターネットなどの資料を使い調べた。調べたことを実際に見聞きし、子どもたちの理解を深めることが出来た。事後学習のプレセカンドスクールのまとめにもとても意欲的に活動できた。

○セカンドスクールとの関連について

・セカンドスクールでは日程的にゆとりのあるプログラムであるが、プレセカンドスクールでは、体験活動を多くし、充実感を味わわせることを目的とした。

・来年度のセカンドスクールにむけて、長期間、家庭を離れる生活をするための、身辺自立が出来るように配慮した。

・児童一人一人が事前学習で課題を明確にしたことで、課題を意識した活動をすることができ来年度の課題別学習につなげることが出来た。

○次年度に向けての反省・課題

今年度初めて「押し花作り」を体験活動に取り入れた。宿の周囲を散策しながらの植物採集はとても楽しく、里山の自然を直接感じるのによいものであった。次年度もぜひ取り入れたい。

片品川水源体験は、大雨や台風のため何通りものコースを考えておかなくてはならない。何年か積み重ねることで１案、２案とコースを増やしていくことが必要である。

プレセカンドスクール

関前南小学校　　9月14日～9月16日（2泊3日）

○日程表

９月１４日（水）		９月１５日（木）		９月１６日（金）	
7:30	出発式	6:30	起床・清掃	6:30	起床・清掃
7:45	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
10:00	ﾌｫﾚｽﾃｨﾝｸﾞｺﾃｰｼﾞ着	8:00	出発	8:30	出発
	・開校式	8:30	都民の森着	9:00	井上食品こんにゃく工場見学
10:30	林業体験	9:00	三頭山ハイキング	9:45	シクラメン栽培見学
12:30	昼食	11:00	三頭山山頂到着　昼食	10:30	井上食品発
13:15	水生昆虫観察	11:30	山頂出発	11:00	檜原小学校訪問
15:20	製材作業見学	13:30	木工教室・森林館見学		・ドッジボール大会
16:45	各民宿着・入浴	15:30	都民の森発	12:20	昼食
18:00	夕食	15:45	数馬分校記念館着	13:00	・払沢の滝見学
19:00	民宿の方との交流	16:45	各民宿着・入浴	14:30	檜原小学校発
20:00	健康観察・明日の準備	18:00	夕食	16:45	学校着
21:00	消灯	19:00	星の観察・学習の記録		帰校式
		20:00	健康観察・明日の準備	17:00	解散
		21:00	消灯		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

①　事前の学習内容

（１）　社会科において

檜原村の概要について、社会科副読本を使用して事前学習をした。檜原村の人々が地域の地形的・地理的特性を生かしてどのようなくらしをしているのだろうかという学習課題をもった。

（２）　理科において

水生昆虫とは何か、その種類、生息環境などについて学習した。パソコンを活用し、川に生息している水生昆虫について調べた。写真や説明から、どのような水生昆虫が生息しているのかを調べ、現地で探す際の手掛かりとした。

（３）学級活動において

檜原小学校との交流に向けて、相手校の児童をスムーズに受け入れられるように、予めグループを編成した。現地での活動として予定されているドッジボールに事前に取り組み、楽しく活動できるように準備を進めた。

東京都西多摩郡檜原村

参加人数　男子27名　女子25名
計　52名

②　事後の学習内容

（１）総合的な学習において

「檜原村を伝えよう」として、グループ別に体験したことをまとめ、３年生児童を対象に発表会を行った。それぞれのグループで発表した内容は次の通りである。

○地形・交通…檜原村の概要、道路、交通手段
○水生昆虫…秋川で観察した水生昆虫とその捕り方、活動の様子
○林業…間伐の方法、林業の大切さ、活動の様子
○自然…三頭山、木工教室、活動の様子
○産業…こんにゃくづくりの方法、シクラメン栽培の様子
○檜原小学校…学校の特徴、交流の様子
○宿舎…檜原村の旅館・民宿の特徴、宿舎の人の思い

（２）社会科において

「わたしたちの東京都」２　地形の特色を生かす～山地にくらす人々～

この単元では東京都の山地として檜原村が取り上げられている。そのため、プレセカンドスクールでの体験が学習に直結した。

（３）国語科において

手紙文の学習として、プレセカンドスクールでお世話になった方々や檜原小学校の児童に手紙を書いた。また、プレセカンドスクールでの体験を作文に表した。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

○林業体験として、ロープを幹にかけて倒す方向を定めてからのこぎりを用いての間伐体験を行った。
○秋川では水生昆虫を採集して観察した。
○三頭山ハイキングでは、三頭山の中腹にある三頭大滝を見学した。山頂に向かう途中に出会った様々な動植物については、都民の森のガイドの方から説明を受けた。
○都民の森の森林館では、自然に関する展示を見学して、理解を深めた。都民の森スタッフの方より、野生の鳥についてのお話を聞いた。

＜学習体験活動＞

○林業体験では、地元のキャリア 30 年～50 年の熟練した講師の方々から森林の保全や管理、植林などについての話を聞いた。手厚い指導を受けることができた。（子ども 10 名あたり 1 人の講師）
○檜原村の土地の利用の仕方を見て、学校で学習してきたことを確かめた。
○「都民の森」の木工教室で、杉板から型どりをして、電動のこぎりでキーホルダーを作った。
○檜原小学校数馬分校記念館では昔の檜原村のくらしについて話を聞いた。
○檜原村の特産物であるシクラメン作りの様子やこんにゃく工場の見学を行った。

＜生活体験活動＞＜地域の人々とのふれあい＞

○１日目の夜に宿舎の方と各宿で交流した。各宿が趣向を凝らし、檜原村の特産物であるこんにゃくやジャガイモスープ、ルバーブジャムづくりをして交流した。宿の方との交流を深めるとともに、自分たちで協力してつくる作業は子どもにとって貴重な経験であった。

○こんにゃく工場見学では、檜原村ならではのこだわりのこんにゃく作りについて話を聞くことができた。また、できあがったこんにゃくを実際に試食させてもらい、味を確かめた。

○檜原小学校の子どもたちと交流した。午前中は体育館で自己紹介ゲームやドッジボールを通して交流を深めた。また、昼食も一緒に食べることでお互いに仲良くなることができた。午後はグループごとに、檜原小学校の児童が本校の児童を払沢の滝まで案内し、説明をしてくれた。各グループに指導員も入り、自然に親しむことができた。

○児童の感想

○一番楽しかったことは、三頭山登山です。山の中はすずしくて気持ちよく山登りをすることができました。頂上では、この時期にはめずらしいという富士山を見ることができてとてもうれしかったです。こんなにきれいな自然が残っていることを初めて知りました。これからも、自然を大切にしていきたいです。

○林業体験が心に残っています。私はふだん、木を切るのは悪いことだと思っていました。でも、林業の先生に話を聞いて、森を守っていくためには木を切ることも、とても大切なのだということが分かりました。木を切るときは、大きな木が音をたててたおれてくるので、とてもドキドキしました。みんなで協力して木を切れてうれしかったです。

○数馬分校記念館に行きました。昔の学校は、ぼくの通っている小学校とは全くちがいました。建物や校庭も小さくて、何だか普通の家みたいでした。中に入ると、昔の小学校の道具や遊びの道具、写真などがかざってあって、とてもおもしろかったです。人数も少なくて、ぼくたちとはちがうこともたくさんあったけれど、勉強したり運動したり昔の人もみんな一生けん命だったのだなと思いました。

○わたしがとまった宿には、ご主人の小さい子どもがいてとてもかわいかったです。初めてとまる場所だったので、きんちょうしていたけれど、宿の方はとてもやさしくて、すぐになれることができました。ごはんがおいしくて、心をこめてつくってくれているのだなと思いました。もしきかいがあったら、家ぞくといっしょにまたとまりに行きたいです。

○保護者の感想

○プレセカンドスクール中に体調をくずさないように、早寝早起きを習慣づけました。それ以来、起きる時間も早くなって規則正しい生活を送れています。

○特に不安もなくむしろ期待感の方が大きかったようです。いろいろな役割も与えられ、はりきっていました。ふだん話したことのない友達とも楽しく活動し、交流の幅を広げることができました。

○檜原小学校との交流が楽しかったそうです。檜原小の子どもたちの友達へのやさしさに感心していました。

○家では与えられた物を食べるだけですが、宿舎で生活をして、準備や後片付けを協力してやったことが楽しかったようです。帰ってからも進んで手伝うようになりました。

○総合的な学習の時間の視点から

【三頭山登山の様子】

○事前学習では、檜原村の特色を社会科の学習を通して学習した。
○事前に、プレセカンドスクール中に見学する施設や講師の先生の紹介をし、質問内容を考えさせた。
○事後学習では、現地では分かり得なかったことに関して、資料収集をして課題を解決した。また、まだ檜原村のことを知らない３年生にも分かるように、写真を選び、添付した。
○発表原稿をそのまま読んでは聞き手が飽きてしまうので、発表の中にクイズを取り入れたり、現地でもらったものを紹介したりした。発表形態の工夫を考えさせることで、表現力を高めることができた。

○セカンドスクールとの関連について

○学校で行う初めての集団宿泊体験なので、心構えや集団生活の指導に重点をおいた。
○現地の方との交流を大切にし、気持ちのよい挨拶や、感謝する意義を話した。
○持ち物の準備や片づけ、部屋の整理整頓などができるよう意識付けしてきた。
○セカンドスクールで茶屋池・ブナ林ハイキングを行うので、準備として三頭山登山を実施した。
○セカンドスクールでも、林業体験を予定している。高学年の視点からより深まった学習になるように、今年度の林業学習を行った。

○次年度に向けての反省・課題

○三頭山登山では、全員が無事に登山を終えることができた。途中休憩を兼ねて、都民の森のガイドの方から話をしていただいたことも良かった。経路にトイレがほとんどないため、登山前には全員が必ずすませてから行くようにしたが、それでも厳しかった。頂上手前にあるトイレを有効に使うなど、方策を考える必要がある。
○檜原小学校との交流は、とても有意義だった。しかし、檜原小の児童数減少の影響もあり、人数比率的にアンバランスであった。児童の実態にもよるが、グループでの活動をより多く取り入れるなど、活動を精選していく必要がある。
○学校で行う初めての集団宿泊体験なので、共通した生活のルールを身に付けさせる必要がある。民宿に分泊する方法をとっているため、民宿の方との交流は密になり貴重な経験が積める反面、宿での過ごし方に若干の違いが出てしまった。対策として、指導員との綿密な事前打合せを行い、ルールや活動の仕方を統一する必要がある。また、長期的な視点からは、宿を１か所に統一するなど、様々な方法を検討していくべきである。

プレセカンドスクール

桜野小学校　　9月20日～9月22日（2泊3日）

○日程表

９月２０日（火）		９月２１日（水）		９月２２日（木）	
8:00	学校集合・出発式	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
8:15	学校発（バス）	7:30	朝食・片付け	7:30	朝食
11:00	(有)ぶどうばたけ着	9:00	集合・ホテル発	8:00	荷物の準備・大掃除
11:30	農作業体験	9:30	さかな公園	8:30	閉校式、ホテル発
12:00	昼食	12:30	ホテル着・昼食	9:30	富士山五合目着
13:00	農作業体験	13:15	俳句作り		御中道巡り
14:00	(有)ぶどうばたけ発			12:00	五合目着・昼食
15:30	ホテル着	16:00	入浴	13:00	五合目発
15:40	開校式	18:00	夕食、片付け	14:45	談合坂ＳＡ
16:00	荷物整理、避難訓練				
16:30	入浴	19:15	魚の絵	15:45	学校着・解散式
18:00	夕食	20:30	活動のまとめ	16:15	解散
19:15	絵手紙書き	20:45	健康観察・就寝準備		
21:00	就寝	21:00	就寝		

○プレセカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

・河口湖周辺の自然を知ろう（総合的な学習の時間）

河口湖周辺の自然について、様々な視点からテーマを考え、調べ学習をした。調べたことをもとに自然など様々な事象に進んで働きかけていく意欲を高めていくことをねらった。富士山について調べたり、淡水魚について調べたり、忍野八海について調べたり、様々なテーマから河口湖周辺の自然に迫ることができた。

・集団生活における指導（学級活動）

児童が生活の流れやその日の活動の特色やねらいをつかみ、主体的に活動できるように、事前に説明をした。また、係活動として、プレセカンド期間中の役割を分担し、仕事の内容について話し合う場を設けた。また、「自分で考え、自分から行動」のスローガンを設定して、事前の活動から児童に意識させ取り組んだ。期間中も児童は、常に意識して行動できて、素晴らしい成果につながった。

山梨県河口湖町

参加人数　男子47名　女子39名
計86名

②　事後の学習内容

・一番の思い出を作文にまとめる
・共通のテーマから、それぞれの発表形式にまとめる。役割分担をし、発表する。
・保護者へ…自分たちの生活の様子の感想を書き、Ｂ４版用紙に写真と共に載せて、「プレセカンド報告」として配った。

○特色ある活動内容

＜自然体験活動＞

１、富士山五合目でのトレッキング

３日目は、朝から晴れ上がり、大きくて雄大な富士山がホテルの窓から見ることができた。子どもたちはここに来て初めての富士山にビックリ。念願の富士山五合目トレッキングもできそうなので、朝から活気に満ちあふれた。閉校式やホテルの方に元気な声でのあいさつも終わり、バスで五合目をめざした。スバルラインの途中にメロディーロードがあり、美しい音色にみんなで聞き入ってしまうほどだった。五合目に到着し、バスから降りた子どもの第一声が「寒いよ～！」だった。それほどまでの違いに驚きながらも、全員そろって元気にトレッキングに出発。左手に富士山の山頂を、右手には、雲海やその先に広がる下界までの大パノラマを眺めながら気持ちよく歩いた。時間的にも余裕があったため、途中で何回も休憩を入れ、思い思いの写真も何枚も撮ってもらったりしながら、バスの待つ「御庭」に到着。バスで五合目に戻り、昼食。ボリュームたっぷりのおにぎり弁当をおいしくいただき、子どもたちみんなが大満足で、学校に向け出発した。

＜学習体験活動＞

１、さかな公園

１日目午後から台風直撃予想の中、午前中なら大丈夫だろうと判断し、豪雨の中バスで「さかな公園」に向かった。淡水魚ばかりの水族館だが、１ｍ以上もある魚もいて子どもたちは目を輝かせながら熱心に観察できた。また、二重構造の水槽の中に、違う種類の魚が泳ぐのにも興味津津。途中に「あゆの一生」の映画上映もあり、２時間以上の滞在だったが子どもたちは飽きる事もなく熱心に活動ができた。

２、ホテルでの俳句作り

２日目の午後は、台風が上陸しホテルの外は激しい風と雨が吹き荒れていた。そんな中で、学校から持参した高級和紙を使い、今までの河口湖での生活を振り返り、俳句にまとめる活動を行った。11 月の展覧会に出展する作品でもあり、子どもたちは外の豪雨など１人も気にすることなく、熱心に取り組んだ。最初は、普段使ったこともない和紙に直接筆を入れるこ

とにためらいがちだったのが、２枚・３枚と進むにつれて、絵も言葉もそれぞれ自分の特徴を出し始めた。２時間余りの活動だったが、時間を忘れるほどの取り組みで、子どもたちも大満足の作品が仕上がった。

＜生活体験活動＞

1、ぶどう畑農作業体験

１日目の最初に、収穫体験をした。農家の人から「大きいのよりは、小さいのが甘いよ」の説明を聞いた子どもたちは、それまでは大きいのばかり探していたのが、いろいろ自分で考えて選ぶ姿があった。その後、ぶどう畑にビニールシートを敷いて昼食を食べ、午後の農作業活動に入った。①ビニールカバー拭き　②まきひげ取り　③雑草取り　を 20 分ずつローテーションして全てを体験した。少しずつの体験だったが、子どもたちは農家の人の苦労を感じたようだった。最後に、感謝の気持ちを胸にバスに乗って、ホテルに向かった。

○児童の感想

・ぶどう畑の中でのまきひげ取りや草取りなどの農業体験が一番楽しかったです。
・大雨の中、ぶどう畑での農業体験は大変でした。ぶどう畑で働く人達の大変さを知りました。
・農業体験は大変だったけど、どろまみれでもがんばりました。
・部屋で「カンフーごっこ」していたら、先生がギターを弾いてびっくりしました。
・ぼくが一番楽しかったのは、みんなと一緒にホテルで寝たことです。お風呂にみんなで入ったことも楽しかったです。
・さかな公園でベステルというチョウザメがモグラみたいな顔なのに、一番大きいことに驚きました。
・さかな公園に行って 70 種類もの魚が見ることができてうれしかったです。
・魚が好きなので、さかな公園が一番心に残りました。いろいろなことを発見できてうれしかったです。
・一番楽しかったことは、俳句作りです。展覧会に出す作品ができたのでよかったです。
・俳句作りで、「夏すぎて　秋がはじまる　河口湖」というのを作りました。できてよかったです。
・富士山五合目トレッキングはきつかったけど、空気は冷たくておいしかったです。
・五合目トレッキングをしました。溶岩のかたまった石などがありました。絶景ポイントがすごかったです。
・富士山五合目トレッキングが一番楽しかったです。雲海が見えたのがすごくきれいでよかったです。
・ぼくは、レクレーション係なのでみんなが楽しめるようにがんばりました。みんな笑ってくれてよかったです。

○保護者の感想

・台風が迫っている中、とても心配しましたが楽しく過ごせて安心しました。
・クラスの仲間との初めての宿泊で、さらに仲良くなって喜んでいます。
・心配したけど台風もまたいい経験になったようで良かったです。
・ぶどうの収穫が、すごくうれしかったようです。

○総合的な学習の時間の視点から

１学期の総合的な学習の時間では、進んで課題を見つけ、関心を深めながら学習を進めることができ、自然や周囲の人に進んではたらきかけていけることをねらった。現地では、一人一人が自分の課題意識をもって、それぞれの活動に取り組んだ。現地指導員へも積極的に自分の疑問を投げかけ、課題を解決することができた。学校に戻った後は、事前学習と現地での体験をまとめ、自分の体験をより明確に示すことができた。

事前・現地・事後を通して、「課題をつかむ、調べる、見る、触る、感じる、まとめる、伝える」という学習の流れを体験できた。これは、今後の総合的な学習を始めとする様々な学習活動に有効的な体験である。

○セカンドスクールとの関連について

・学年合同で様々な活動を行うことで、連帯感を育て、集団として活動すること、協力することのよさを味わえるようにすることができた。
・現地指導員や生活指導員など、大人との関わりに目を向ける指導を重ねた。子どもたちは、自分たちの活動を支える様々な方々の願いや努力を知り、感謝の気持ちを持つことができた。
・公共のマナーや集団生活のルールについて、十分に指導し、活動に取り組ませた。その結果、宿泊を伴う学習の際、子どもたちへ配慮することや課題点も明確になり、来年度の長期宿泊に向けて、今後の指導の参考になった。

○次年度に向けての反省・課題

・台風が確実に上陸するという状況の中での出発だった。全ての予定を変更しながらも、ある程度の満足できる内容の活動ができた。ただ、判断を誤れば活動全てができないという事態も考えられた。また、児童が事故に巻き込まれる可能性も無かったとは言えない。中止も含めた判断の仕方、方法等、事前に確認する必要を感じた。

【富士山五合目でのお弁当】

平成24年３月30日発行

武蔵野市教育委員会

教育部指導課

〒 180-8777

武蔵野市緑町２－２－２８

TEL 0422-60-1897
FAX 0422-51-9264